

ちば

平成 29 年度

第 55 回

# 県政に関する世論調査

## 報 告 書

平成 30 年 5 月

千 葉 県



## は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識や、県政に対してどのような関心や、期待などを持っておられるかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

平成18年度からは年2回実施しており、今回は平成29年度第2回目の調査で、県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に、昨年12月から今年1月にかけて郵送法で実施しました。

具体的内容としては、「電話de詐欺に関する県民の意識」、「消費生活」、「人生の最終段階における医療や療養への希望」、「高齢者が地域で暮らし続けるための施策」、「障害者施策」、「男女共同参画社会の実現」、「食育」、「環境保全に関する取組」の8項目について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や諸事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、この調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

平成30年5月

千葉県総合企画部長 今泉 光幸



# 目次

調査の概要	1
調査の結果 調査結果の解説	13
1 電話 d e 詐欺に関する県民の意識について	15
（ 1 ）名称の認知度	15
（ 2 ）電話 d e 詐欺の手口に対する知識	17
（ 3 ）電話 d e 詐欺への対策	19
（ 4 ）電話 d e 詐欺への対策を取っていない理由	21
（ 5 ）電話 d e 詐欺の手口を知った媒体	23
（ 6 ）電話 d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体	25
2 消費生活について	28
（ 1 ）消費者トラブルにあった際の「安心して相談できる場所」の有無	28
（ 2 ）消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無	30
（ 3 ）「悪質商法」に対する考え	32
（ 4 ）消費者教育の機会に対する考え	34
（ 5 ）買い物を行う際の「環境や人にやさしい商品の選択を 意識した行動」の有無	36
（ 6 ）消費者トラブルなどにあわないために県や市町村へ求めること	38
3 人生の最終段階における医療や療養への希望について	41
（ 1 ）延命治療の希望	41
（ 2 ）延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望	43
4 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について	46
（ 1 ）介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか	46
（ 2 ）介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか	48
（ 3 ）現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由	50
（ 4 ）地域で暮らし続けることを希望する高齢者の 生活を支えるために、特に県に求めること	52
（ 5 ）高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか	54
（ 6 ）高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか	56

5	障害者施策について -----	59
	( 1 ) 障害のある人に対する支援経験 -----	59
	( 2 ) 障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無 -----	61
	( 3 ) 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」 認知状況 -----	63
	( 4 ) 「障害者差別解消法」認知状況 -----	65
6	男女共同参画社会の実現について -----	68
	( 1 ) 男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組 -----	68
	( 2 ) 男女共同参画センターで充実させるべき事業 -----	70
7	食育について -----	73
	( 1 ) 食育への関心度 -----	73
	( 2 ) 食育に関心を持ったきっかけ -----	75
	( 3 ) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか -----	77
	( 4 ) 農林漁業体験の参加状況 -----	79
	( 5 ) 食に関わる文化の認知状況 -----	81
	( 6 ) 食に関わる文化の伝承について -----	83
8	環境保全に関する取組について -----	86
	( 1 ) 環境保全に関する講演やセミナー、 環境ボランティア活動への参加状況 -----	86
9	自由回答 -----	89
	( 付 ) 調査票および単純集計結果 -----	97

## 調査の概要





# 調 査 の 概 要

## 1．調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

## 2．調査の項目

県政の主要課題

電話 d e 詐欺に関する県民の意識について

消費生活について

人生の最終段階における医療や療養への希望について

高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

障害者施策について

男女共同参画社会の実現について

食育について

環境保全に関する取組について

## 3．調査の設計

（１）調査地域 千葉県全域

（２）調査対象 満18歳以上の男女個人

（３）標本数 3,000人

（４）抽出方法 層化二段無作為抽出法

層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

（５）調査方法 郵送法（郵送配付 - 郵送回収）

（６）調査時期 平成29年12月22日～平成30年1月17日

## 4．調査機関

株式会社 エスピー研

## 5．回収結果

標本数	（ A ）	3,000件
総回収数	（ B ）	1,400件
	有効回収数（ C ）	1,394件
	無効回収数	6件
回収率	（ B / A ）	46.67%
有効回収率	（ C / A ）	46.47%

## 標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の男女個人

標本数：3,000人

地点数：市部 193地点

郡部 7地点

計 200地点

抽出法：層化二段無作為抽出法

### [ 層 化 ]

1．県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該 当 市 郡 名
千葉地域	千葉市、市原市
葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
香取地域	香取市、香取郡
海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
長生地域	茂原市、長生郡
夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2．各地域内においては、  
さらに市部、郡部に分け、層とした。

（注）ここでいう市とは、  
平成29年4月1日現在市制施行の  
地域をさす。



## 〔標本数の配分〕

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（平成29年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

## 〔抽出〕

- 平成27年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
  - 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、  

$$\left( \frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
  - 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
  - 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	市部	郡部	計
千葉地域	1,053,469 600 40	0 0 0	1,053,469 600 40
葛南地域	1,388,053 780 52	0 0 0	1,388,053 780 52
東葛飾地域	1,255,918 705 47	0 0 0	1,255,918 705 47
印旛地域	575,540 330 22	36,918 15 1	612,458 345 23
香取地域	68,718 45 3	31,279 15 1	99,997 60 4
海匝地域	146,113 75 5	0 0 0	146,113 75 5
山武地域	141,152 75 5	42,448 30 2	183,600 105 7
長生地域	78,444 45 3	53,644 30 2	132,088 75 5
夷隅地域	51,210 30 2	15,385 15 1	66,595 45 3
安房地域	106,050 60 4	7,408 0 0	113,458 60 4
君津地域	279,610 150 10	0 0 0	279,610 150 10
計	5,144,277 2,895 193	187,082 105 7	5,331,359 3,000 200

（注）上段は満18歳以上の人口（平成29年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

## 調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
千葉地域	千葉市中央区市場町	15	千葉地域	市原市五井中央西2丁目	15
	千葉市中央区旭町	15		市原市八幡北町1丁目	15
	千葉市中央区中央港1丁目	15		市原市ちはら台南5丁目	15
	千葉市中央区弁天1丁目	15		市原市桜台4丁目	15
	千葉市中央区大森町	15		市原市久保	15
	千葉市中央区仁戸名町	15	葛南地域	市川市北方2丁目	15
	千葉市中央区今井3丁目	15		市川市大和田1丁目	15
	千葉市花見川区花園町	15		市川市菅野1丁目	15
	千葉市花見川区幕張町2丁目	15		市川市鬼高3丁目	15
	千葉市花見川区朝日ヶ丘4丁目	15		市川市大洲1丁目	15
	千葉市花見川区幕張本郷5丁目	15		市川市宮久保6丁目	15
	千葉市花見川区作新台2丁目	15		市川市高谷3丁目	15
	千葉市花見川区柏井町	15		市川市市川南4丁目	15
	千葉市稲毛区轟町4丁目	15		市川市曾谷1丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台6丁目	15		市川市妙典6丁目	15
	千葉市稲毛区萩台町	15		市川市曾谷7丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台7丁目	15		市川市塩焼3丁目	15
	千葉市稲毛区長沼町	15		市川市中国分4丁目	15
	千葉市若葉区桜木5丁目	15		市川市末広2丁目	15
	千葉市若葉区若松町	15		市川市湊新田1丁目	15
	千葉市若葉区東寺山町	15		市川市欠真間2丁目	15
	千葉市若葉区千城台西1丁目	15		市川市新井3丁目	15
	千葉市若葉区下田町	15		船橋市本町7丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野中央3丁目	15		船橋市宮本6丁目	15
	千葉市緑区茂呂町	15		船橋市日の出2丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘3丁目	15		船橋市本郷町	15
	千葉市美浜区真砂5丁目	15		船橋市西船3丁目	15
	千葉市美浜区打瀬1丁目	15		船橋市山手3丁目	15
	千葉市美浜区稲毛海岸4丁目	15		船橋市夏見6丁目	15
	千葉市美浜区高浜5丁目	15		船橋市前貝塚町	15
	千葉市美浜区幸町1丁目	15		船橋市藤原7丁目	15
	市原市西国分寺台1丁目	15		船橋市二和西2丁目	15
	市原市山木	15		船橋市みやぎ台2丁目	15
	市原市潤井戸	15		船橋市坪井東5丁目	15
	市原市今津朝山	15		船橋市南三咲2丁目	15

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
葛南地域	船橋市芝山7丁目	15	東葛飾地域	松戸市串崎南町	15
	船橋市習志野台5丁目	15		松戸市殿平賀	15
	船橋市飯山満町2丁目	15		松戸市六高台7丁目	15
	船橋市薬円台6丁目	15		野田市山崎新町	15
	船橋市三山1丁目	15		野田市宮崎	15
	船橋市前原西8丁目	15		野田市岩名（大字）	15
	習志野市津田沼4丁目	15		野田市船形	15
	習志野市秋津4丁目	15		柏市柏3丁目	15
	習志野市奏の杜3丁目	15		柏市豊四季台4丁目	15
	習志野市泉町2丁目	15		柏市柏（大字）	15
	習志野市実籾3丁目	15		柏市新柏1丁目	15
	八千代市高津東4丁目	15		柏市豊四季	15
	八千代市ゆりのき台7丁目	15		柏市若柴	15
	八千代市村上団地3街区	15		柏市北柏3丁目	15
	八千代市勝田台1丁目	15		柏市南逆井3丁目	15
	八千代市八千代台北10丁目	15		柏市光ヶ丘2丁目	15
	八千代市八千代台北1丁目	15		柏市南柏中央	15
	浦安市当代島1丁目	15		柏市小青田	15
	浦安市海楽2丁目	15		柏市藤ヶ谷	15
東葛飾地域	浦安市堀江6丁目	15		流山市平和台1丁目	15
	浦安市美浜2丁目	15		流山市向小金4丁目	15
	浦安市日の出1丁目	15		流山市南流山3丁目	15
	松戸市仲井町2丁目	15		流山市西初石5丁目	15
	松戸市小山	15		流山市十太夫	15
	松戸市南花島2丁目	15		流山市東深井	15
	松戸市稔台8丁目	15		我孫子市我孫子2丁目	15
	松戸市二十世紀が岡柿の木町	15		我孫子市つくし野2丁目	15
	松戸市古ヶ崎4丁目	15		我孫子市天王台2丁目	15
	松戸市常盤平陣屋前	15		我孫子市中峠	15
	松戸市常盤平4丁目	15		鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷1丁目	15
	松戸市河原塚	15		鎌ヶ谷市初富本町1丁目	15
	松戸市西馬橋幸町	15		鎌ヶ谷市丸山1丁目	15
	松戸市新松戸2丁目	15		鎌ヶ谷市くぬぎ山5丁目	15
	松戸市中和倉	15	印旛地域	成田市不動ヶ岡	15
	松戸市小金原3丁目	15		成田市加良部5丁目	15
	松戸市五香7丁目	15		成田市中台1丁目	15

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
印旛地域	成田市公津の杜4丁目	15	山武地域	東金市田間2丁目	15
	成田市西三里塚	15		東金市幸田	15
	佐倉市宮前1丁目	15		山武市埴谷	15
	佐倉市染井野5丁目	15		大網白里市大網	15
	佐倉市王子台6丁目	15		大網白里市南横川	15
	佐倉市上座	15		山武郡九十九里町片貝	15
	佐倉市上志津	15		山武郡横芝光町宮川	15
	四街道市栗山	15	長生地域	茂原市長清水	15
	四街道市四街道1丁目	15		茂原市上永吉	15
	四街道市千代田3丁目	15		茂原市緑ヶ丘4丁目	15
	八街市文違	15		長生郡一宮町一宮	15
	八街市八街へ	15		長生郡白子町八斗	15
	八街市滝台	15	夷隅地域	勝浦市植野	15
	印西市原山2丁目	15		いすみ市大野	15
	印西市西の原3丁目	15		夷隅郡大多喜町泉水	15
	印西市安食ト杭	15	安房地域	館山市国分	15
	白井市堀込3丁目	15		館山市正木	15
	白井市富塚	15		鴨川市北風原	15
	富里市御料	15		南房総市千倉町南朝夷	15
	印旛郡酒々井町酒々井	15	君津地域	木更津市朝日2丁目	15
香取地域	香取市磯山	15		木更津市新田3丁目	15
	香取市八日市場	15		木更津市羽鳥野6丁目	15
	香取市山倉	15		木更津市本郷1丁目	15
	香取郡多古町多古	15		君津市中野1丁目	15
海匝地域	銚子市愛宕町（大字）	15		君津市人見（大字）	15
	銚子市小浜町	15		君津市西原	15
	旭市川口	15		富津市千種新田	15
	旭市米込	15		富津市竹岡	15
	匝瑳市野手	15		袖ヶ浦市蔵波台2丁目	15

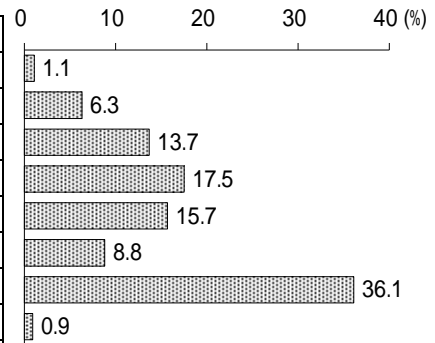
## 回答者の属性

### 1. 性

	基数	構成比	
1 男性	650	46.6	
2 女性	733	52.6	
（無回答）	11	0.8	
全 体	1,394	100.0	

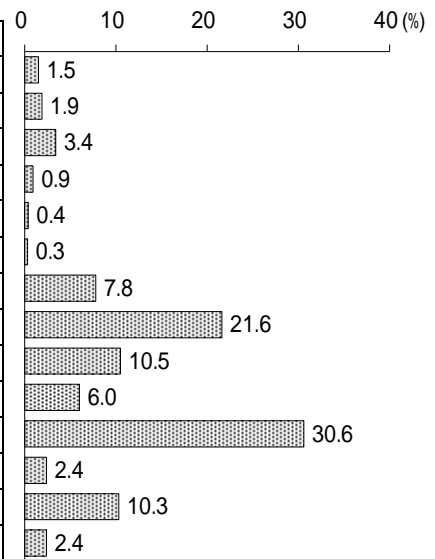
## 2. 年 代

	基数	構成比
1 18～19歳	15	1.1
2 20代	88	6.3
3 30代	191	13.7
4 40代	244	17.5
5 50代	219	15.7
6 60～64歳	122	8.8
7 65歳以上	503	36.1
(無回答)	12	0.9
全 体	1,394	100.0



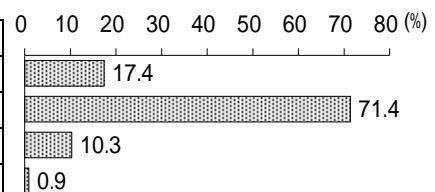
## 3. 本人職業

	基数	構成比
自営業	1 農林漁業	21 1.5
	2 商工サービス業	26 1.9
	3 自由業	47 3.4
従業家族者	4 農林漁業	13 0.9
	5 商工サービス業	6 0.4
	6 自由業	4 0.3
勤め人	7 管理職	109 7.8
	8 専門技術・事務職	301 21.6
	9 販売・サービス職	147 10.5
	10 労務職	84 6.0
無職	11 主婦・主夫	426 30.6
	12 学生	33 2.4
	13 その他	143 10.3
(無回答)	34	2.4
全 体	1,394	100.0



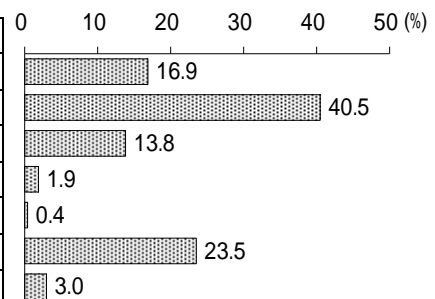
## 4. 未既婚

	基数	構成比
1 未婚	242	17.4
2 既婚（配偶者有）	995	71.4
3 既婚（配偶者離死別）	144	10.3
(無回答)	13	0.9
全 体	1,394	100.0



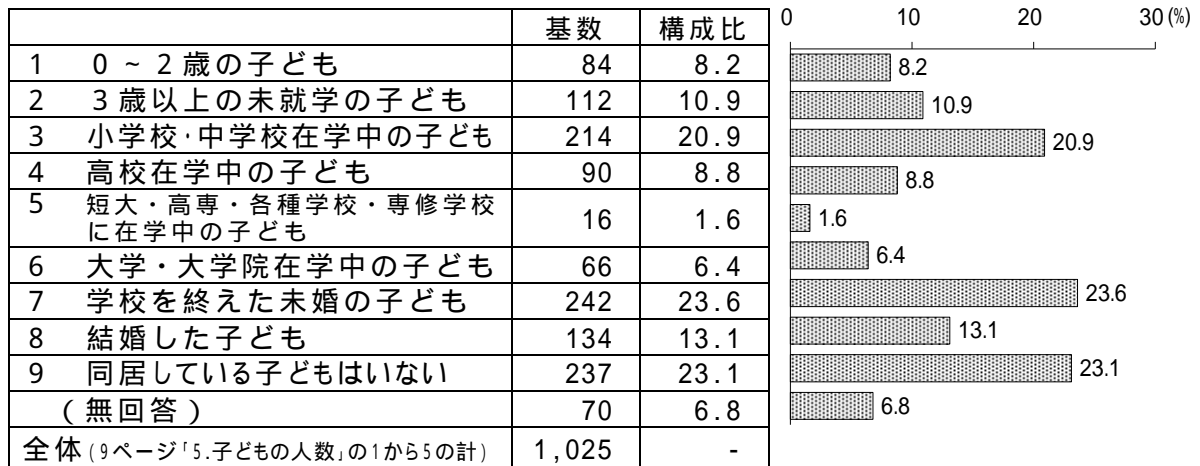
## 5. 子どもの人数

	基数	構成比
1 1人	235	16.9
2 2人	565	40.5
3 3人	192	13.8
4 4人	27	1.9
5 5人以上	6	0.4
6 子どもはいない	327	23.5
(無回答)	42	3.0
全 体	1,394	100.0



## 6．子どもの成長段階

1人の回答者が複数回答で行う設問であるため、基数・構成比ともに選択項目の合計が全体数を上回る。



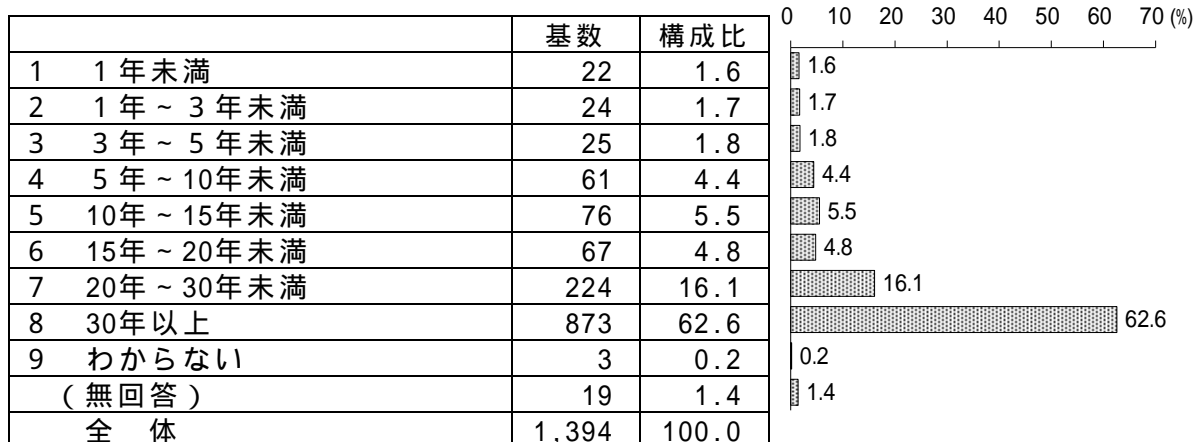
## 7．家族構成



## 8．高齢者の同居の有無

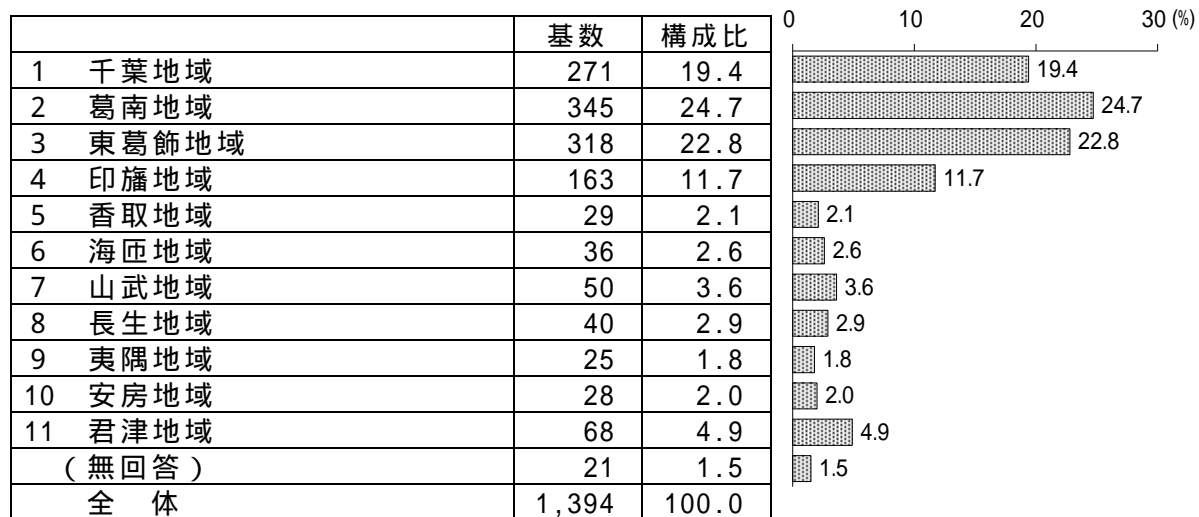


## 9．県内居住年数





## 10. 地 域



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （１）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （２）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- （３）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （４）地域別、性・年齢別の分析において、サンプル数の少ない属性の分析については、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析でふれていない場合がある。
- （５）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = \sqrt{2 \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差  
 N = 母集団数  
 n = 比率算出の基数（サンプル数）  
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数	1,394人	± 2.27%	± 3.03%	± 3.47%	± 3.71%	± 3.79%
千葉地域	271	± 5.15%	± 6.87%	± 7.87%	± 8.42%	± 8.59%
葛南地域	345	± 4.57%	± 6.09%	± 6.98%	± 7.46%	± 7.61%
東葛飾地域	318	± 4.76%	± 6.34%	± 7.27%	± 7.77%	± 7.93%
印旛地域	163	± 6.65%	± 8.86%	± 10.15%	± 10.85%	± 11.08%
香取地域	29	± 15.76%	± 21.01%	± 24.07%	± 25.73%	± 26.26%
海匝地域	36	± 14.14%	± 18.86%	± 21.60%	± 23.09%	± 23.57%
山武地域	50	± 12.00%	± 16.00%	± 18.33%	± 19.60%	± 20.00%
長生地域	40	± 13.42%	± 17.89%	± 20.49%	± 21.91%	± 22.36%
夷隅地域	25	± 16.97%	± 22.63%	± 25.92%	± 27.71%	± 28.28%
安房地域	28	± 16.04%	± 21.38%	± 24.49%	± 26.19%	± 26.73%
君津地域	68	± 10.29%	± 13.72%	± 15.72%	± 16.80%	± 17.15%
男性	650	± 3.33%	± 4.44%	± 5.08%	± 5.43%	± 5.55%
女性	733	± 3.13%	± 4.18%	± 4.79%	± 5.12%	± 5.22%

調 査 の 結 果

調査結果の解説



# 1 電話d e 詐欺に関する県民の意識について

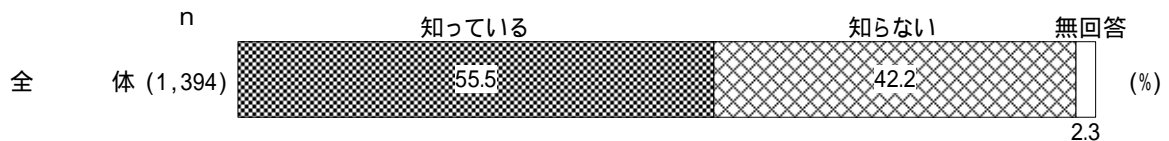
## （１）名称の認知度

「知っている」が５割台半ば

急増する電話d e 詐欺の被害を防止するために、県警や県では様々な広報方法を使って県民に電話d e 詐欺に関する情報を提供しています。

問１ 県では、「振り込め詐欺」をはじめとする「特殊詐欺」に代え、「電話d e 詐欺」の名称を用いています。あなたは、この名称を知っていますか。（ は１つ）

<図表１－１> 名称の認知度



「電話d e 詐欺」の名称を知っているか聞いたところ、「知っている」(55.5%)が５割台半ばとなっている。

一方、「知らない」(42.2%)は４割を超えている。(図表１－１)

### 【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“夷隅地域”(88.0%)が約９割、“安房地域”(85.7%)が８割台半ば、“山武地域”(74.0%)が７割台半ば、“海匝地域”(72.2%)が７割を超えて高くなっている。

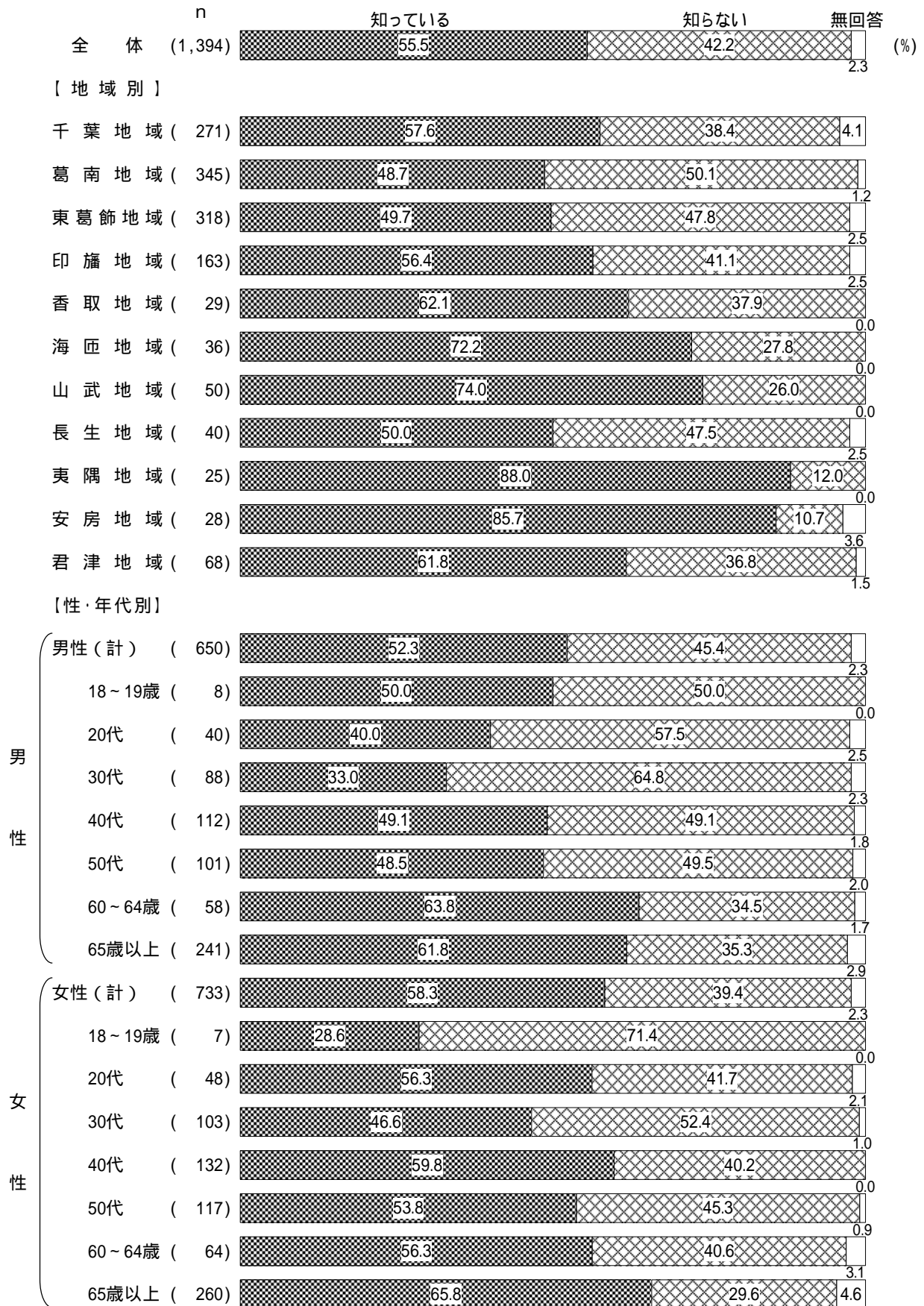
一方、「知らない」は“葛南地域”(50.1%)が５割、“東葛飾地域”(47.8%)が約５割で高くなっている。(図表１－２)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性の60～64歳(63.8%)と女性の65歳以上(65.8%)が６割台半ば、男性の65歳以上(61.8%)が６割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の30代(64.8%)が６割台半ば、男性の20代(57.5%)が約６割、女性の30代(52.4%)が５割を超えて高くなっている。(図表１－２)

<図表1 - 2> 名称の認知度 / 地域別、性・年代別

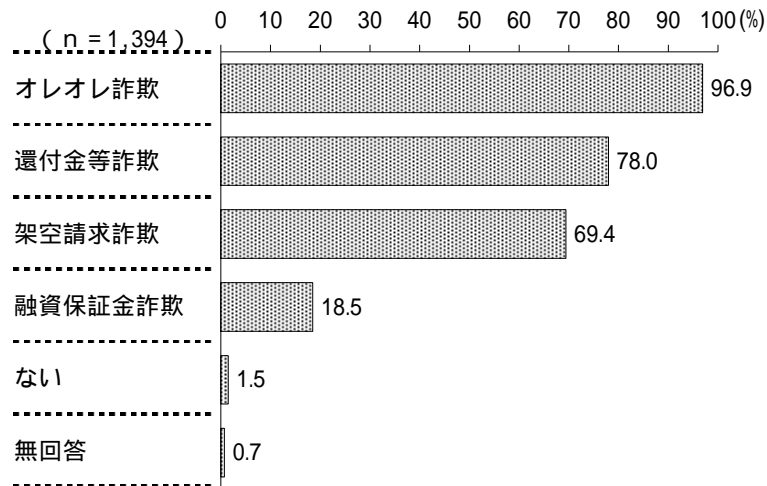


## （２）電話d e 詐欺の手口に対する知識

「オレオレ詐欺」が９割台半ば

問２ 電話d e 詐欺のうち、あなたの知っている手口はどれですか。（はいいくつでも）

<図表１－３> 電話d e 詐欺の手口に対する知識（複数回答）



電話d e 詐欺のうち、知っている手口を聞いたところ、「オレオレ詐欺」(96.9%)が９割台半ばで最も高く、以下、「還付金等詐欺」(78.0%)、「架空請求詐欺」(69.4%)、「融資保証金詐欺」(18.5%)が続く。(図表１－３)

### 【地域別】

地域別にみると、「還付金等詐欺」は“長生地域”(87.5%)が約９割、“千葉地域”(83.8%)が８割台半ばで高くなっている。(図表１－４)

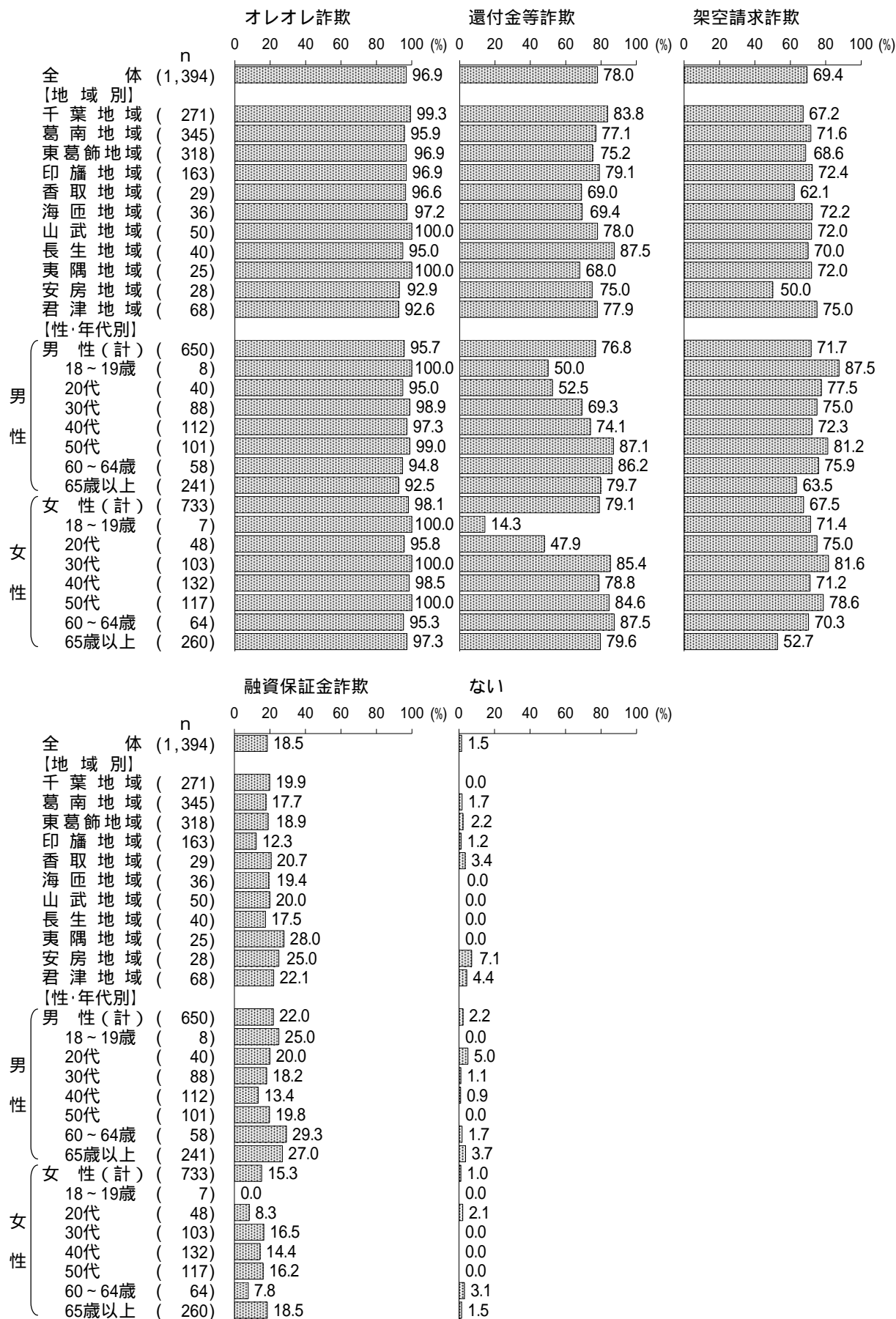
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「還付金等詐欺」は男性の50代(87.1%)と女性の60～64歳(87.5%)が約９割で高くなっている。

「架空請求詐欺」は男性の50代(81.2%)と女性の30代(81.6%)が８割を超えて高くなっている。

「融資保証金詐欺」は男性の60～64歳(29.3%)、65歳以上(27.0%)が約３割で高くなっている。(図表１－４)

<図表1 - 4> 電話de詐欺の手口に対する知識（複数回答）／地域別、性・年代別



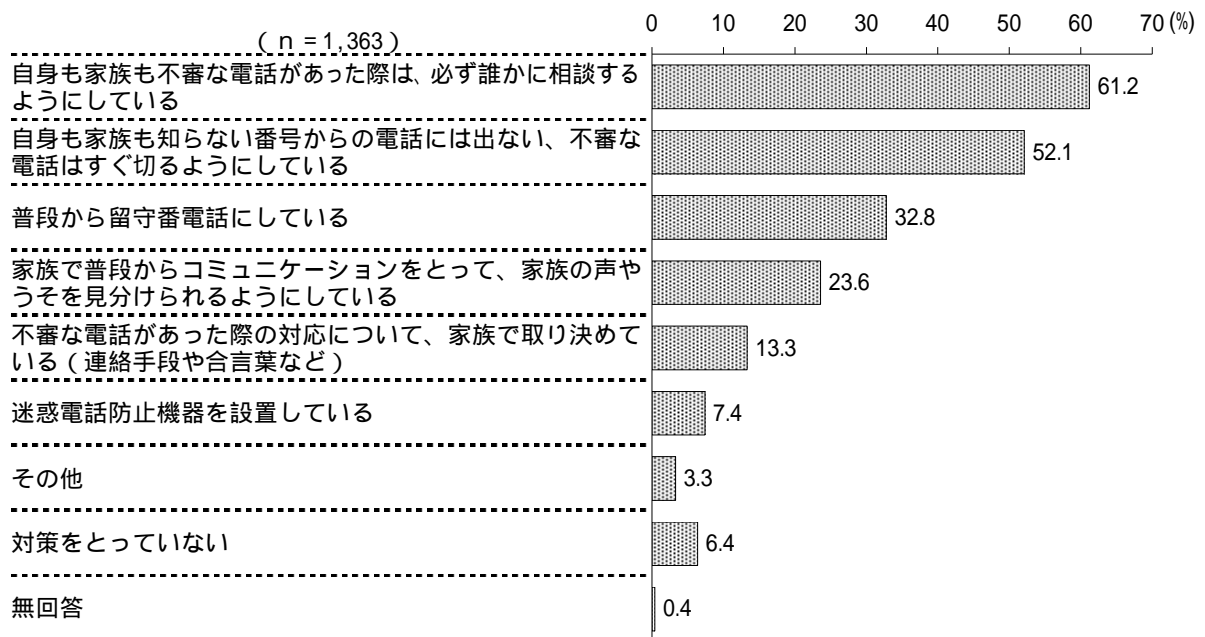


### （３）電話 d e 詐欺への対策

「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」が６割を超える

（問２で「オレオレ詐欺」、「還付金等詐欺」、「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」とお答えの方に）  
問３ 知っている手口に遭った場合に、あなたがとっている、またはとろうと考えている対策はありますか。（はいいくつでも）

<図表１－５> 電話 d e 詐欺への対策（複数回答）



電話 d e 詐欺の手口を知っていると答えた1,363人を対象に、知っている手口に遭った場合に、あなたがとっている、またはとろうと考えている対策を聞いたところ、「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」（61.2％）が６割を超えて最も高く、以下、「自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている」（52.1％）、「普段から留守番電話にしている」（32.8％）、「家族で普段からコミュニケーションをとって、家族の声やうそを見分けられるようにしている」（23.6％）が続く。（図表１－５）

#### 【地域別】

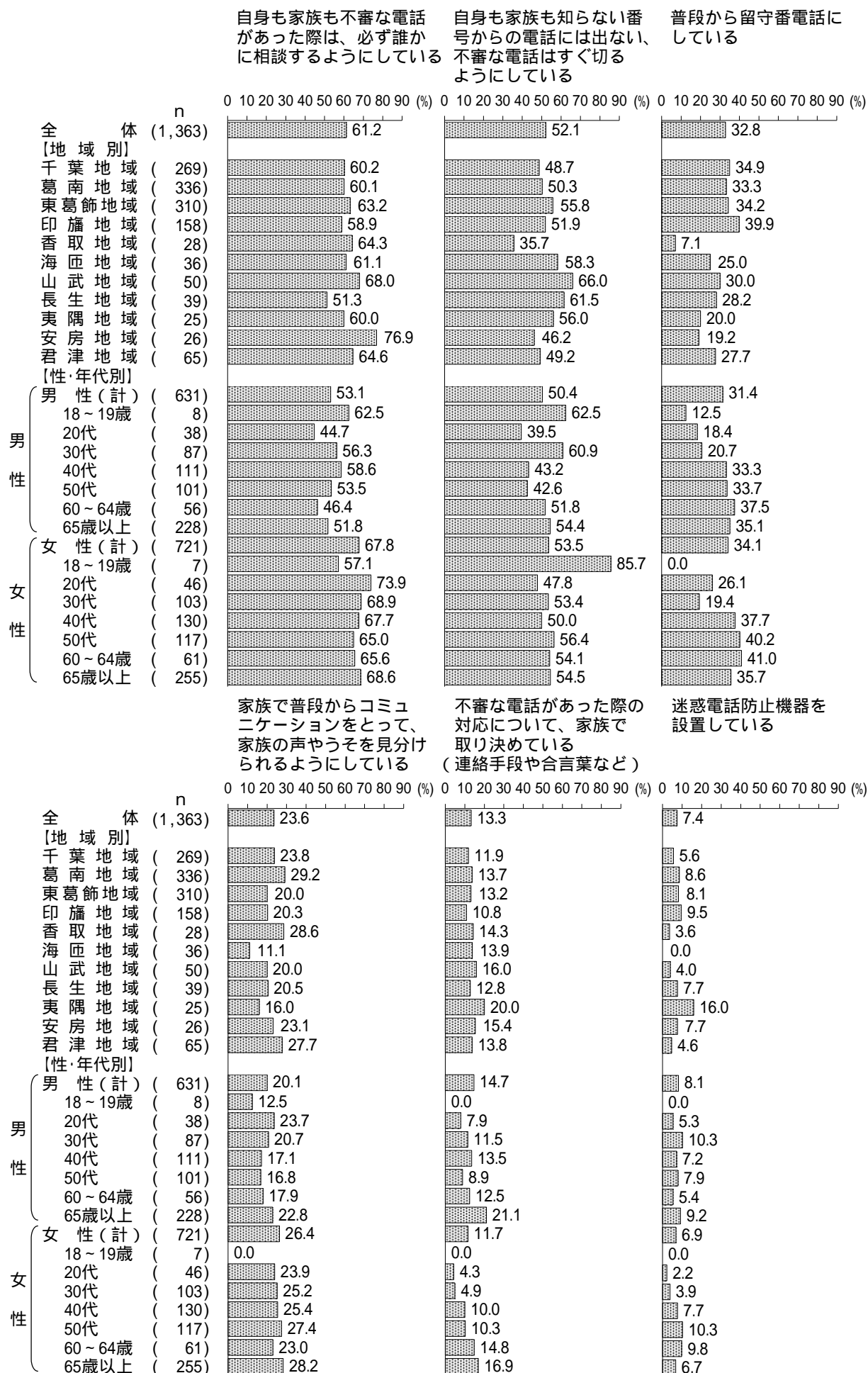
地域別にみると、「自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている」は“山武地域”（66.0％）が６割台半ばで高くなっている。（図表１－６）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」は女性の20代（73.9％）が７割台半ば、女性の30代（68.9％）４０代（67.7％）65歳以上（68.6％）が約７割で高くなっている。

「不審な電話があった際の対応について、家族で取り決めている（連絡手段や合言葉など）」は男性の65歳以上（21.1％）が２割を超えて高くなっている。（図表１－６）

<図表1 - 6> 電話d e 詐欺への対策（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



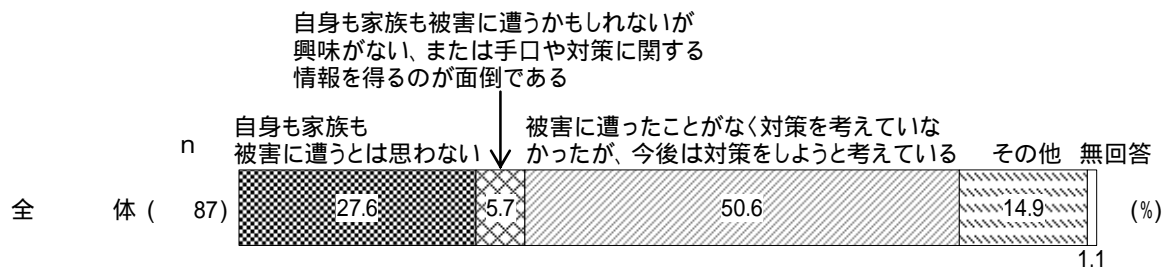
#### （４）電話d e詐欺への対策を取っていない理由

「被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている」が5割

（問3で「対策をとっていない」とお答えの方に）

問4 あなたが、対策をとっていない理由は何ですか。（は1つ）

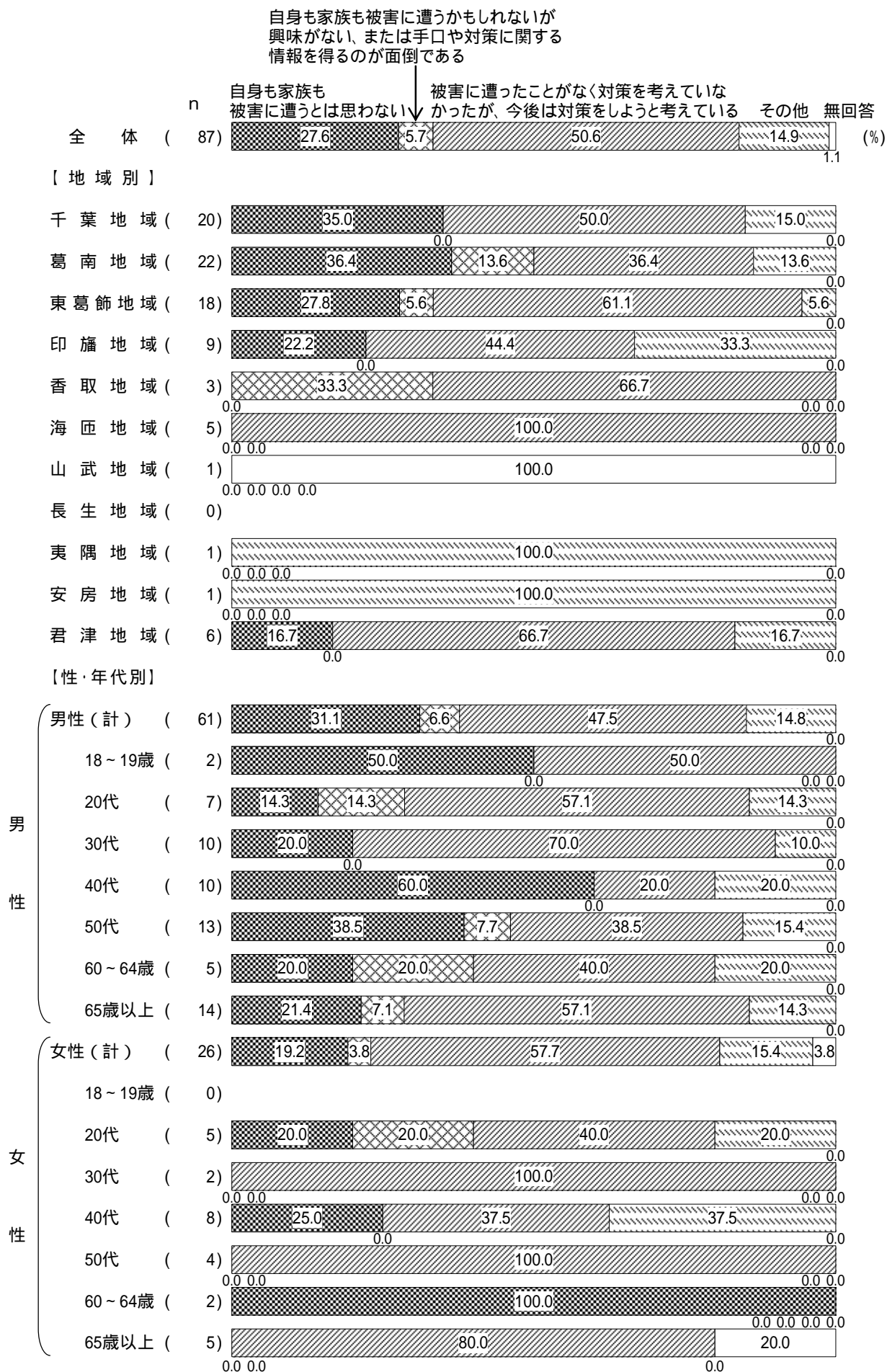
<図表1 - 7> 電話d e詐欺への対策を取っていない理由



電話d e詐欺への「対策をとっていない」と答えた87人を対象に、対策をとっていない理由を聞いたところ、「被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている」(50.6%)が5割で最も高く、以下、「自身も家族も被害に遭うとは思わない」(27.6%)、「自身も家族も被害に遭うかもしれないが興味がない、または手口や対策に関する情報を得るのが面倒である」(5.7%)が続く。(図表1 - 7)

サンプル数が少ない（有意差がない）ため、【地域別】と【性・年代別】における属性の分析は触れていない。(12ページ「報告書の見方(4)」を参照)

<図表1 - 8> 電話d e 詐欺への対策を取っていない理由 / 地域別、性・年代別



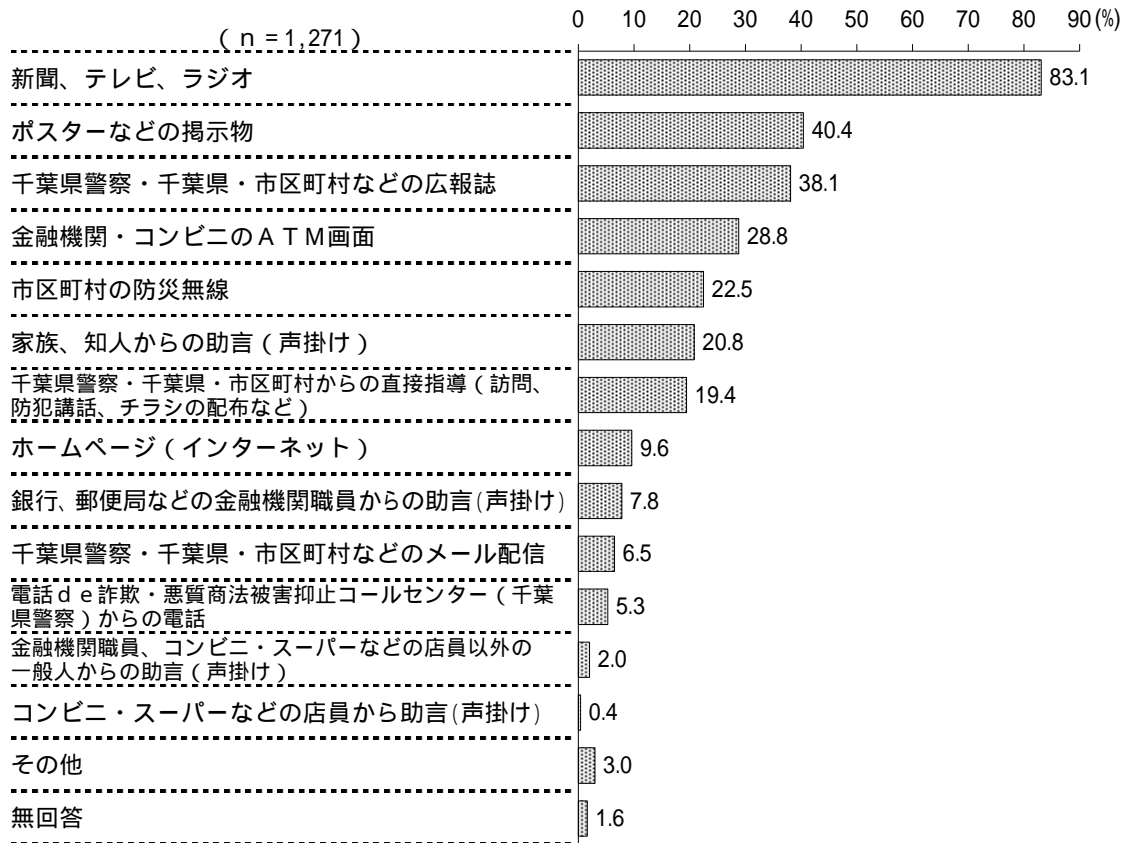
## （５）電話d e 詐欺の手口を知った媒体

「新聞、テレビ、ラジオ」が8割を超える

（問3で「対策をとっていない」以外とお答えの方に）

問5 あなたは、どのような媒体で電話d e 詐欺の手口を知りましたか。（はいくつでも）

<図表1 - 9> 電話d e 詐欺の手口を知った媒体（複数回答）



電話d e 詐欺への対策をとっていると答えた1,271人を対象に、どのような媒体で電話d e 詐欺の手口を知ったか聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ」（83.1％）が8割を超えて最も高く、以下、「ポスターなどの掲示物」（40.4％）、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」（38.1％）、「金融機関・コンビニのATM画面」（28.8％）、「市区町村の防災無線」（22.5％）が続く。

（図表1 - 9）

### 【地域別】

地域別にみると、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は“安房地域”（64.0％）が6割台半ばで高くなっている。

「市区町村の防災無線」は“夷隅地域”（65.2％）が6割台半ば、“安房地域”（56.0％）が5割台半ば、“海匝地域”（51.6％）が5割を超えて高くなっている。（図表1 - 10）

### 【性・年代別】

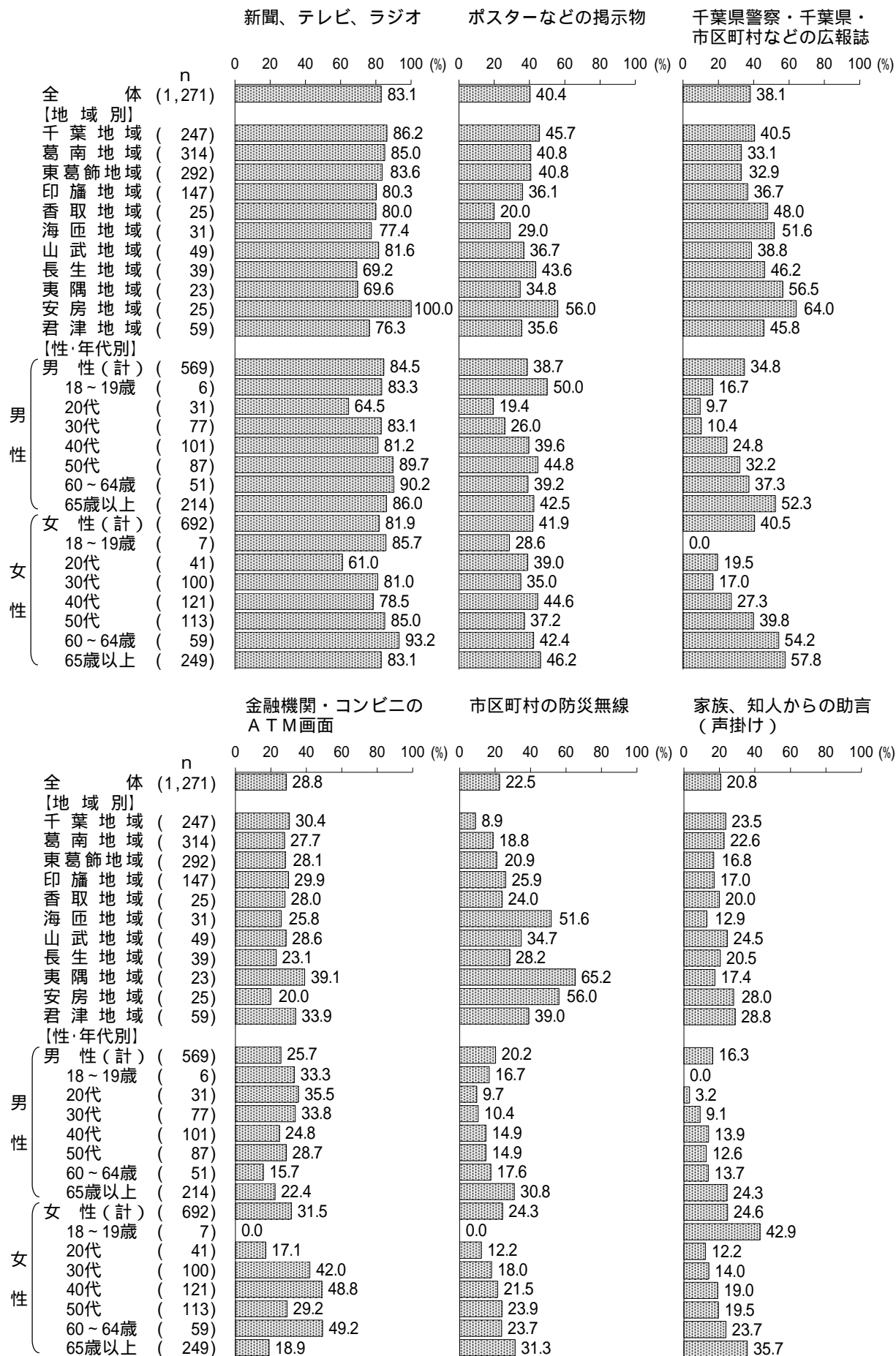
性・年代別にみると、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は女性の65歳以上（57.8％）が約6割、女性の60～64歳（54.2％）が5割台半ば、男性の65歳以上（52.3％）が5割を超えて高くなっている。

「金融機関・コンビニのATM画面」は女性の40代（48.8％）、60～64歳（49.2％）が約5割、女性の30代（42.0％）が4割を超えて高くなっている。

「市区町村の防災無線」は女性の65歳以上（31.3％）が3割を超え、男性の65歳以上（30.8％）が3割で高くなっている。

「家族、知人からの助言（声掛け）」は女性の65歳以上（35.7％）が3割台半ばで高くなっている。（図表1 - 10）

<図表1 - 10> 電話d e 詐欺の手口を知った媒体（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



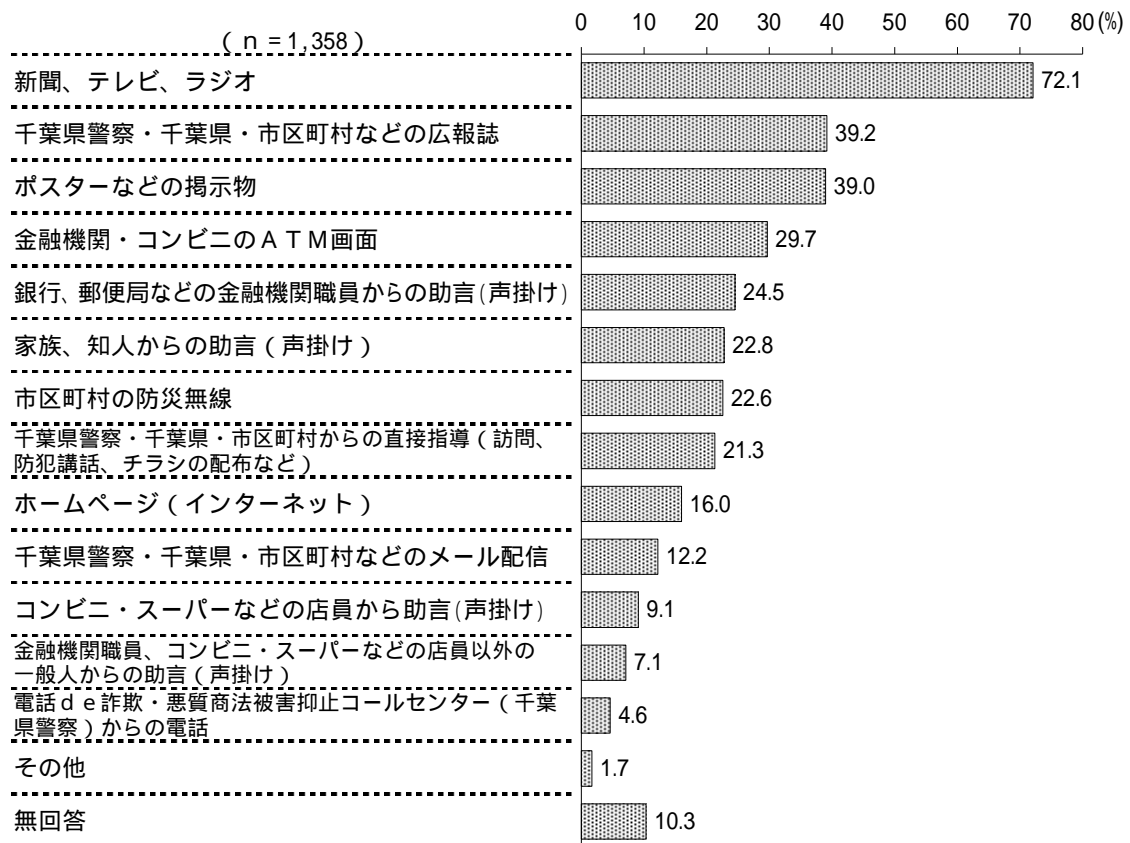
## （６）電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体

「新聞、テレビ、ラジオ」が7割を超える

（問2で「ない」とお答えの方、問4、問5をお答えの方に）

問6 あなたは、自身やご家族が被害に遭わないため、これらの詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思いますか。（はいいくつでも）

<図表1 - 11> 電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体（複数回答）



電話d e 詐欺の手口を知っている、あるいは電話d e 詐欺への対策について回答した1,358人を対象に、電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思うか聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ」（72.1%）が7割を超えて最も高く、以下、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」（39.2%）、「ポスターなどの掲示物」（39.0%）、「金融機関・コンビニのATM画面」（29.7%）が続く。（図表1 - 11）

### 【地域別】

地域別にみると、「銀行、郵便局などの金融機関職員からの助言（声掛け）」は「海匝地域」（38.9%）が約4割を超えている。（図表1 - 12）

### 【性・年代別】

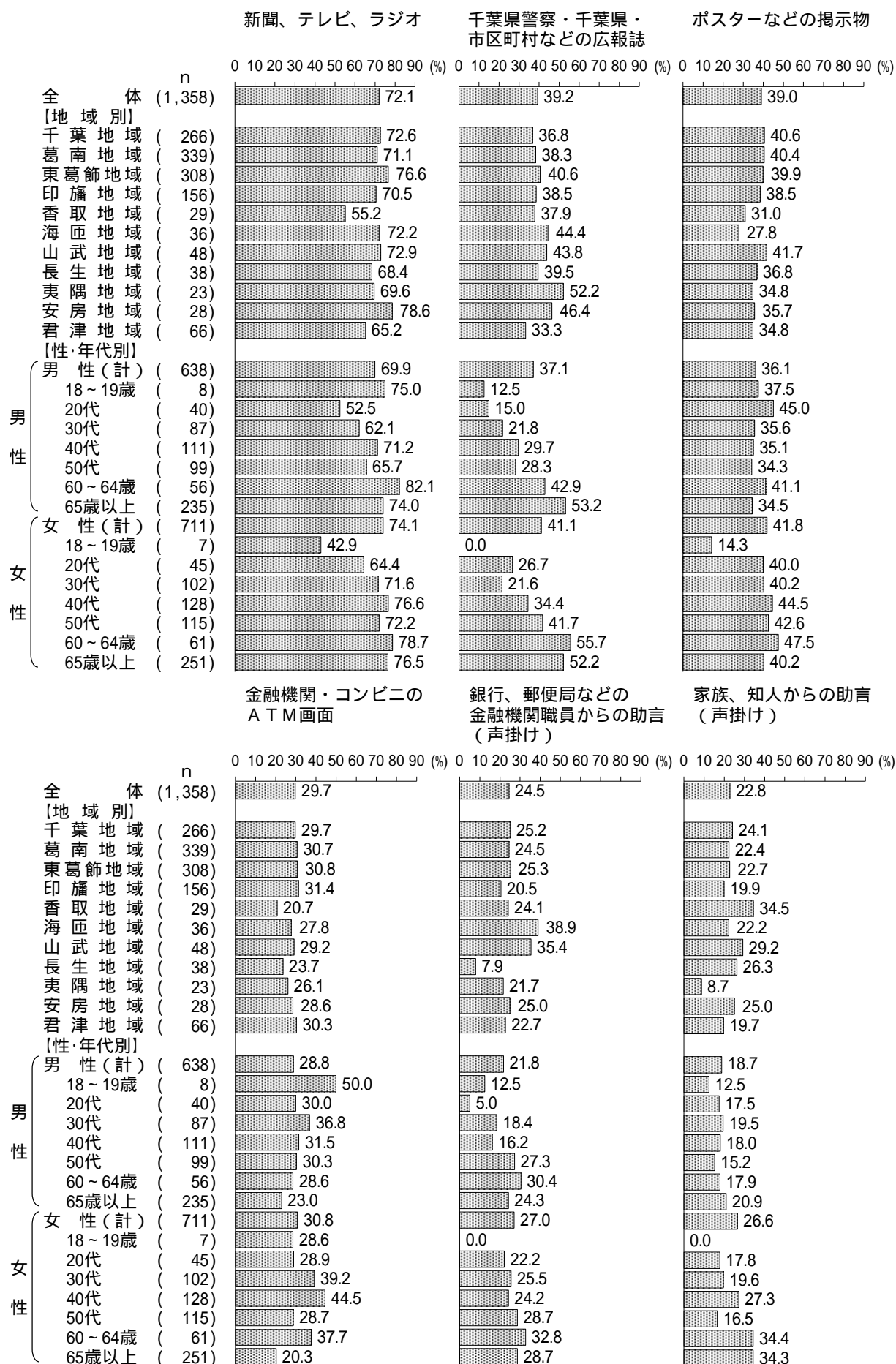
性・年代別にみると、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は女性の60～64歳（55.7%）が5割台半ば、男性の65歳以上（53.2%）と女性の65歳以上（52.2%）が5割を超えて高くなっている。

「金融機関・コンビニのATM画面」は女性の40代（44.5%）が4割台半ばで高くなっている。

「家族、知人からの助言（声掛け）」は女性の60～64歳（34.4%）65歳以上（34.3%）が3割台半ばで高くなっている。（図表1 - 12）

<図表1 - 12> 電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体（複数回答）

/ 地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかに、「電話d e 詐欺に関する県民の意識について」やここまでの質問（問1～問6）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、239人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「電話d e 詐欺に関する県民の意識」の自由回答（抜粋）

詐欺は人の弱みにつけこんだ卑怯な犯罪です。受け取り人を装って摘発するのも良い手段だと思います。（男性、20代、海匝地域）

みやぞんさんのCMの合言葉は良いアイデアだと思います。ただ人を疑わないお年寄りや知的障害の方を守る方法があると良いと思います。社会的弱者の方々はいろいろ損ばかりしている気がする。（女性、50代、東葛飾地域）

これだけ電話d e 詐欺について注意喚起しているにもかかわらず被害が減らないのはなぜなのか。手口も巧妙になってきているからなのか。（女性、40代、千葉地域）

電話を受けた人がだまされたふりをして詐欺師をつかまえたい時のノウハウを教えてほしい。手順をまちがうと危険なので。（女性、60～64歳、君津地域）

いろいろな場面での啓発活動はありますが、ややマンネリ化しているような気がします。また、自分だけは被害に合わないという気持ちがある人が多いせいか、個人の危機管理に問題がある気がします。（女性、60～64歳、印旛地域）

NHK首都圏ネットワークで振り込め詐欺について放送していますが、千葉テレビや民報各社も同時刻ぐらいに放送する様にしたらどうでしょうか。（男性、65歳以上、印旛地域）

詐欺の手口は日々変わります。最新の手口の公表や迷惑電話防止装置の配布に力を入れて欲しいです。今後は、東京オリンピックや元号改変による、手続きの詐欺が増加すると予想します。（男性、30代、千葉地域）

敬老会での警察の方の寸劇はとてもよかったです。色々な事がよくわかりました。（女性、65歳以上、印旛地域）

今までも広く広報誌等で呼びかけている。しかしその場面になると、人はどうして詐欺にのびてしまうのか。人の善意につけこんでいるのが許せません。その時の心理状況、事例等具体的にあげて、講演等で話してほしい。（女性、65歳以上、山武地域）

世間的には“オレオレ詐欺”が最も認知度の高い名称なので、その名称を変更する必要性を感じない。“オレオレ”以外の詐欺も包括した名称としたい考えも理解できるが、既に電話で行われる詐欺全般が“オレオレ詐欺”と認知されているのではないかと。（男性、30代、印旛地域）

## 2 消費生活について

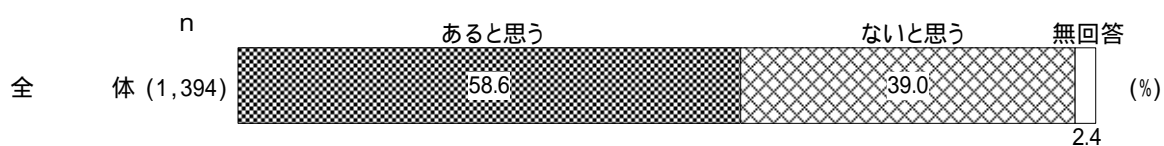
### （１）消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

「あると思う」が約６割

悪質事業者による押し売りや、化粧品による健康被害など消費者トラブルが後を絶たない中、県では相談窓口の整備や、消費者に商品事故に関する情報や契約トラブルへの対処法を伝える消費者教育の推進などに取り組んでいます。

問７ あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思いますか。（ は１つ）

<図表２－１> 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無



消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思うか聞いたところ、「あると思う」（58.6％）が約６割で高くなっている。

一方、「ないと思う」（39.0％）は約４割となっている。（図表２－１）

#### 【地域別】

地域別にみると、「ないと思う」は“香取地域”（62.1％）が６割を超えて高くなっている。

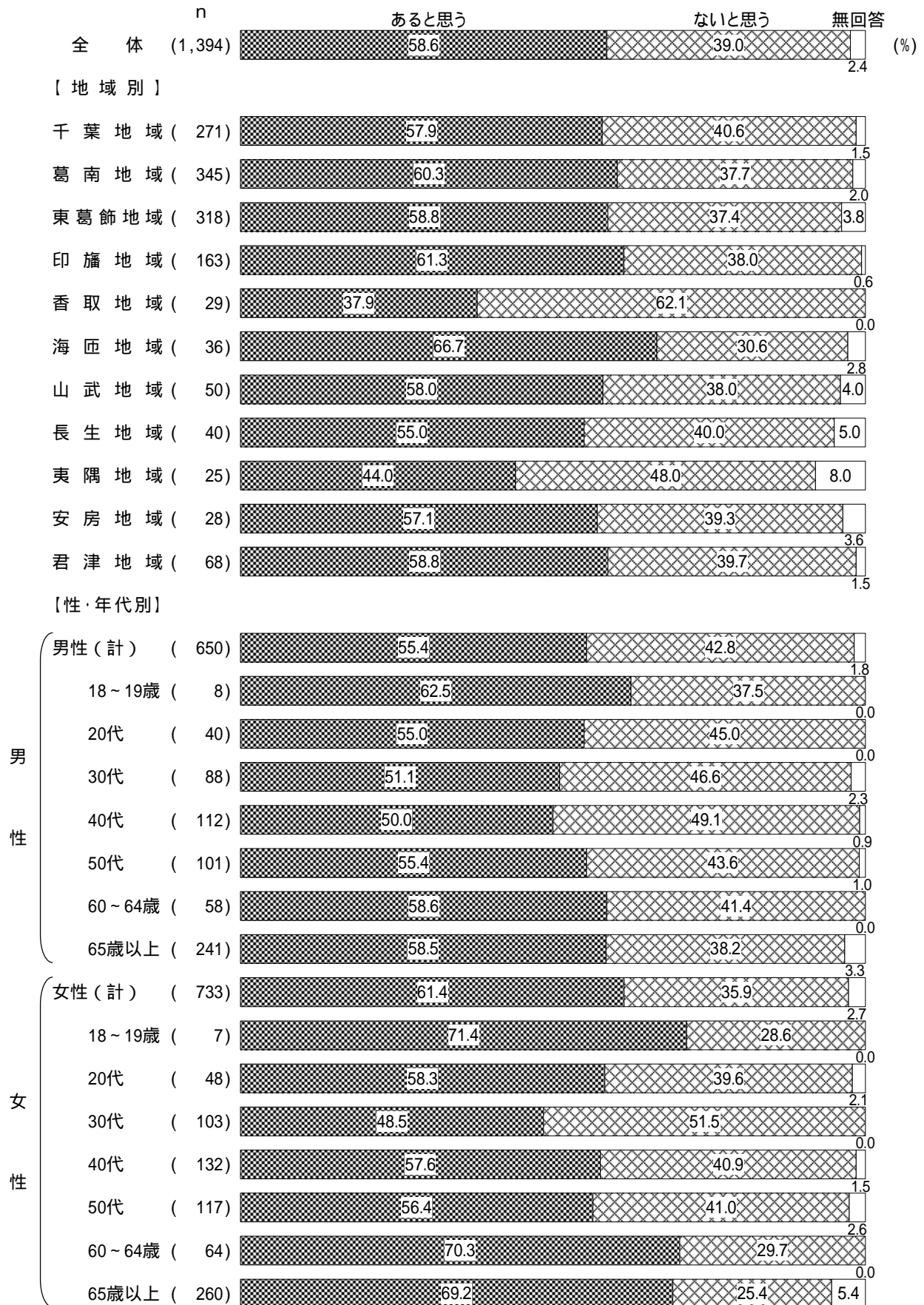
（図表２－２）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」は女性の60～64歳（70.3％）が７割、女性の65歳以上（69.2％）が約７割で高くなっている。

一方、「ないと思う」は女性の30代（51.5％）が５割を超え、男性の40代（49.1％）が約５割で高くなっている。（図表２－２）

<図表2 - 2>消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無／地域別、性・年代別

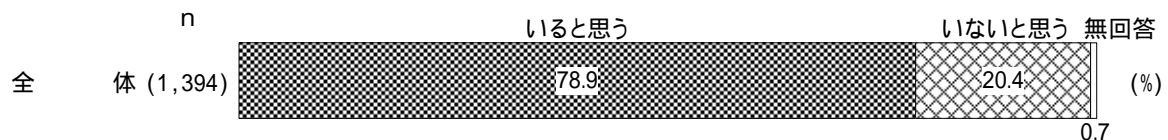


## （２）消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無

「いると思う」が約８割

問８ あなたは、消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいますか。（１は１つ）

＜図表２－３＞消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無



消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいますか聞いたところ、「いると思う」(78.9%)が約８割で高くなっている。

一方、「いないと思う」(20.4%)は２割となっている。(図表２－３)

### 【地域別】

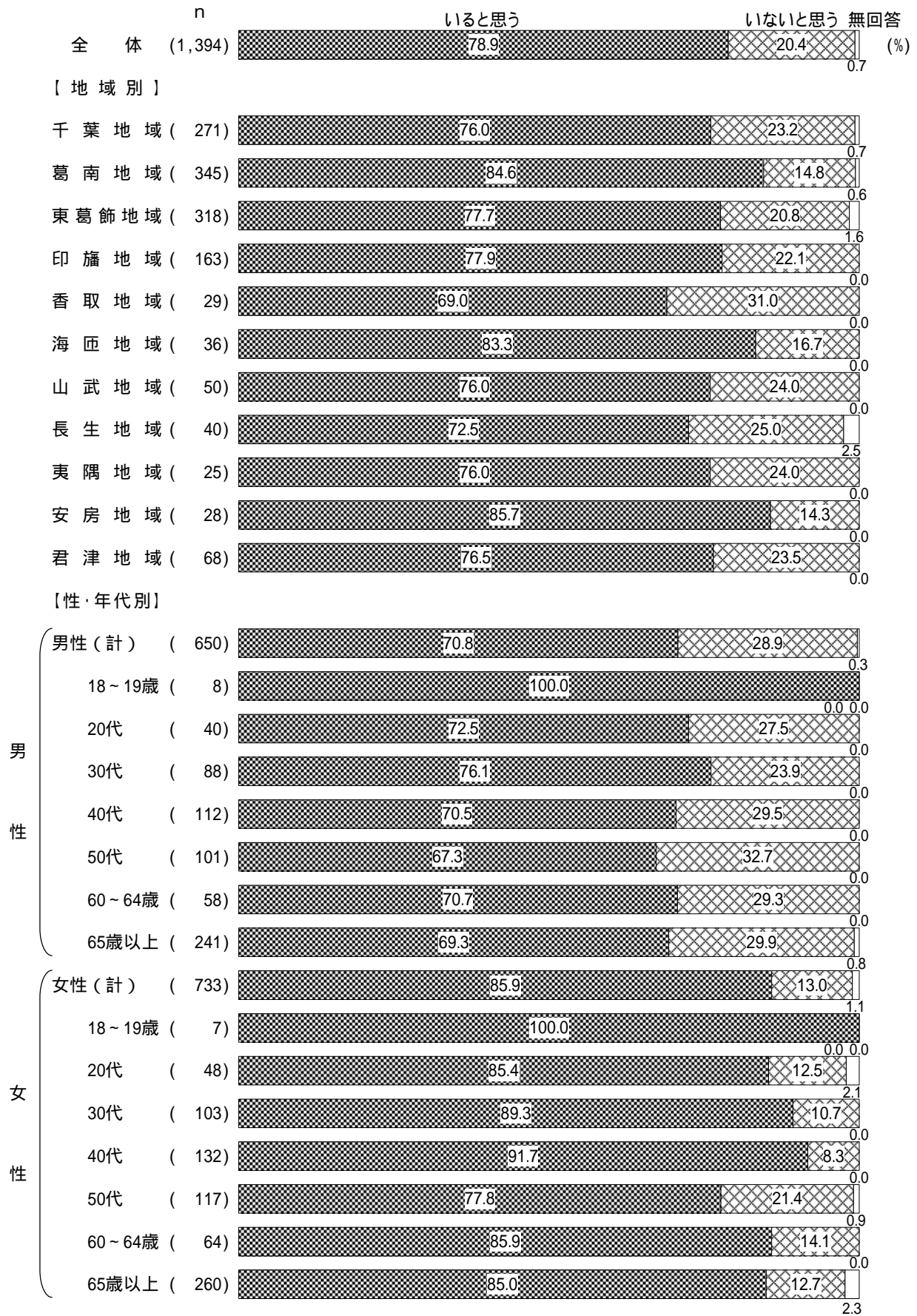
地域別にみると、「いると思う」は“安房地域”(85.7%)、 “葛南地域”(84.6%)が８割台半ばで高くなっている。(図表２－４)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「いると思う」は女性の40代(91.7%)が９割を超え、女性の30代(89.3%)が約９割で高くなっている。

一方、「いないと思う」は男性の50代(32.7%)が３割を超え、男性の20代(27.5%)、40代(29.5%)、60～64歳(29.3%)、65歳以上(29.9%)が約３割で高くなっている。(図表２－４)

<図表2 - 4>消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無／地域別、性・年代別

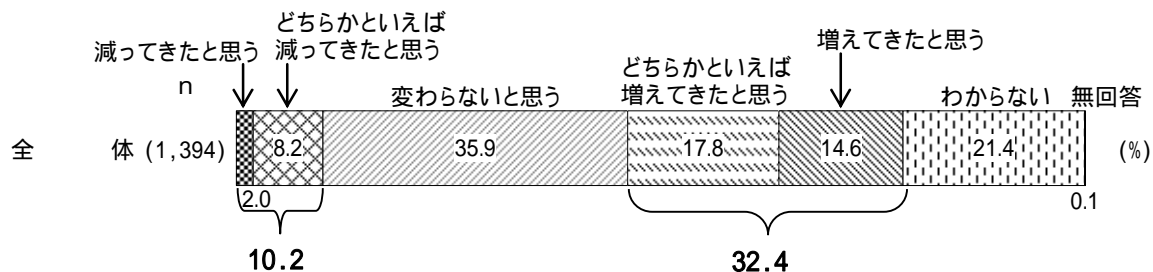


### （３）「悪質商法」に対する考え

『減ってきた（計）』が１割、『増えてきた（計）』が３割を超える

問９ あなたは、点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思いますか。（ は１つ）

<図表２－５> 「悪質商法」に対する考え



点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思うか聞いたところ、「減ってきたと思う」（2.0%）と「どちらかといえば減ってきたと思う」（8.2%）を合わせた『減ってきた（計）』（10.2%）が１割となっている。

一方、「どちらかといえば増えてきたと思う」（17.8%）と「増えてきたと思う」（14.6%）を合わせた『増えてきた（計）』（32.4%）は３割を超えている。（図表２－５）

#### 【地域別】

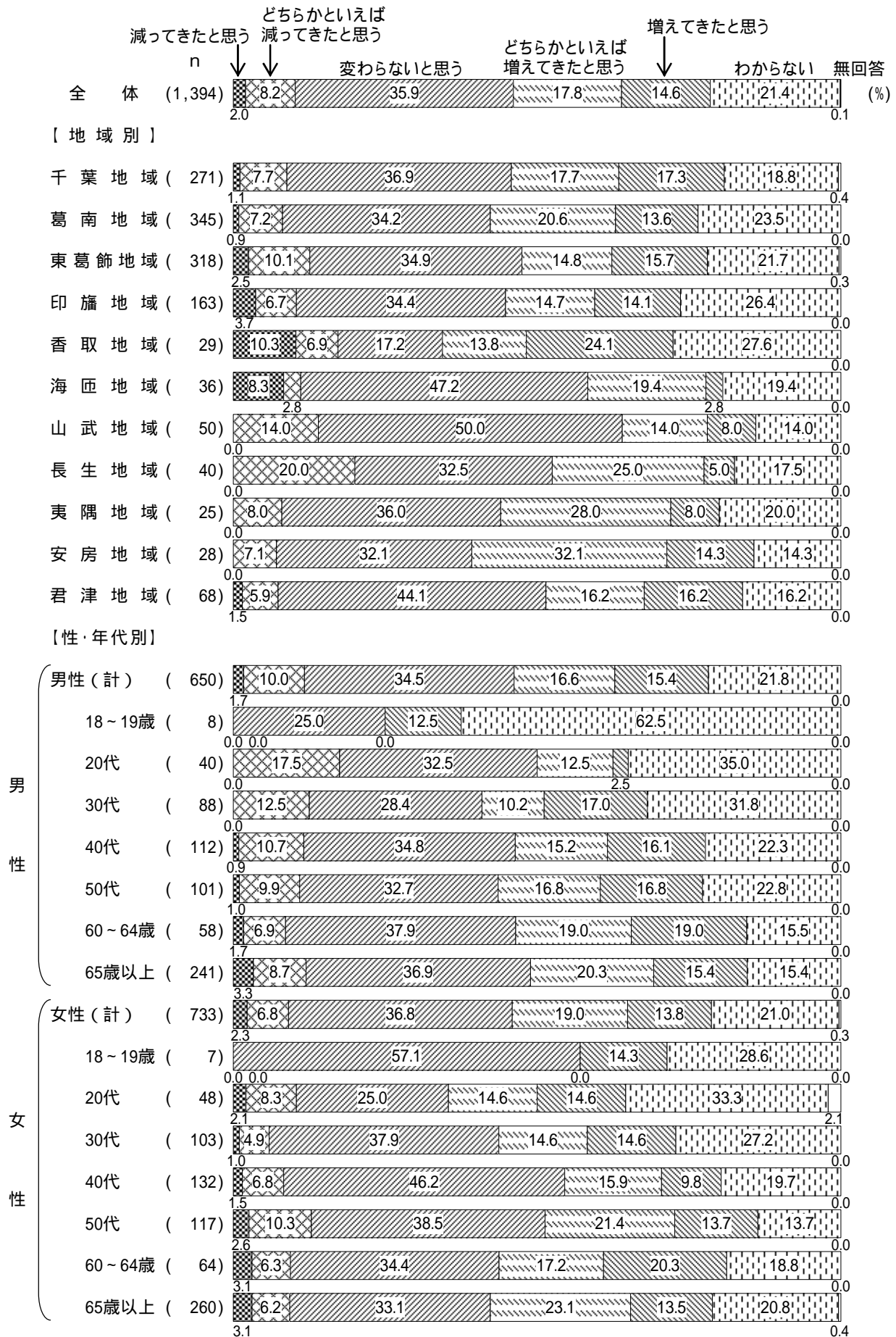
地域別にみると、『減ってきた（計）』は“長生地域”（20.0%）が２割で高くなっている。

（図表２－６）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「変わらないと思う」は女性の40代（46.2%）が４割台半ばで高くなっている。（図表２－６）

<図表 2 - 6> 「悪質商法」に対する考え / 地域別、性・年代別

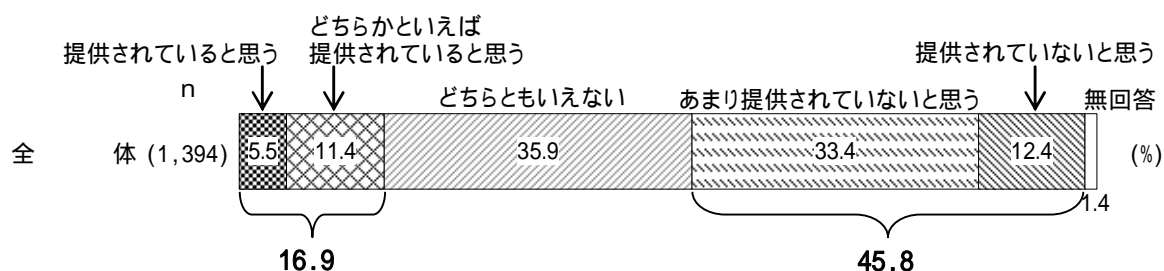


## （４）消費者教育の機会に対する考え

『提供されていない（計）』が４割台半ば

問10 あなたは、講演会やセミナーなど、契約トラブルを未然に回避したり、トラブル発生時に自ら適切な判断や行動ができる能力を育む教育（消費者教育）の機会が提供されていると思いますか。（は１つ）

<図表２－７>消費者教育の機会に対する考え



消費者教育の機会が提供されていると思うか聞いたところ、「提供されていると思う」(5.5%)と「どちらかといえば提供されていると思う」(11.4%)を合わせた『提供されている(計)』(16.9%)が１割台半ばとなっている。

一方、「あまり提供されていないと思う」(33.4%)と「提供されていないと思う」(12.4%)を合わせた『提供されていない(計)』(45.8%)は４割台半ばとなっている。(図表２－７)

### 【地域別】

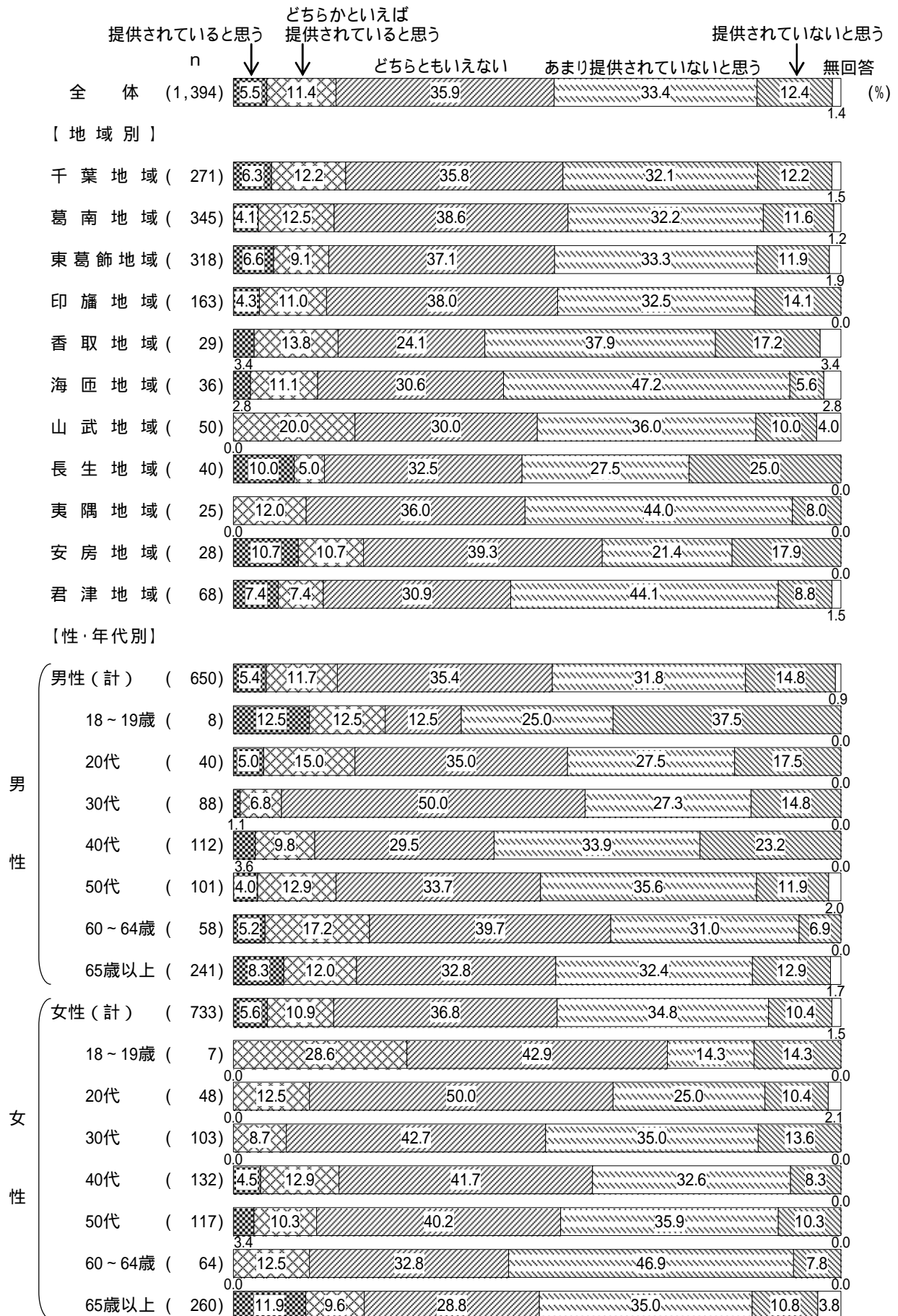
地域別にみると、「提供されていないと思う」は“長生地域”(25.0%)が２割台半ばで高くなっている。(図表２－８)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『提供されていない(計)』は男性の40代(57.1%)が約６割で高くなっている。(図表２－８)



<図表2 - 8>消費者教育の機会に対する考え / 地域別、性・年代別

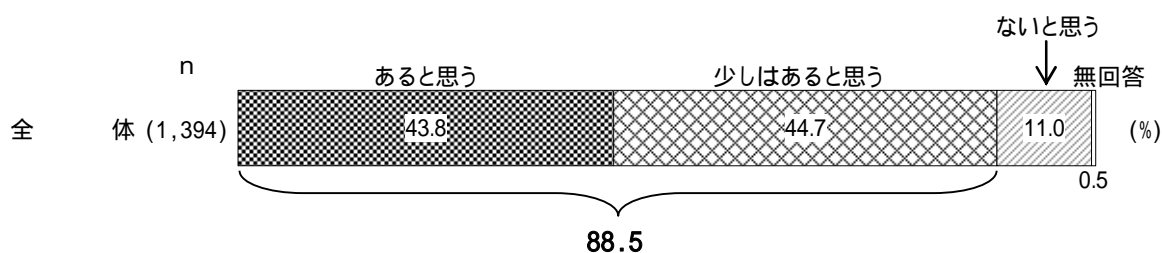


## （５）買い物を行う際の「環境や人にやさしい商品の選択を意識した行動」の有無

『あると思う（計）』が約９割

問11 あなたは、買い物を行う際に商品の品質や表示を確認したり、環境や人にやさしい商品（エコ商品や障がい者支援につながる商品など）を選択することなどを意識して行動したことはありますか。（ は１つ）

<図表 2 - 9> 買い物を行う際の「環境や人にやさしい商品の選択を意識した行動」の有無



買い物を行う際に、環境や人にやさしい商品の選択を意識して行動したことがあるか聞いたところ、「あると思う」(43.8%)が４割台半ばとなっており、これと「少しはあると思う」(44.7%)を合わせた『あると思う（計）』(88.5%)が約９割で高くなっている。

一方、「ないと思う」(11.0%)は１割を超えている。（図表 2 - 9）

### 【地域別】

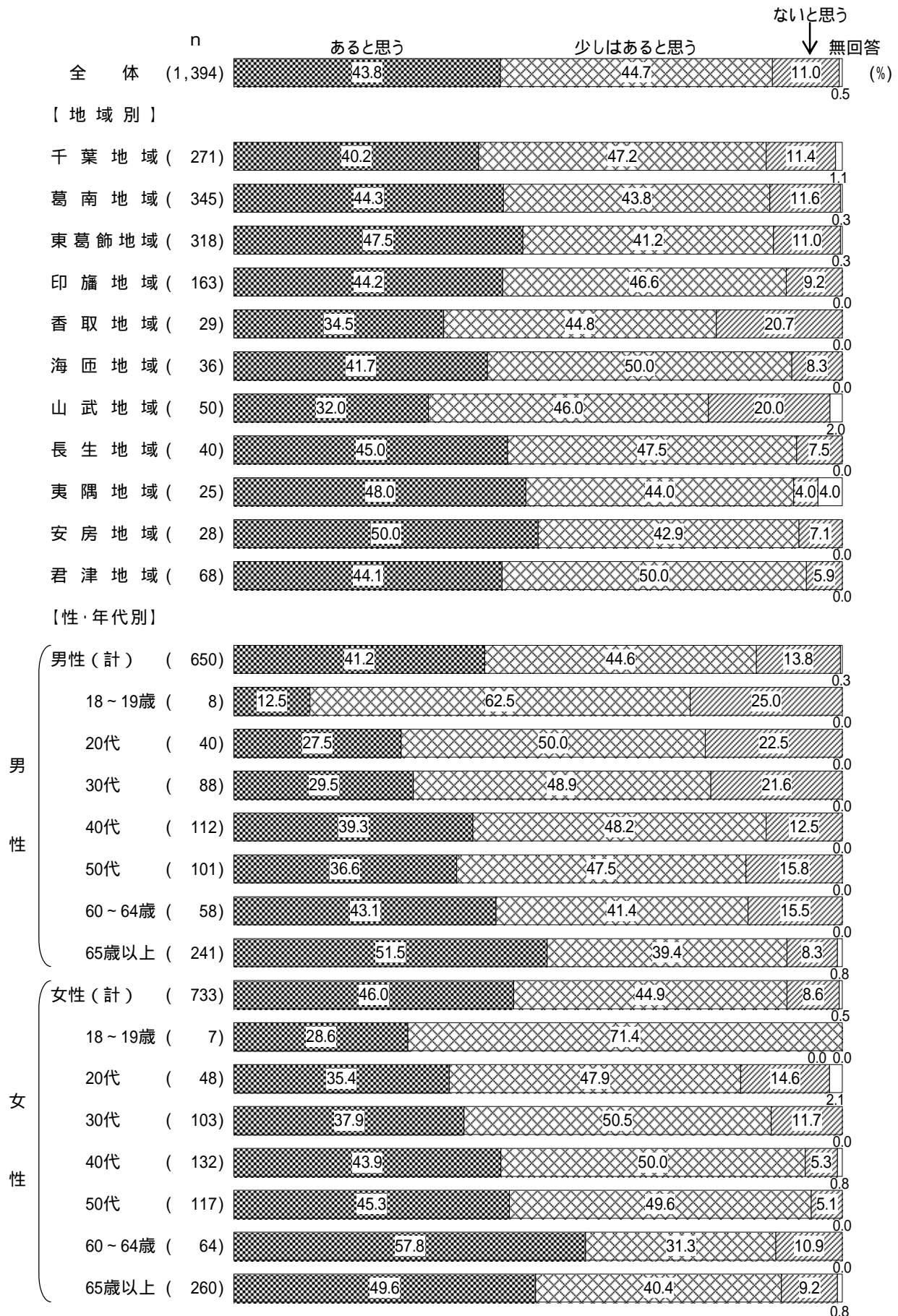
地域別にみると、「ないと思う」は“香取地域”(20.7%)、“山武地域”(20.0%)が２割で高くなっている。（図表 2 - 10）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」は女性の60～64歳(57.8%)が約６割、男性の65歳以上(51.5%)が５割を超えて高くなっている。

一方、「ないと思う」は男性の20代(22.5%)、30代(21.6%)が２割を超えて高くなっている。（図表 2 - 10）

<図表2 - 10> 買い物を行う際の「環境や人にやさしい商品の選択を意識した行動」の有無／地域別、性・年代別

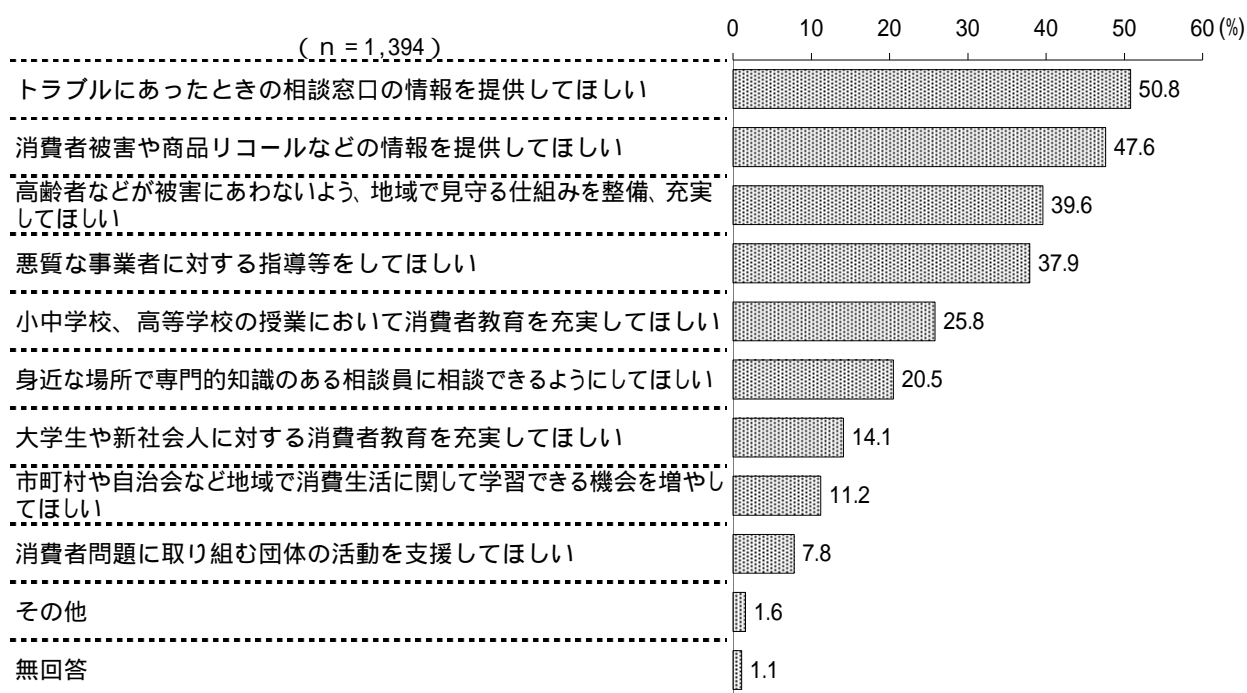


## （６）消費者トラブルなどにあわないために県や市町村へ求めること

「トラブルにあったときの相談窓口の情報を提供してほしい」が５割

問12 商品を購入したりサービスを利用する上で、あなたが適切な判断をし、トラブルや被害にあわないようにするために、県や市町村に望むことは何ですか。（は３つまで）

<図表２－11> 消費者トラブルなどにあわないために県や市町村へ求めること（３つまでの複数回答）



消費者トラブルや被害にあわないようにするために、県や市町村に望むことを３つまで選んでもらったところ、「トラブルにあったときの相談窓口の情報を提供してほしい」（50.8％）が５割で最も高く、以下、「消費者被害や商品リコールなどの情報を提供してほしい」（47.6％）、「高齢者などが被害にあわないよう、地域で見守る仕組みを整備、充実してほしい」（39.6％）、「悪質な事業者に対する指導等をしてほしい」（37.9％）が続く。（図表２－11）

### 【地域別】

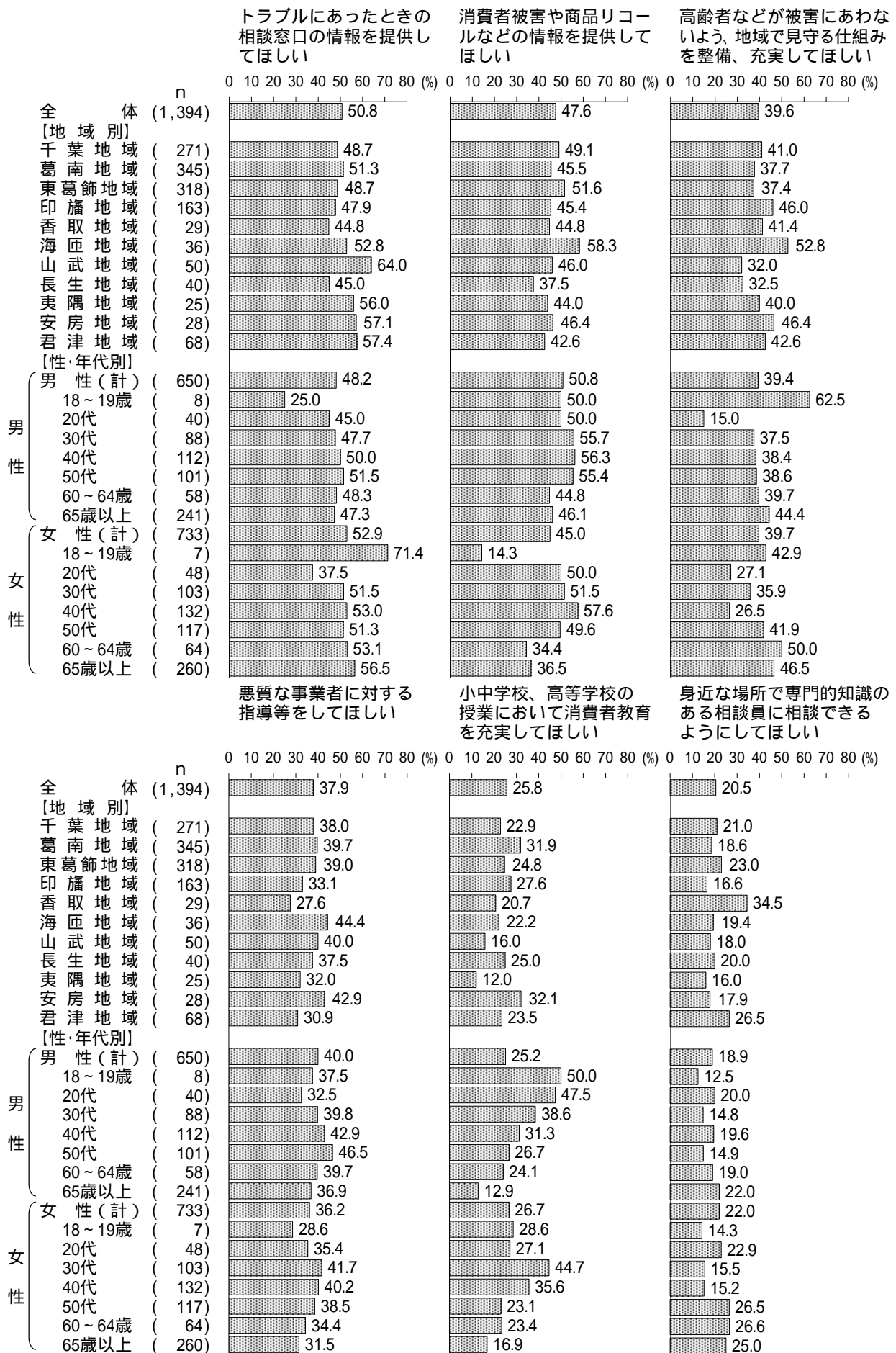
地域別にみると、「小中学校、高等学校の授業において消費者教育を充実してほしい」は“安房地域”（32.1％）、「葛南地域」（31.9％）が３割を超えて高くなっている。（図表２－12）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「消費者被害や商品リコールなどの情報を提供してほしい」は女性の40代（57.6％）が約６割で高くなっている。

「小中学校、高等学校の授業において消費者教育を充実してほしい」は男性の20代（47.5％）が約５割、女性の30代（44.7％）が４割台半ば、男性の30代（38.6％）が約４割、女性の40代（35.6％）が３割台半ばで高くなっている。（図表２－12）

<図表2 - 12> 消費者トラブルなどにあわないために県や市町村へ求めること（3つまでの複数回答）  
／地域別、性・年代別（上位6項目）



このほかに、「消費生活について」やここまでの質問（問7～問12）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、165人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「消費生活」の自由回答（抜粋）

リコール等ネットであえて調べないと分からない時もあるので、ネットのない人等はどうすれば良いのだろう。子供達にはトラブルや被害にあわない様な教育が必要だと思う。また、あってしまっても対処できる方法はあるのだと教えて欲しい。色々な場面で専門的知識のある人にいつでも相談できるシステムがあれば、知らないでトラブルを回避出来なかったという事が無くなるのではないのでしょうか。（女性、50代、東葛飾地域）

相談窓口があることは知っているが、どのような対応をしてもらえるか、どんな解決方法があるかが明確でないので、利用することに不安もある。もっと具体的に周知してもらえると利用しやすくなると思う。（女性、20代、葛南地域）

エコ商品や障がい者支援につながるようなものを扱っている場所が少ないように思います。コンビニや道の駅、ネットショップなどもあればいいと思います。特別な場所、限られた場所ではなく、多くの人の目に触れるところを希望します。（女性、30代、千葉地域）

都会の若い世代に対してのしつこい客引きや勧誘が多いです。パトロール等で直接注意したり、会社へ指導・注意等の対策を強化してほしい。（女性、30代、葛南地域）

市の消費生活相談員の方は、本当に親身になって相談に乗って下さるので、相談員を増やして頂きたい。相談員の数が少ないと思う。（男性、50代、印旛地域）

住民から民生委員、さらにしかるべき所、の仕組みがあるので、これを太くしていくことが早道だと思う。（男性、65歳以上、千葉地域）

もう50歳なので、このような被害にはあわないと思うが、20歳の頃、ちょうど親元を離れ寮に入っている時に、「に当選しました」という電話に引っかかる寸前で思いとどまったことや、周囲にだまされた人がたくさんいたことを思い出した。世間知らずだったと思いますが、一番危ない年頃に教育をしてほしい。（女性、50代、葛南地域）

今までトラブルになったことがないので、これからも気をつけていきたい。何かあるとママ友のグループラインに話をのせて、「これはだまされてるかもしれないから、気をつけて！！」などのアドバイスをもらうことも多い。ネットで少ししらべればヒットするよう、情報をマメにネットにUPしてほしい。（女性、40代、印旛地域）

### 3 人生の最終段階における医療や療養への希望について

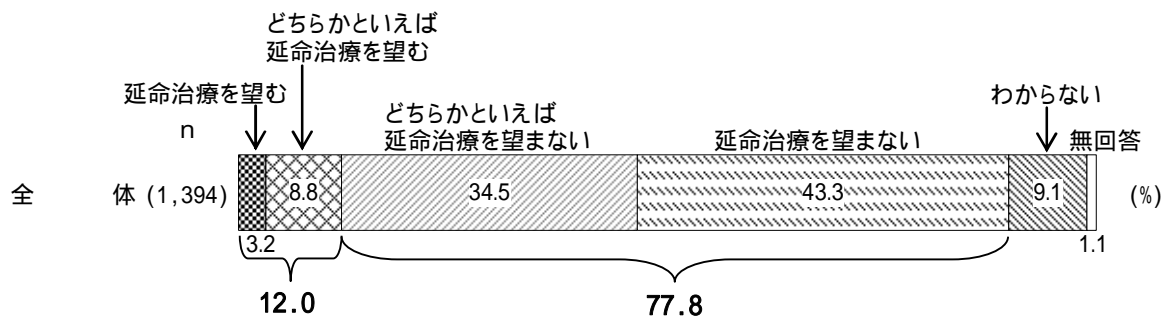
#### （１）延命治療の希望

『延命治療を望まない（計）』が約８割

あなたが、突然重い病気や不慮の事故などで、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合を想定してお答えください。

問13 このような状況の場合、治療によって生活の質が下がるとしても、とにかく延命を最優先することを目的とした治療（以下「延命治療」と言う。）を望みますか。（ は１つ）

<図表 3 - 1> 延命治療の希望



適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死期が迫っている状況の場合、「延命治療」を望むか聞いたところ、「延命治療を望む」（3.2%）と「どちらかといえば延命治療を望む」（8.8%）を合わせた『延命治療を望む（計）』（12.0%）が１割を超えている。

一方、「どちらかといえば延命治療を望まない」（34.5%）と「延命治療を望まない」（43.3%）を合わせた『延命治療を望まない（計）』（77.8%）は約８割で高くなっている。（図表 3 - 1）

#### 【地域別】

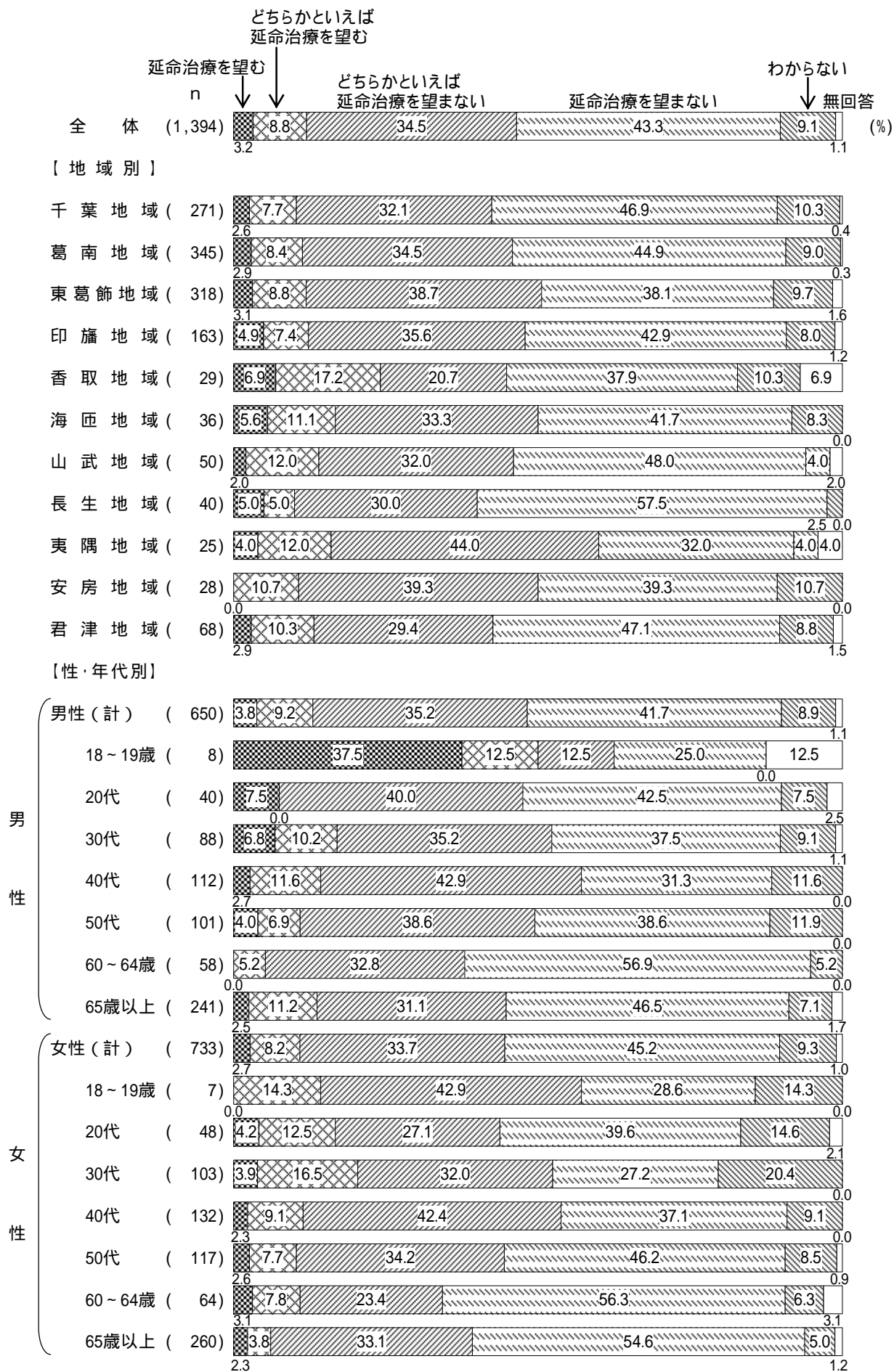
地域別にみると、『延命治療を望む（計）』は“香取地域”（24.1%）が２割台半ばで高くなっている。（図表 3 - 2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『延命治療を望む（計）』は女性の30代（20.4%）が２割で高くなっている。

一方、『延命治療を望まない（計）』は男性の60～64歳（89.7%）と女性の65歳以上（87.7%）が約９割で高くなっている。（図表 3 - 2）

<図表3 - 2> 延命治療の希望 / 地域別、性・年代別





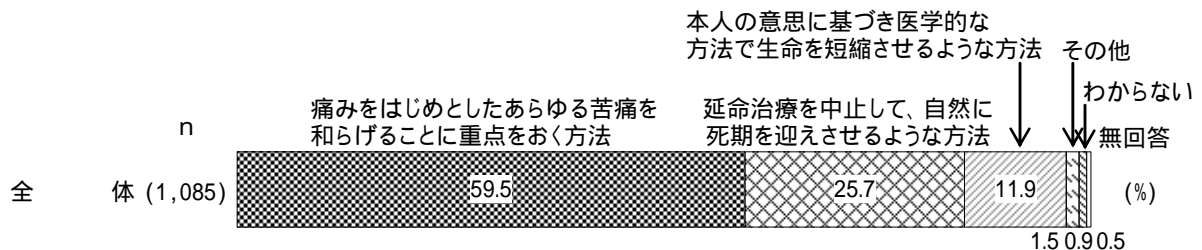
## （２）延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望

「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」が約６割

（問13で「どちらかといえば延命治療を望まない」、「延命治療を望まない」とお答えの方に）

問14 延命治療を望まない場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。（ は１つ）

<図表 3 - 3> 延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望



延命治療を望まないと答えた1,085人を対象に、その場合に具体的にはどのような医療・ケア方法を望むか聞いたところ、「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」（59.5％）が約６割で最も高く、以下、「延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」（25.7％）、「本人の意思に基づき医学的な方法で生命を短縮させるような方法」（11.9％）が続く。（図表 3 - 3）

### 【地域別】

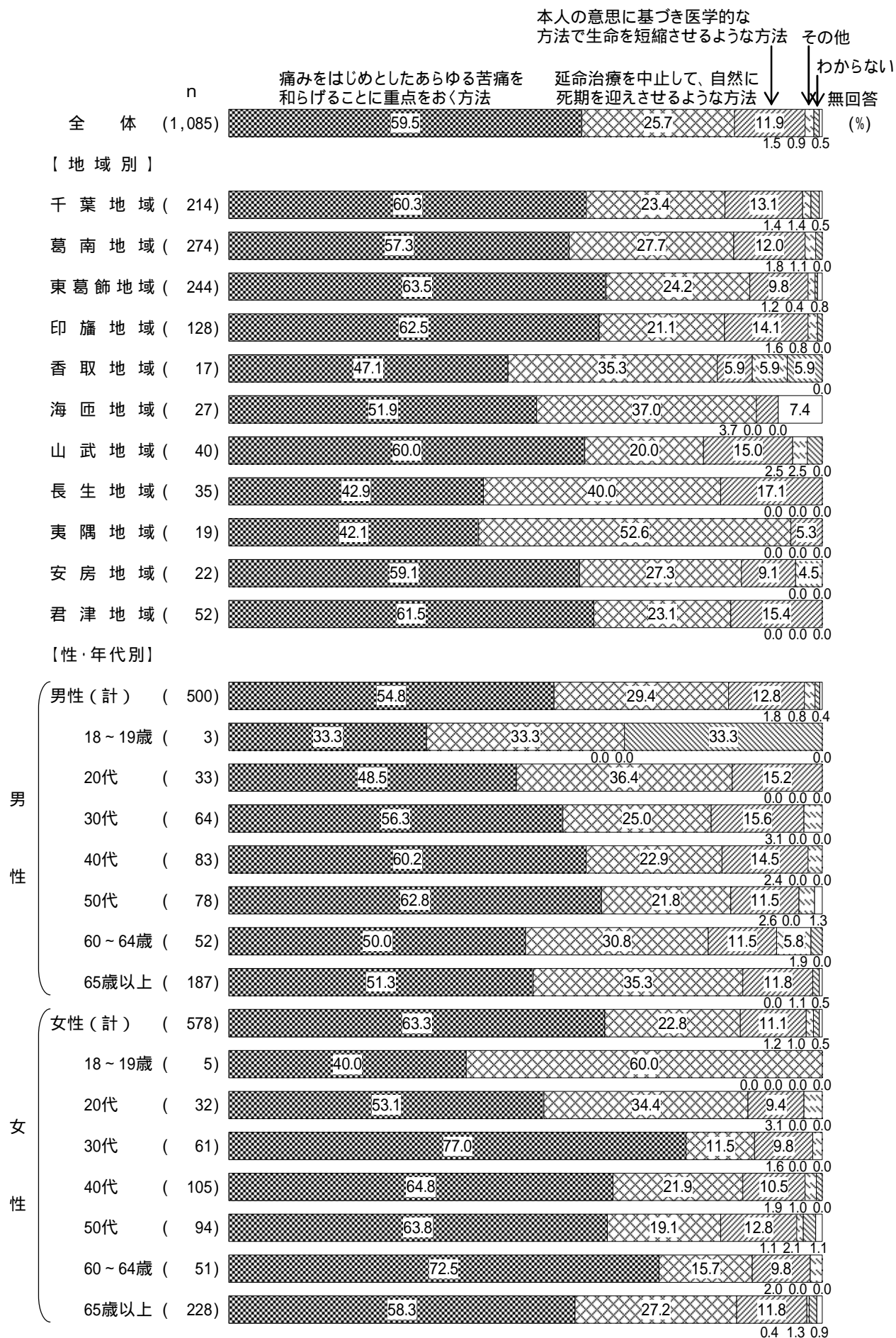
地域別にみると、「延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」は“長生地域”（40.0％）が４割で高くなっている。（図表 3 - 4）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」は女性の30代（77.0％）が約８割で高くなっている。

「延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」は男性の65歳以上（35.3％）が３割台半ばで高くなっている。（図表 3 - 4）

<図表3 - 4> 延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望 / 地域別、性・年代別



このほかに、「人生の最終段階における医療や療養への希望について」やここまでの質問（問13～問14）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、285人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「人生の最終段階における医療や療養への希望」の自由回答（抜粋）

ドナー登録カードのような携帯できるカードで、延命治療に対する意思表示ができるようにしてほしい。  
（男性、20代、葛南地域）

本人の意思が“延命治療を望まない”としても、家族の判断は迷い、悩み、苦しむことは想像できます。普段の家族のコミュニケーションを深く密にしておくことが重要だと思います。  
（女性、60～64歳、長生地域）

ホスピスや在宅看護・訪問診療などの終末期医療について充実したシステムを整備するとともに、積極的に広報し、患者や家族に告知してほしい。  
（男性、50代、印旛地域）

画一的でなく、個別的なケアが受けられるような人手の充実した施設で過ごせると助かる。老健などで必要な職員の数の基準を上げなければ、介護職の給料だけ上げて職員は増えないように思う。  
（女性、50代、長生地域）

医療機関から本人と家族に対する、つつみ隠さない状況説明、考えられる治療方針の提示と、本人・家族が治療方針を選択できるようにすることが大切だと思います。妻が千葉県がんセンターでお世話になっていますが、そのような環境が整っていると実感しています。  
（男性、60～64歳、千葉地域）

法的整備を行った上で、終末期が来たとき、医者任せではなく患者本人の意思を尊重し自ら死を選択できるような終末期医療を検討すべきと考えます。  
（男性、60～64歳、印旛地域）

死期の迎え方をひとりひとりの人が考える教育の場が必要だと考えます。また、死期を迎えた人やその家族にわかりやすく説明できる医療関係者の育成も重要と考えます。死期をサポートする人材の育成が進むことを願います。  
（女性、50代、東葛飾地域）

緩和ケア、在宅ケアの受けられる施設や支援に力を入れて、地域での受け入れ体勢を整えてほしい。  
（女性、30代、長生地域）

日頃より家族でコミュニケーションをとり、考え方、認識の統一をしておきたい。行政が音頭をとるのは難しいかもしれないが世の流れを見ながら、啓発をお願いしたい。  
（男性、40代、葛南地域）

## 4 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

### （１）介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか

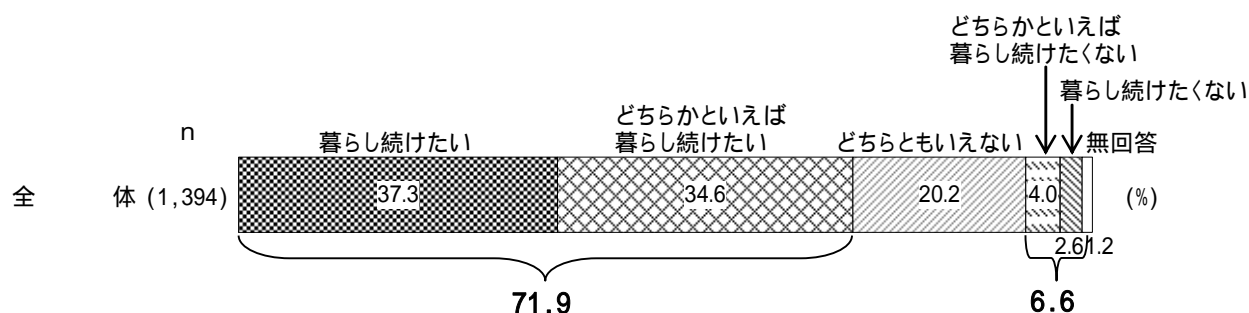
『暮らし続けたい（計）』が7割を超える

県では、高齢者が介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、必要なサービスが提供される「地域包括ケアシステム」の構築促進に取り組んでいます。

地域包括ケアシステムは、日常生活圏域（おおむね中学校の学区）において、在宅医療、訪問介護・看護、介護サービス、見守り・買物支援等の生活支援サービスなどを必要に応じ組み合わせることにより、高齢者が介護が必要になっても、住み慣れた居宅、地域で暮らし続けることを目指すものです。

問15 あなたは、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいですか。（は1つ）

<図表4 - 1> 介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか



介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思うか聞いたところ、「暮らし続けたい」(37.3%)と「どちらかといえば暮らし続けたい」(34.6%)を合わせた『暮らし続けたい(計)』(71.9%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえば暮らし続けたくない」(4.0%)と「暮らし続けたくない」(2.6%)を合わせた『暮らし続けたくない(計)』(6.6%)は1割未満となっている。(図表4 - 1)

#### 【地域別】

地域別にみると、『暮らし続けたい(計)』は“安房地域”(82.1%)が8割を超えて高くなっている。

一方、『暮らし続けたくない(計)』は“夷隅地域”(20.0%)が2割、“長生地域”(17.5%)が約2割で高くなっている。(図表4 - 2)

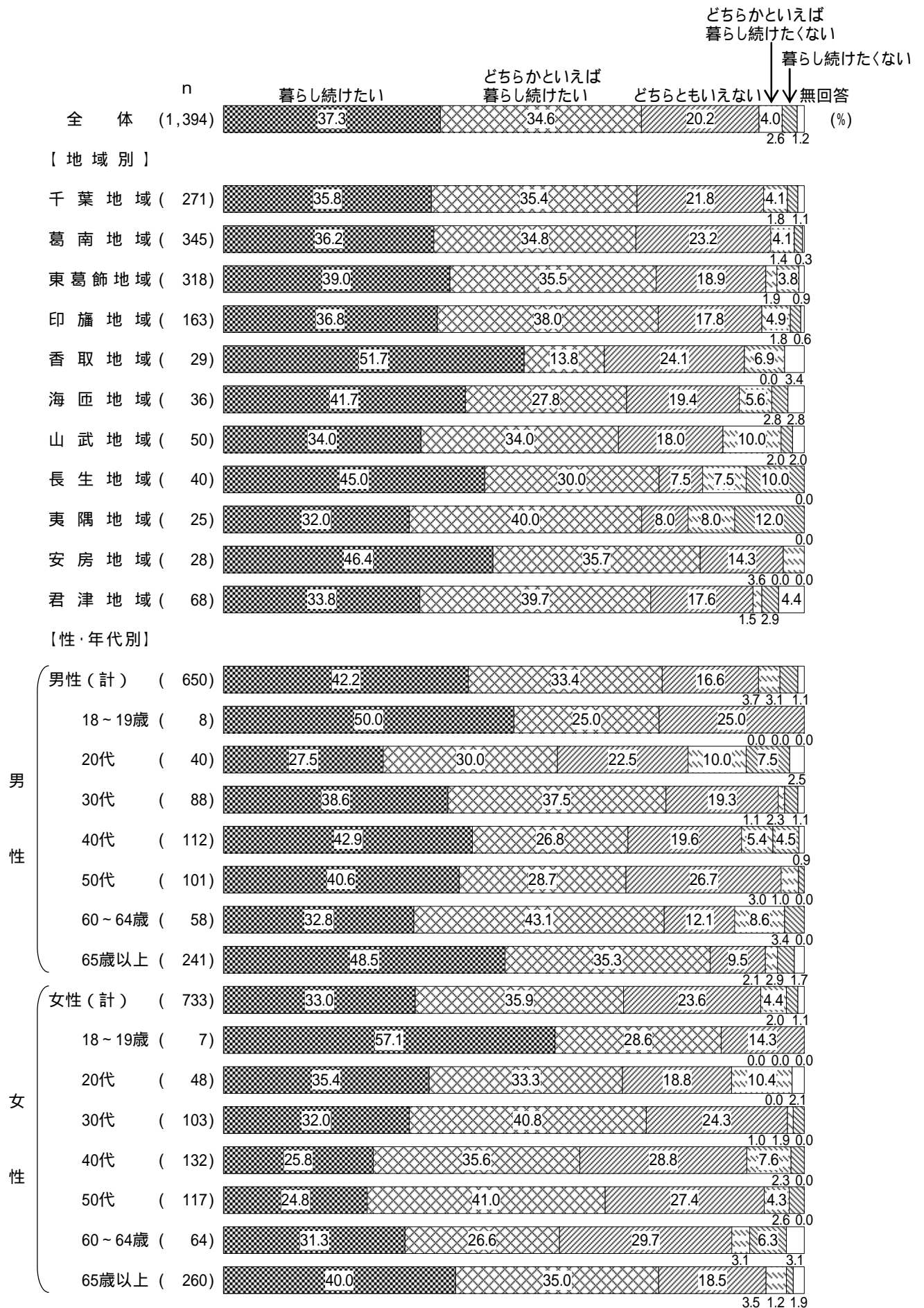
#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『暮らし続けたい(計)』は男性の65歳以上(83.8%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『暮らし続けたくない(計)』は男性の20代(17.5%)が約2割で高くなっている。

(図表4 - 2)

<図表4 - 2> 介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか / 地域別、性・年代別

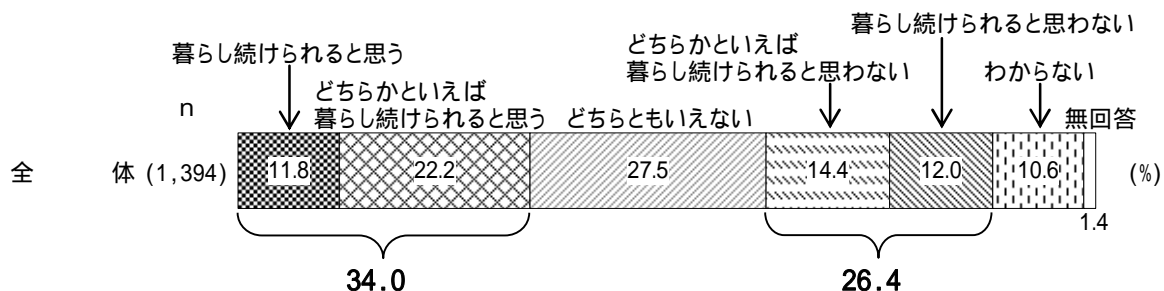


## （２）介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

『暮らし続けられると思う（計）』が３割台半ば

問16 あなたは、介護が必要になっても現在お住まいの自宅や地域で暮らし続けられると思いますか。（は１つ）

＜図表４－３＞介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか



介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「暮らし続けられると思う」(11.8%)と「どちらかといえば暮らし続けられると思う」(22.2%)を合わせた『暮らし続けられると思う(計)』(34.0%)が３割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば暮らし続けられると思わない」(14.4%)と「暮らし続けられると思わない」(12.0%)を合わせた『暮らし続けられると思わない(計)』(26.4%)は２割台半ばとなっている。(図表４－３)

### 【地域別】

地域別にみると、『暮らし続けられると思う(計)』は“安房地域”(50.0%)が５割で高くなっている。

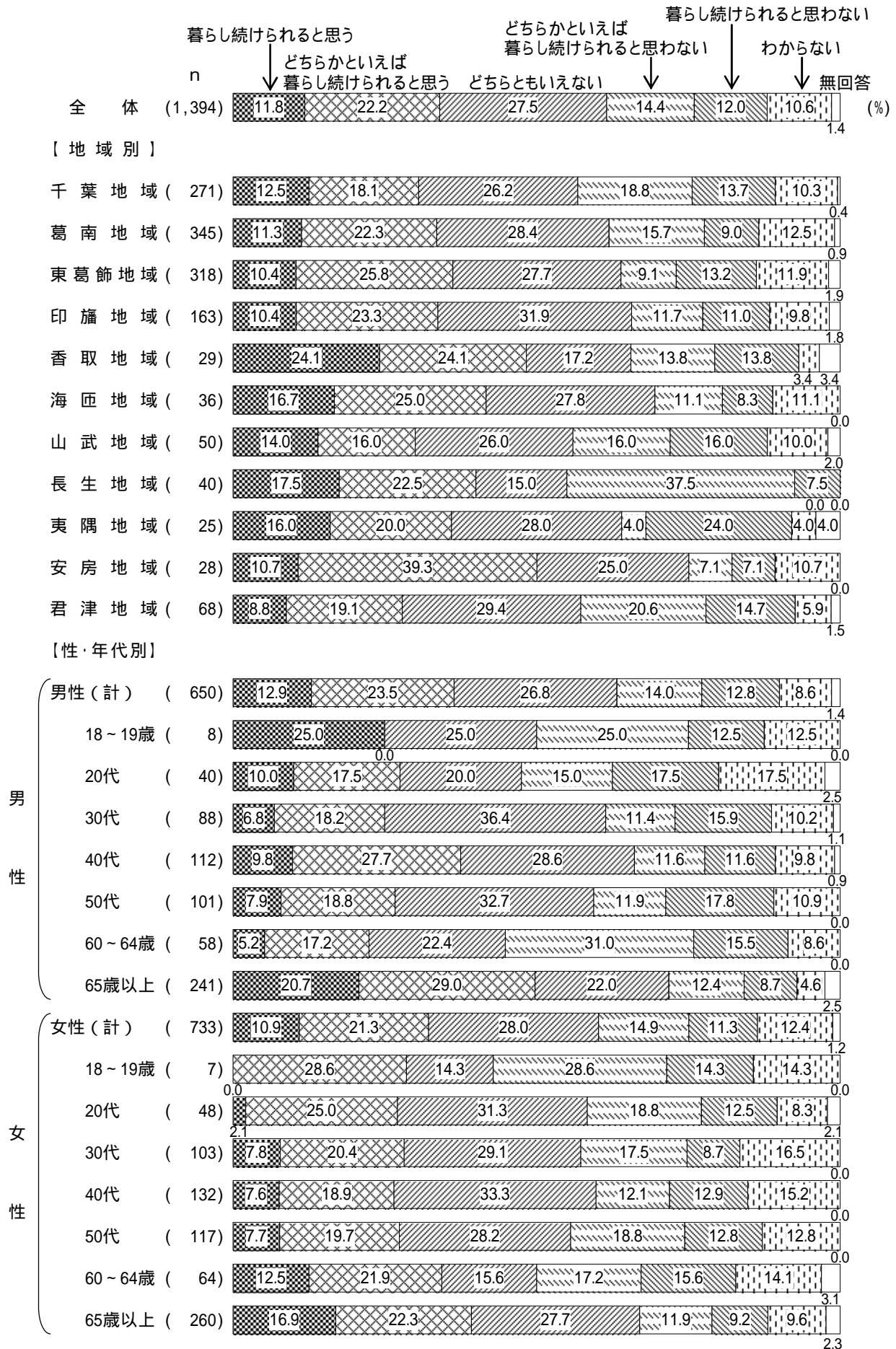
一方、『暮らし続けられると思わない(計)』は“長生地域”(45.0%)が４割台半ばで高くなっている。(図表４－４)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『暮らし続けられると思う(計)』は男性の65歳以上(49.7%)が約５割で高くなっている。

一方、『暮らし続けられると思わない(計)』は男性の60～64歳(46.5%)が４割台半ばで高くなっている。(図表４－４)

<図表4 - 4> 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか / 地域別、性・年代別



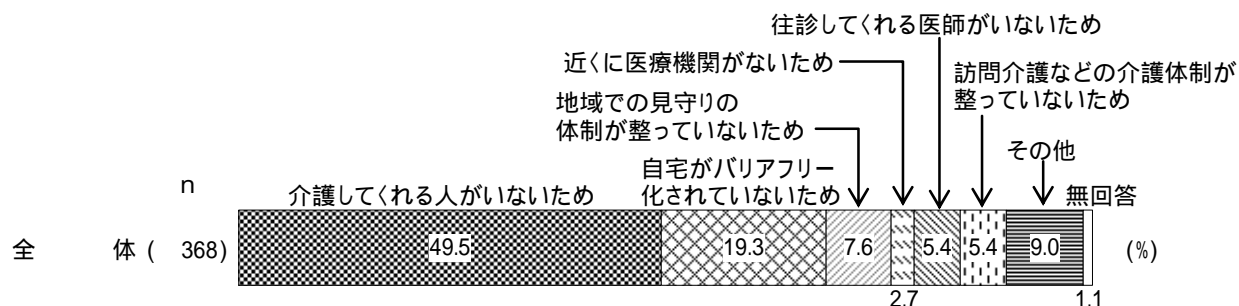
### （３）現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由

「介護してくれる人がいないため」が約５割

（問16で「どちらかといえば暮らし続けられると思わない」、「暮らし続けられると思わない」とお答えの方に）

問17 あなたが、暮らし続けられると思わない理由は何ですか。（ は１つ）

<図表４－５>現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由

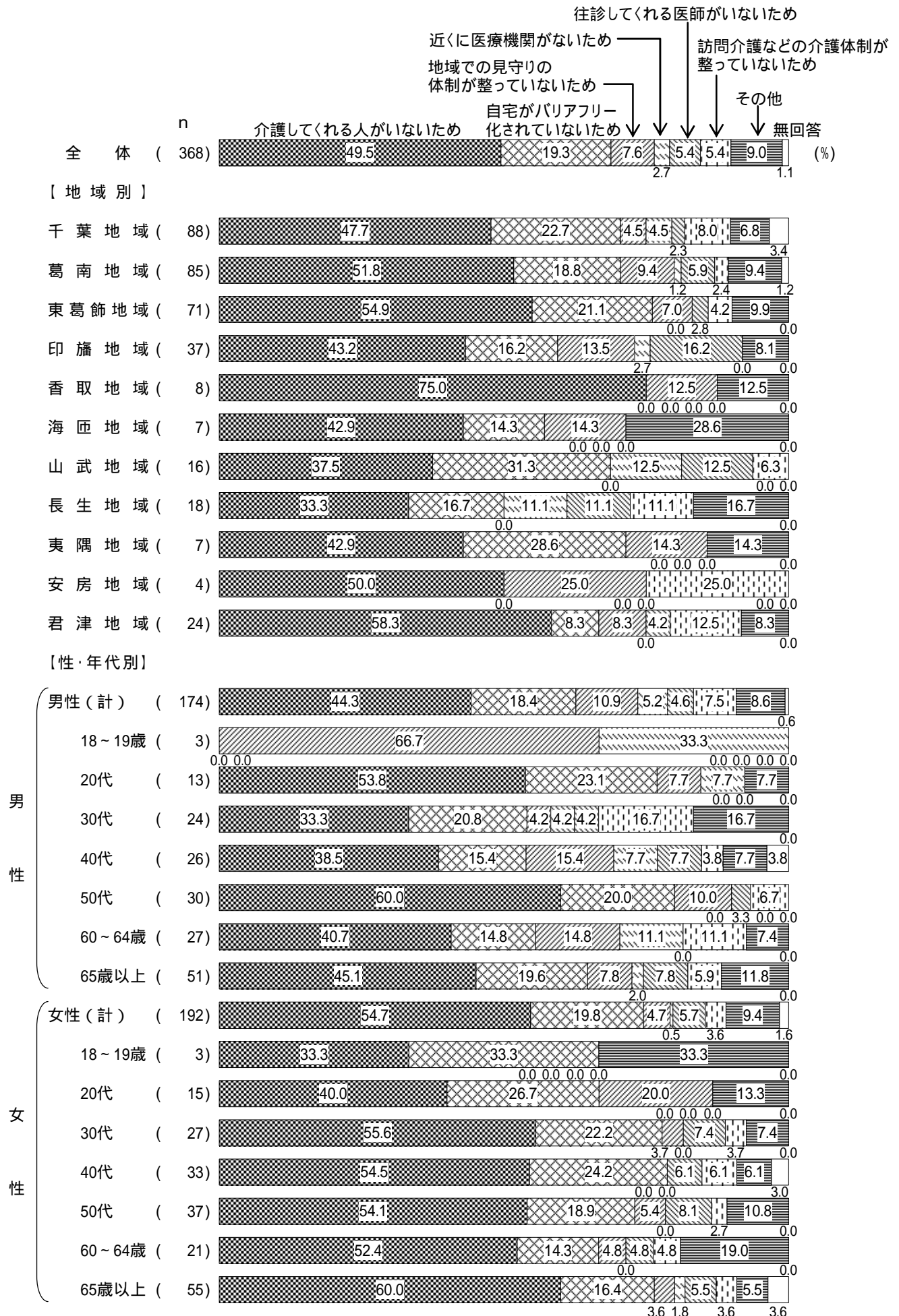


介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わないと答えた368人を対象に、その理由を聞いたところ、「介護してくれる人がいないため」(49.5%)が約５割で最も高く、以下、「自宅がバリアフリー化されていないため」(19.3%)、「地域での見守りの体制が整っていないため」(7.6%)が続く。(図表４－５)

サンプル数が少ない(有意差がない)ため、【地域別】と【性・年代別】における属性の分析は触れていない。(12ページ「報告書の見方(４)」を参照)



<図表4 - 6> 現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由／地域別、性・年代別



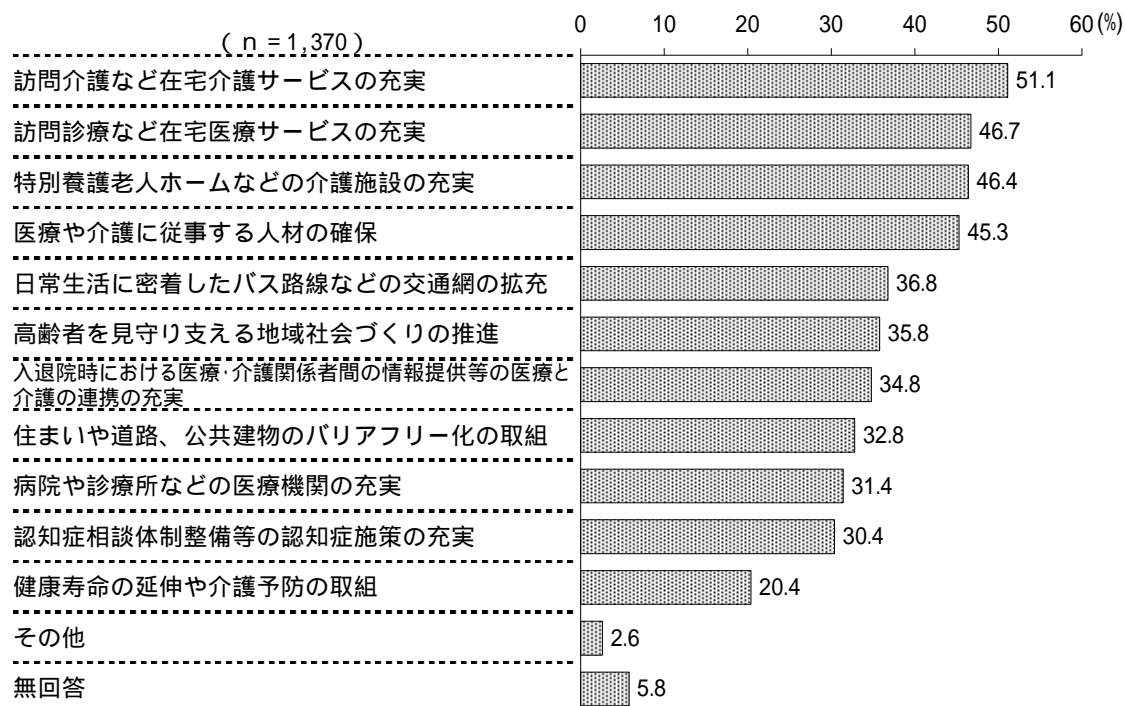
#### （４）地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること

「訪問介護など在宅介護サービスの充実」が５割を超える

（問16で「暮らし続けられると思う」、「どちらかといえば暮らし続けられると思う」、「どちらともいえない」、「わからない」とお答えの方、問17をお答えの方に）

問18 あなたが、地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めることは何ですか。（はいくつでも）

<図表４－７> 地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること  
（複数回答）



介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うと答えた人、「どちらともいえない」あるいは「わからない」と答えた人、および暮らし続けられると思わない理由を回答した1,370人を対象に、地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めることを聞いたところ、「訪問介護など在宅介護サービスの充実」（51.1％）が５割を超えて最も高く、以下、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」（46.7％）、「特別養護老人ホームなどの介護施設の充実」（46.4％）、「医療や介護に従事する人材の確保」（45.3％）が続く。（図表４－７）

##### 【地域別】

地域別にみると、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」は“香取地域”（67.9％）が約７割で高くなっている。

「日常生活に密着したバス路線などの交通網の拡充」は“印旛地域”（51.9％）が５割を超えて高くなっている。（図表４－８）

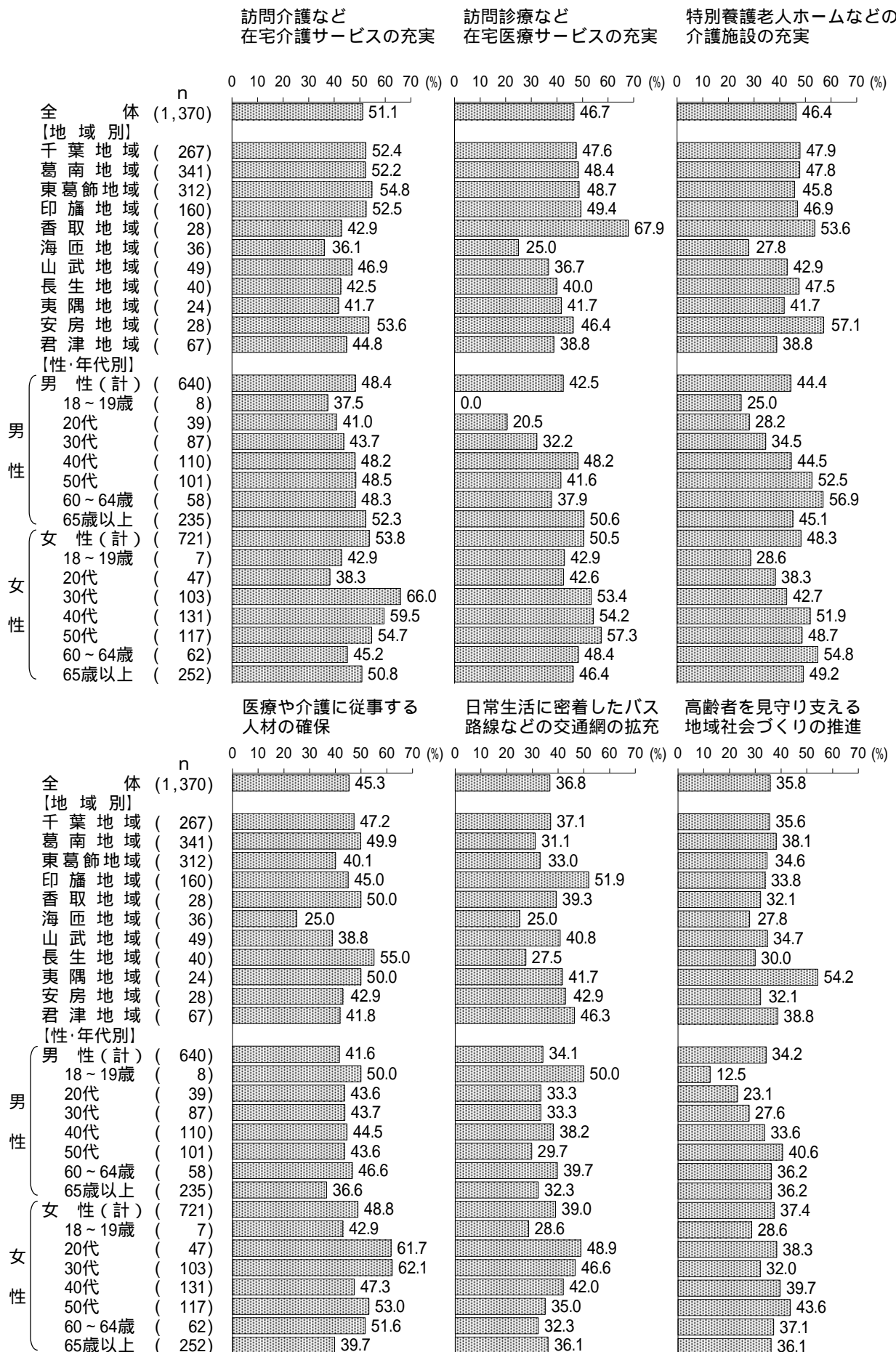
##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「訪問介護など在宅介護サービスの充実」は女性の30代（66.0％）が６割台半ばで高くなっている。

「訪問診療など在宅医療サービスの充実」は女性の50代（57.3％）が約６割で高くなっている。

「医療や介護に従事する人材の確保」は女性の20代（61.7％）、30代（62.1％）が６割を超えて高くなっている。（図表４－８）

<図表4 - 8> 地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること  
（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

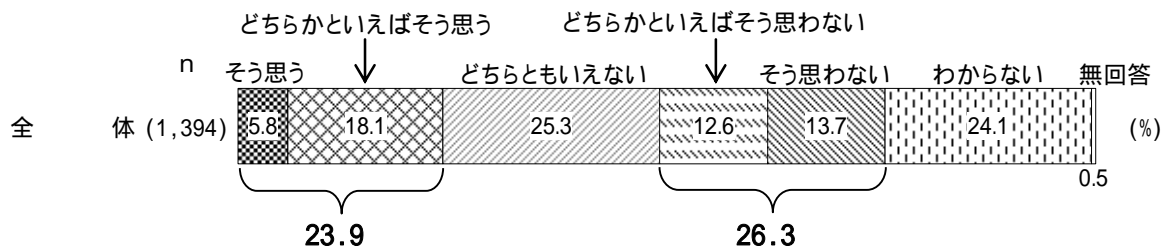


## （５）高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか

『そう思う（計）』が２割台半ば

問19 あなたは、千葉県に住む高齢者が年齢にとらわれず、仕事やボランティア活動への参加など、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思いますか。（は１つ）

<図表４－９> 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか



高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」（5.8%）と「どちらかといえばそう思う」（18.1%）を合わせた『そう思う（計）』（23.9%）が２割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（12.6%）と「そう思わない」（13.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（26.3%）は２割台半ばとなっている。（図表４－９）

### 【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“山武地域”（34.0%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表４－10）

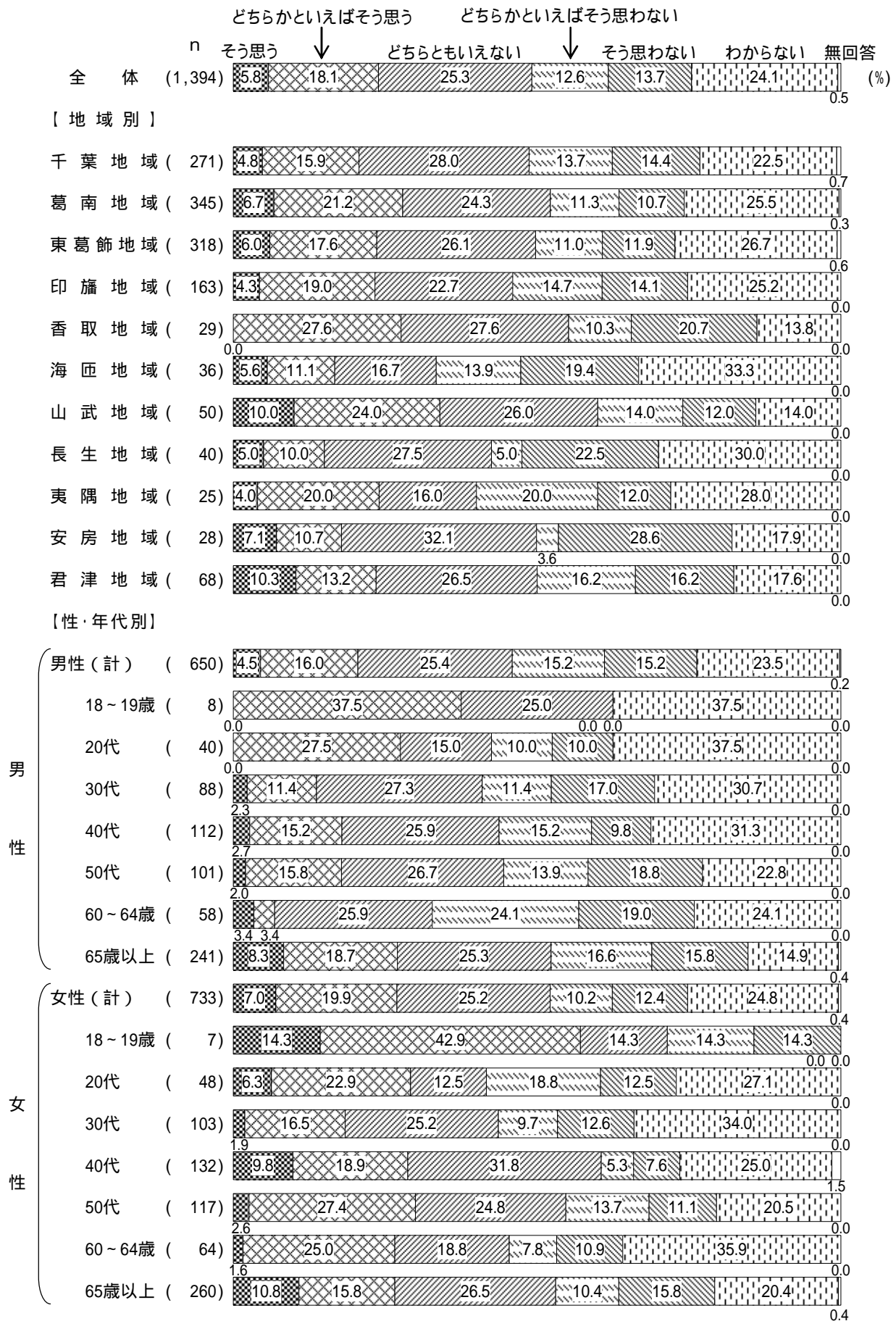
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の50代（30.0%）が３割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（43.1%）が４割を超えて高くなっている。

（図表４－10）

<図表4 - 10> 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか／地域別、性・年代別

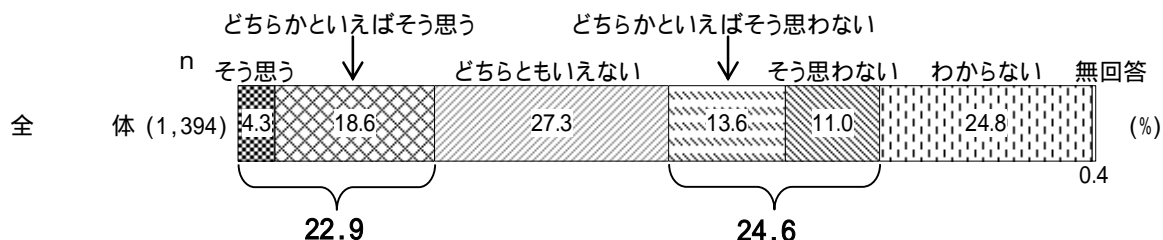


## （６）高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか

『そう思う（計）』が２割を超える

問20 あなたは、千葉県に住む高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。（ は１つ）

<図表４－１１> 高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか



高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.3%)と「どちらかといえばそう思う」(18.6%)を合わせた『そう思う(計)』(22.9%)が２割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.6%)と「そう思わない」(11.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(24.6%)は２割台半ばとなっている。(図表４－１１)

### 【地域別】

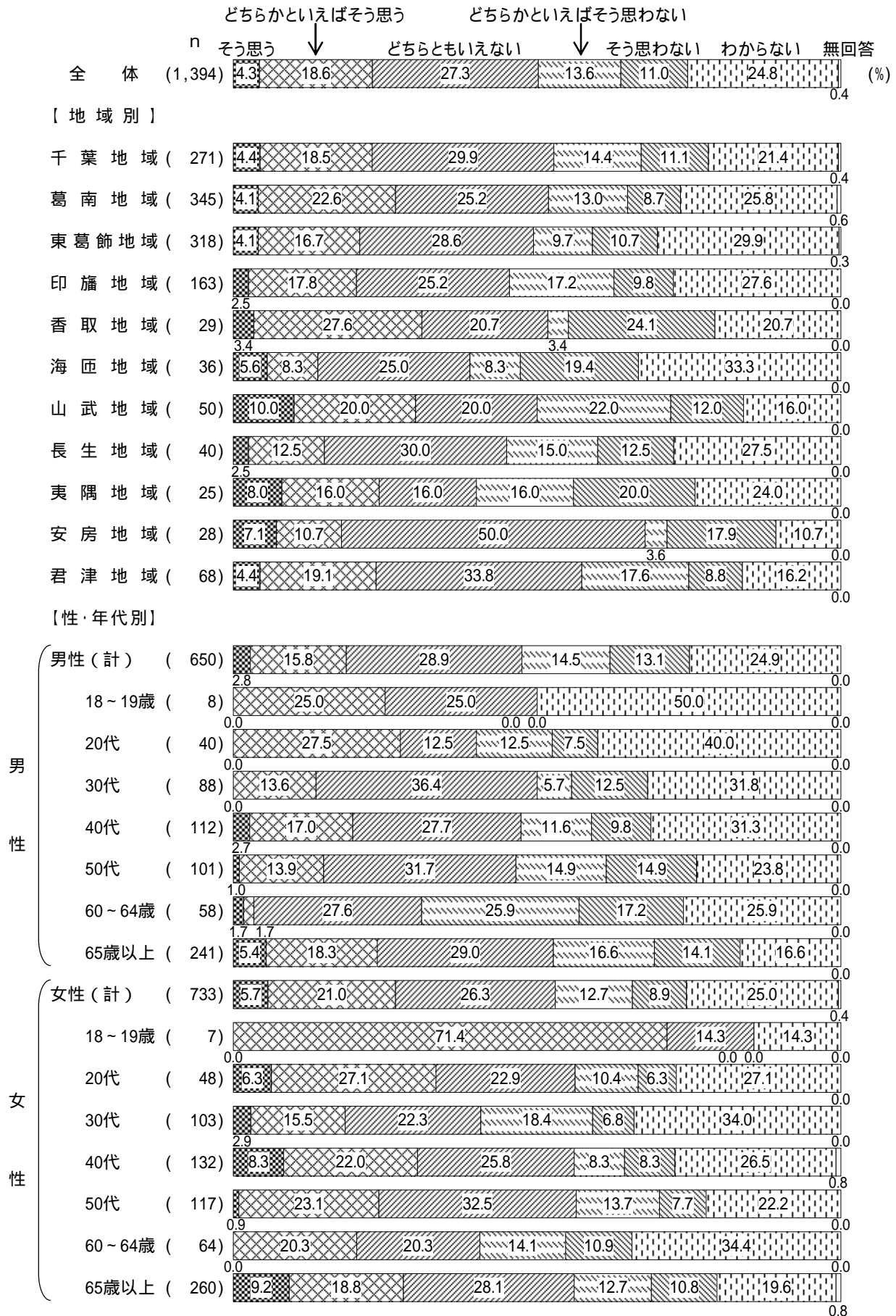
地域別にみると、『そう思わない(計)』は“夷隅地域”(36.0%)、“山武地域”(34.0%)が３割台半ばで高くなっている。(図表４－１２)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の20代(33.4%)が３割を超え、女性の40代(30.3%)が３割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の60～64歳(43.1%)が４割を超え、男性の65歳以上(30.7%)が３割で高くなっている。(図表４－１２)

<図表4 - 12> 高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか / 地域別、性・年代別



このほかに、「高齢者が地域で暮らし続けるための施策について」やここまでの質問（問15～問20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、238人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「高齢者が地域で暮らし続けるための施策」の自由回答（抜粋）

ある程度健康に自信があって、それなりの意欲がある高齢者は結構いるので、それらの人々に地域活動やボランティアに参加したら、ポイントを与えて、いずれ自分が自立できなくなった時にそのポイントを使える様にしたら良いと思う。（女性、65歳以上、千葉地域）

ユニバーサルデザインの環境を増やして欲しい。（男性、20代、千葉地域）

最も必要なことは、健康を維持できるということではないでしょうか。高齢者が介護状態にならないよう、運動や食事などについての予防のためのサービスがなされるとよいと思います。（女性、60～64歳、千葉地域）

昨年から、民生委員の方が発起人となり、近くでふれあい体操教室が始まりました。近いので車に乗れない高齢者も参加でき、市の保健師さんや栄養士さんが来てくれて組体操をしたり、食育の話をしたりお茶会をしたりと、今まであいさつ程度しかしなかった人ともお話ができるようになりました。（女性、65歳以上、安房地域）

公共交通機関が少ない地方の高齢者はどうしても車を運転するしかない。デマンドタクシーなどもあるが、ニーズに答えきれていないと感じる。難しい問題だと思うが、県の取り組みに期待する。（女性、40代、君津地域）

介護等への人材確保はむずかしい。また、若い人が少ないため育てることができない。高齢者との関わりは大変。（男性、65歳以上、安房地域）

ケアマネジャー、相談員や介護職の賃金の向上を求めます。きつい、きたない仕事。賃金があがらなければみんな続けられません。（女性、50代、印旛地域）

地域の卓球の同好会で週2回運動をしているが、他の同好会も盛んです。健康維持への積極的取り組みが結果的に医療費等の節減になると考える。（男性、65歳以上、印旛地域）

千葉県生涯大学校で学ばせていただいた1人です。楽しい生きがいを感じ、多数の友人も得ました。多くの県民が学ばれ経験される事を望みます。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

元気で前向きな性格の方々は、地域でのさまざまな活動に参加していると思います。そうではない方々も参加してみようかと思えるような活動と声かけに力を入れてみたらと思います。（女性、65歳以上、印旛地域）



## 5 障害者施策について

### （１）障害のある人に対する支援経験

『している（計）』が２割

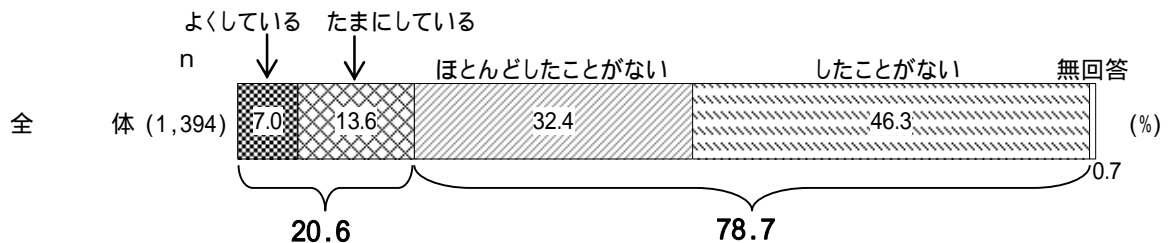
県では、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくりをすすめています。今後の取組の参考とするため、ご意見をお聞かせください。

問21 あなたは、障害のある人に対する支援（ ）をしたことがありますか。

（仕事やボランティア等）（ は１つ）

ここでいう「支援」とは、例えば車いす利用者の移動の介助や聴覚障害のある人への筆談対応など、障害のある人の生活や活動への直接的な支援を意味します。

<図表５－１> 障害のある人に対する支援経験



障害のある人に対する支援をしたことがあるか聞いたところ、「よくしている」（7.0％）と「たまにしている」（13.6％）を合わせた『している（計）』（20.6％）が２割となっている。

一方、「ほとんどしたことがない」（32.4％）と「したことがない」（46.3％）を合わせた『したことがない（計）』（78.7％）は約８割となっている。（図表５－１）

#### 【地域別】

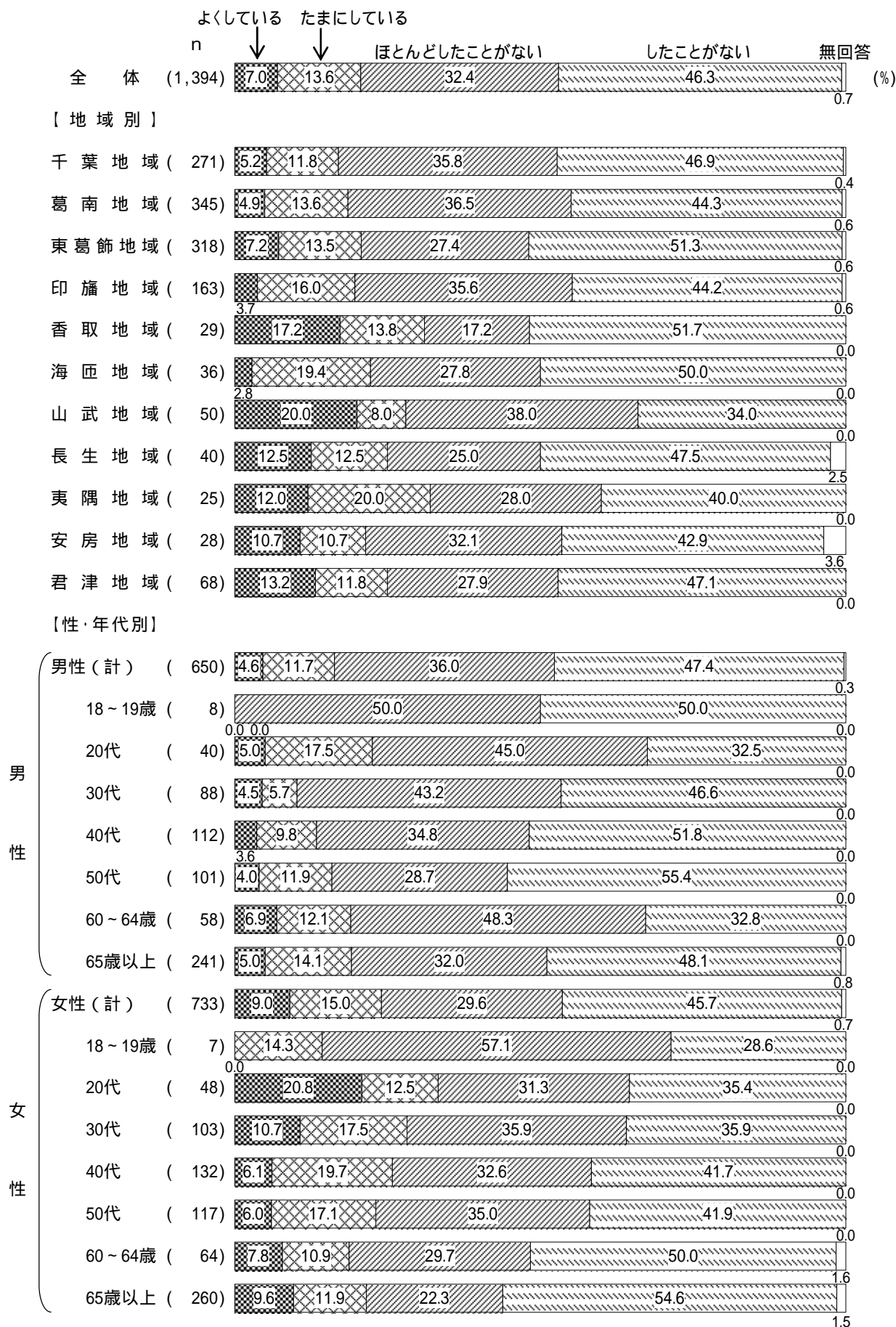
地域別にみると、『している（計）』は“夷隅地域”（32.0％）、“香取地域”（31.0％）が３割を超えて高くなっている。（図表５－２）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『している（計）』は女性の20代（33.3％）が３割を超えて高くなっている。

一方、『したことがない（計）』は男性の30代（89.8％）が約９割、男性の40代（86.6％）、50代（84.1％）が８割台半ばで高くなっている。（図表５－２）

<図表5 - 2> 障害のある人に対する支援経験 / 地域別、性・年代別



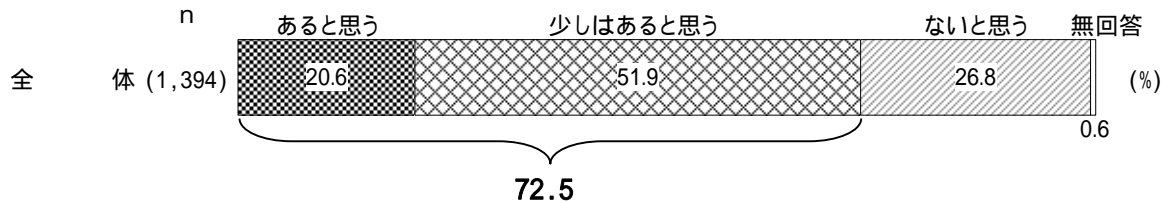
## （２）障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無

『あると思う（計）』が7割を超える

問22 あなたは、障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。

（ は1つ）

<図表5 - 3> 障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無



障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思うか聞いたところ、「あると思う」(20.6%)が2割となっており、これと「少しはあると思う」(51.9%)を合わせた『あると思う(計)』(72.5%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「ないと思う」(26.8%)は2割台半ばとなっている。(図表5 - 3)

### 【地域別】

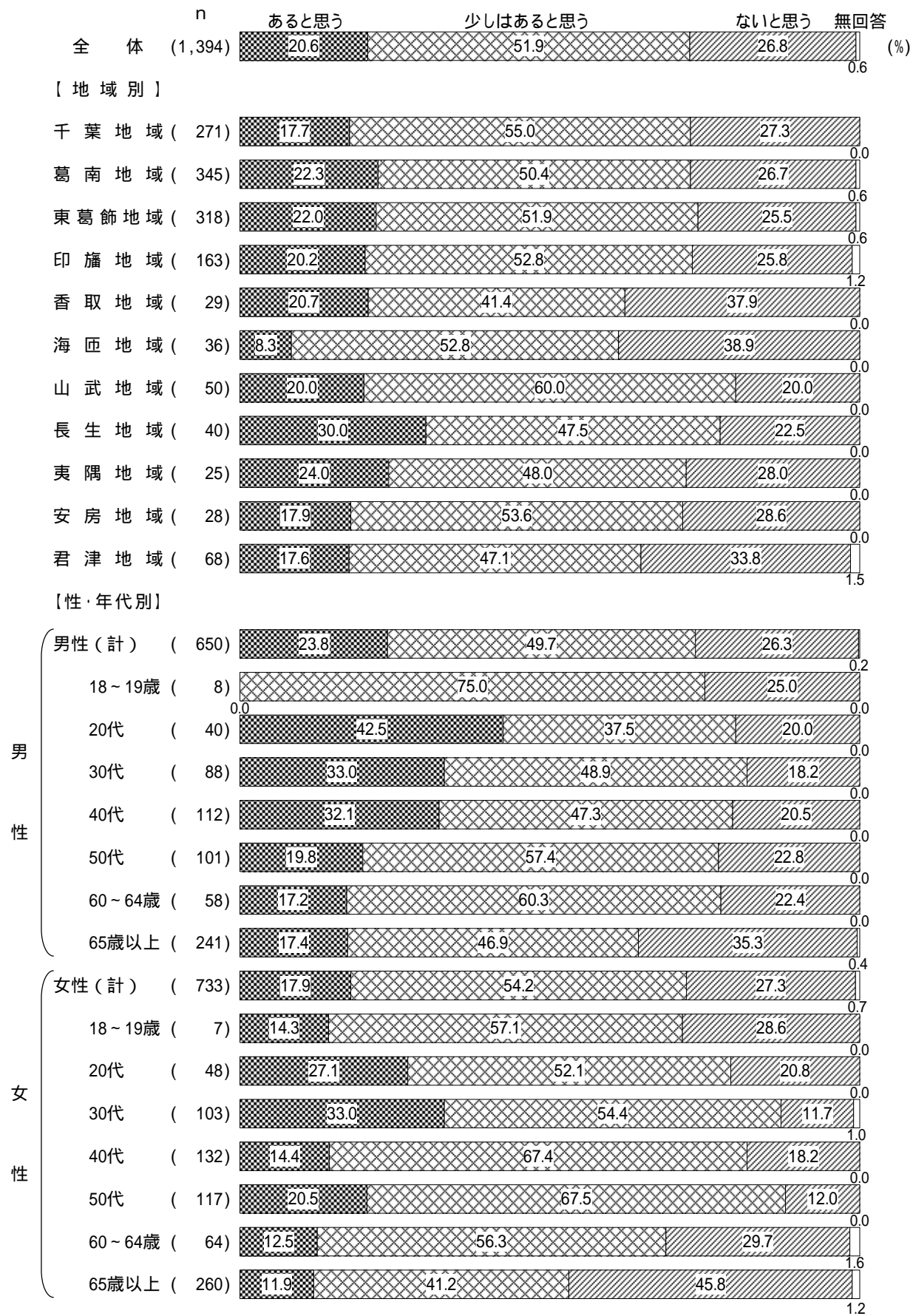
地域別にみると、「ないと思う」は“海匝地域”(38.9%)、“香取地域”(37.9%)が約4割で高くなっている。(図表5 - 4)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」は男性の20代(42.5%)が4割を超え、男性の30代(33.0%)、40代(32.1%)と女性の30代(33.0%)が3割を超えて高くなっている。

一方、「ないと思う」は女性の65歳以上(45.8%)が4割台半ば、男性の65歳以上(35.3%)が3割台半ばで高くなっている。(図表5 - 4)

<図表5 - 4>障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無／地域別、性・年代別

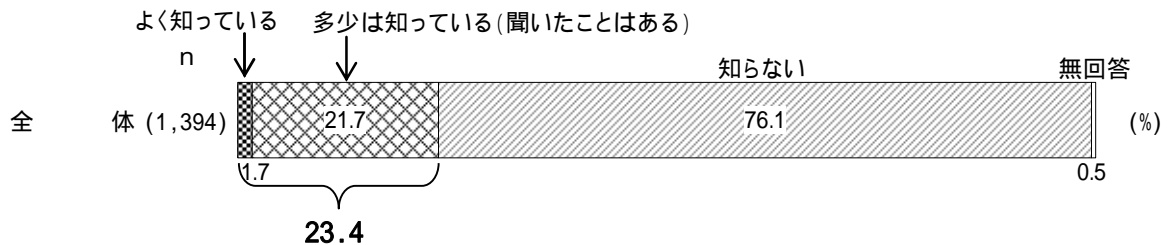


### （３）「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

『聞いたことがある（計）』が２割を超える

問23 あなたは、障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っていますか。（ は１つ）

<図表５－５> 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況



「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(1.7%)と「多少は知っている(聞いたことはある)」(21.7%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(23.4%)が２割を超えている。

一方、「知らない」(76.1%)は７割台半ばとなっている。(図表５－５)

#### 【地域別】

地域別にみると、『聞いたことがある(計)』は“夷隅地域”(40.0%)が４割で高くなっている。

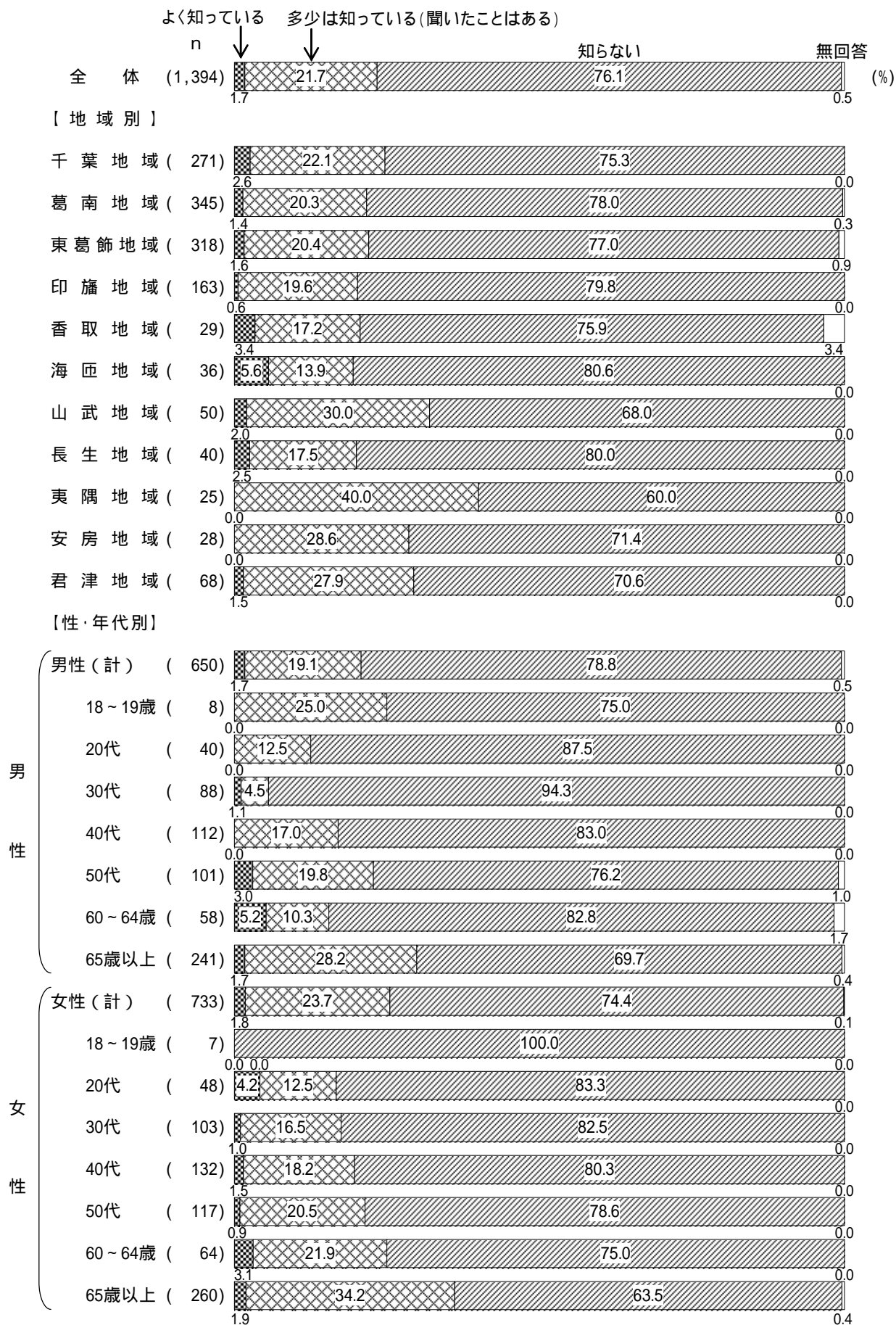
(図表５－６)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある(計)』は女性の65歳以上(36.1%)が３割台半ば、男性の65歳以上(29.9%)が約３割で高くなっている。(図表５－６)

<図表5 - 6> 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

/ 地域別、性・年代別

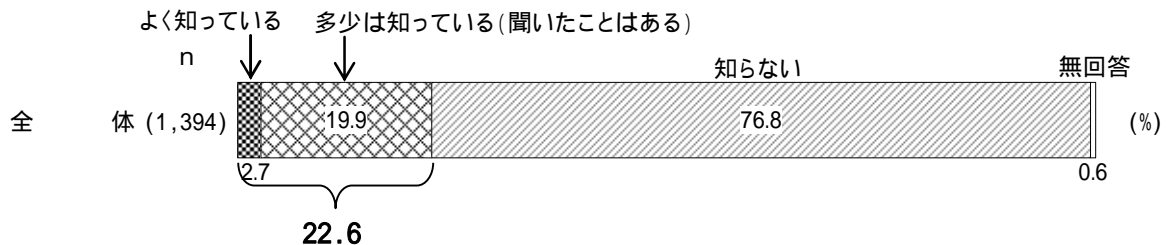


#### （４）「障害者差別解消法」認知状況

『聞いたことがある（計）』が２割を超える

問24 あなたは、平成28年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）を知っていますか。（ は1つ）

<図表5 - 7> 「障害者差別解消法」認知状況



「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）を知っているか聞いたところ、「よく知っている」（2.7%）と「多少は知っている（聞いたことはある）」（19.9%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（22.6%）が２割を超えている。

一方、「知らない」（76.8%）は７割台半ばとなっている。（図表5 - 7）

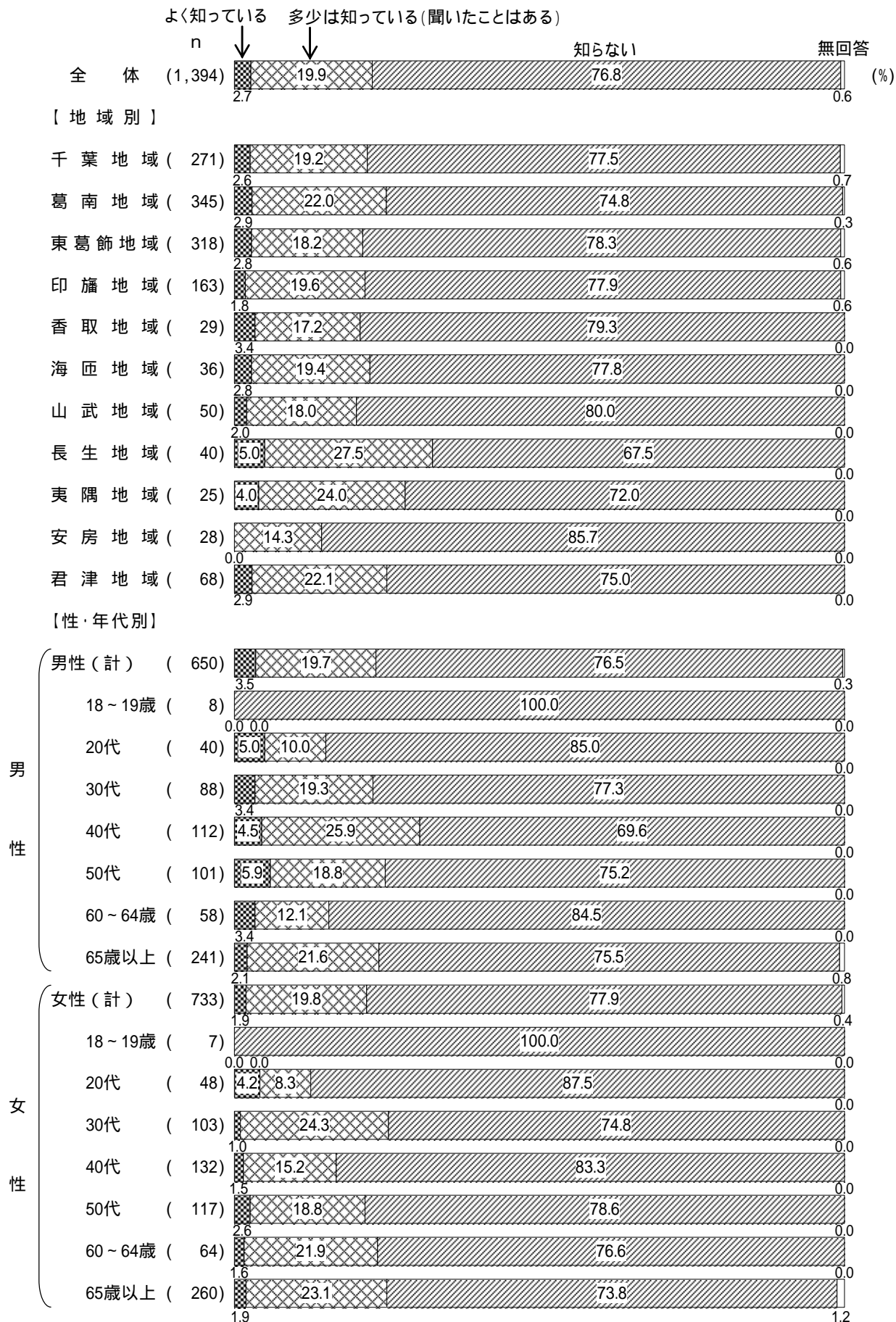
##### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表5 - 8）

##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は男性の40代（30.4%）が３割で高くなっている。（図表5 - 8）

<図表5 - 8> 「障害者差別解消法」認知状況／地域別、性・年代別





このほかに、「障害者施策について」やここまでの質問（問21～問24）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、164人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「障害者施策」の自由回答（抜粋）

障害に対する知識を一般的に広めることで差別は少なくなるのではないかと思います。

（女性、30代、印旛地域）

障害者の就労の枠を広げることが急務。

（男性、65歳以上、葛南地域）

身体障害を持った方に対する支援や施設の整備などは充実してきたように思えるが、発達障害等を持った方に対しての支援もっと充実すべきだと思う。

（女性、20代、葛南地域）

施設で働いていますが、現場の人員確保、従事する人の能力の格差等、難しい事が多いです。待遇面でも、もう少し見合った給料を考えてほしい。

（女性、65歳以上、山武地域）

意外に住民が障害者と接する機会が少ない。イベント等を通じて機会を増やすべきである。パラリンピックもあるので、この機会に障害者への支援を更に考えるべきと考えます。

（男性、40代、夷隅地域）

何ができて何ができないのか、それぞれ症状は異なると思うが、具体的にどのような支援を必要とされているのかがわかりにくい。事例を紹介してほしい。

（女性、30代、葛南地域）

近所に、両親が亡くなってひとりで生活している、障害がある様子の方がいます。このようになった場合の生活方法がわからない。

（男性、65歳以上、海匝地域）

学校に車いすの子がいますが、トイレや階段などでとても苦労しています。校内のバリアフリー化をもっと進めて欲しいです。

（女性、40代、印旛地域）

かつて仕事で障害のある人に直接的な支援をしたことがありますが、それ以外ではほとんどしたことがありません。県の条例や平成28年4月に施行された法律も知りませんでした。これら条例や法律の普及啓発のための施策がますます重要と思います。

（男性、65歳以上、長生地域）

障害者に対する差別意識はないが、対応の仕方がわからず支援できない場合があるのではと思う。

（男性、65歳以上、印旛地域）

## 6 男女共同参画社会の実現について

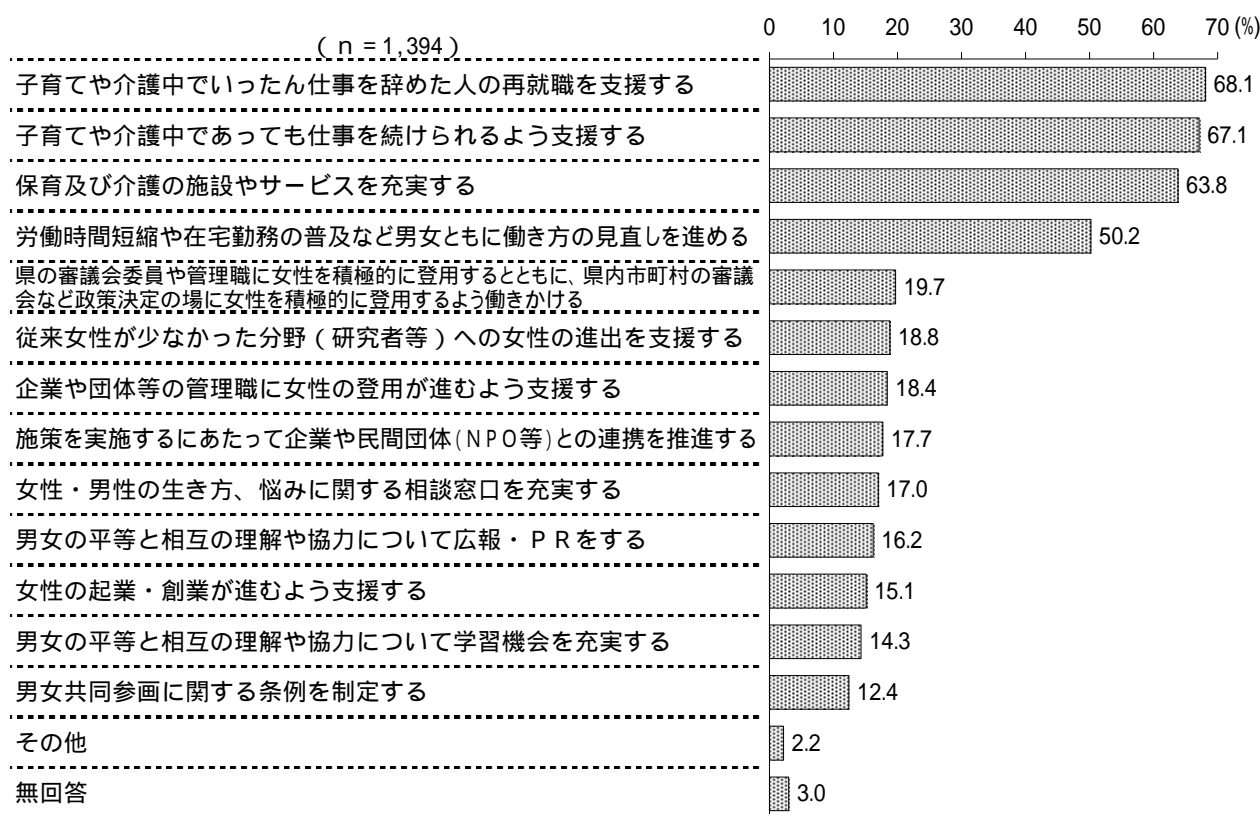
### （１）男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組

「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」と「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が約７割

県では、男女がともに認め合い、支え合うパートナーとして、いきいきと活躍できる男女共同参画社会の実現を目指しています。

問25 あなたは、男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（はいくつでも）

<図表 6 - 1> 男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組（複数回答）



男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（68.1％）と「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（67.1％）が約７割で高く、以下、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（63.8％）、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（50.2％）が続く。

（図表 6 - 1）

#### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 6 - 2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は女性の60～64歳（82.8％）が８割を超え、女性の30代（78.6％）が約８割で高くなっている。

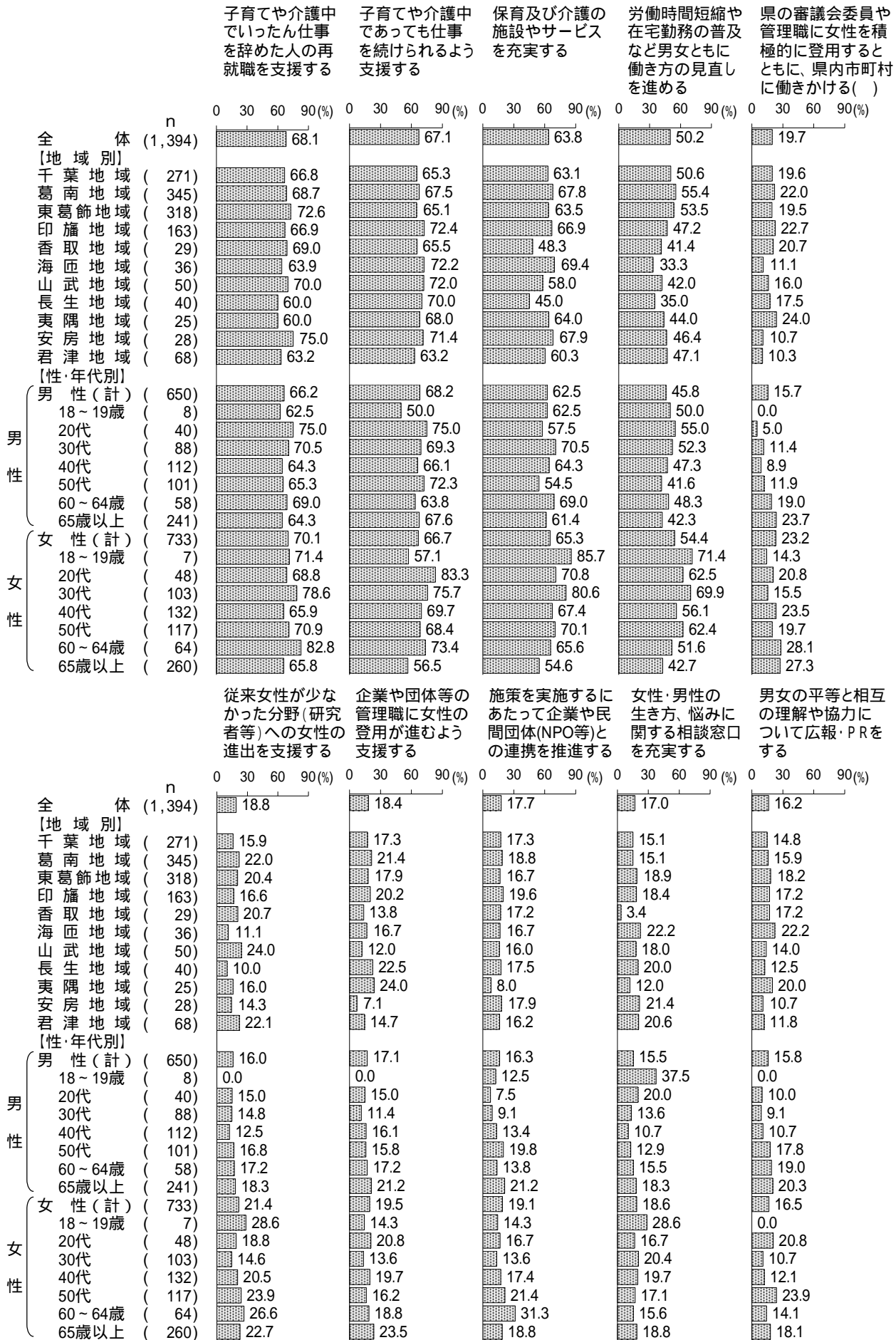
「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」は女性の20代（83.3％）が８割を超えて高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の30代（80.6％）が８割で高くなっている。

「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の30代（69.9％）が約７割で高くなっている。（図表 6 - 2）

<図表6 - 2> 男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組（複数回答）

/ 地域別、性・年代別（上位10項目）



## （２）男女共同参画センターで充実させるべき事業

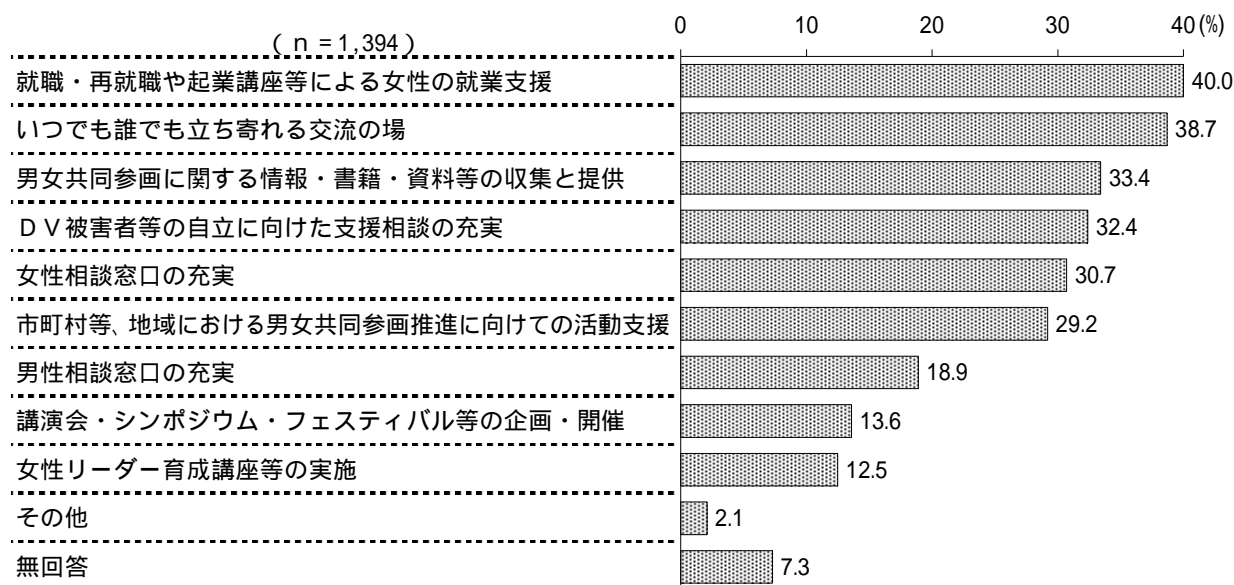
「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」が４割

問26 県では男女共同参画推進拠点として、「男女共同参画センター」を設置しています。

あなたは、男女共同参画センターにおいてどのような事業を充実させるべきだと思いますか。

なお、このセンターは平成30年度中に、現在の千葉市稲毛区から千葉市中央区へ移転する予定です。（はいいくつでも）

<図表6-3> 男女共同参画センターで充実させるべき事業（複数回答）



男女共同参画センターにおいてどのような事業を充実させるべきだと思うか聞いたところ、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」（40.0％）が４割で最も高く、以下、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」（38.7％）、「男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供」（33.4％）、「DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実」（32.4％）が続く。（図表6-3）

### 【地域別】

地域別にみると、「男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供」は「安房地域」（60.7％）が６割で高くなっている。

「DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実」は「葛南地域」（38.3％）が約４割で高くなっている。（図表6-4）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」は女性の30代（59.2％）が約６割、女性の40代（56.8％）、60～64歳（54.7％）が５割台半ばで高くなっている。

「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」は女性の65歳以上（50.8％）が５割で高くなっている。

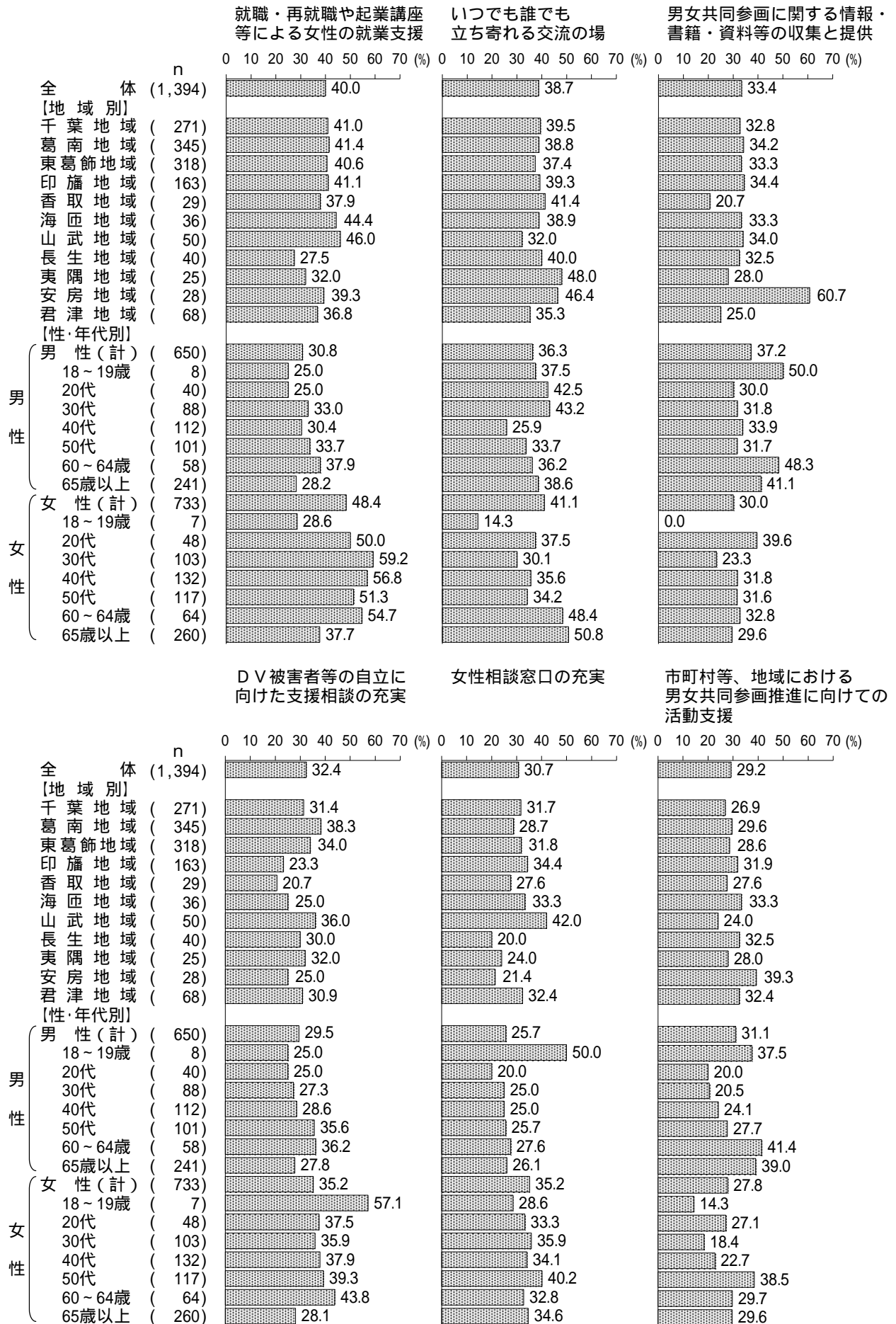
「男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供」は男性の60～64歳（48.3％）が約５割で高くなっている。

「女性相談窓口の充実」は女性の50代（40.2％）が４割で高くなっている。

「市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援」は男性の60～64歳（41.4％）が４割を超え、男性の65歳以上（39.0％）と女性の50代（38.5％）が約４割で高くなっている。

（図表6-4）

<図表6 - 4> 男女共同参画センターで充実させるべき事業(複数回答) / 地域別、性・年代別(上位6項目)



このほかに、「男女共同参画社会の実現について」やここまでの質問（問25～問26）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、131人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「男女共同参画社会の実現」の自由回答（抜粋）

- 「男女共同参画社会」に関連して、「男女平等」について、何をもって男女平等とするのか、「公」「私」双方において平等を目指すのか、「私」において、明らかに平等でない（色々な面で、優劣関係なく）今、「公」だけにおいて、平等を目指すことが出来るのか、など教育の段階で、意見を交わせるべきだと思う。（男性、18～19歳、千葉地域）
- 女性というより、男女ともに働きやすい労働環境の推進をして欲しい。男性も長時間労働しないですめば、女性に同じ働き方を求められなくなると思う。（女性、30代、千葉地域）
- 意識改革の取り組みやサービス・施設の充実などがもっともっと必要だと考える一方、専業主婦（主夫も）を望む者もありそれらの人々に対する理解が薄くなるのではと気になる面もある。個々人の多様な生き方が認められる社会が実現されるよう行政も取り組んでもらいたい。（性別・年代無回答、千葉地域）
- 無理に女性を登用するのではなく、必要な人財を平等に活用してもらえるとよい。子育てに関してはこれも平等に育児を行い、親となった責任を持ってもらえればと思う。（女性、40代、東葛飾地域）
- 未だ女性に対する偏見が残っている。この偏見をクリアーにしていくことで女性の働き方の選択肢を増やすべきである。他方、男性の社会からの影響（女性の社会進出）が多少なりともある為、男性への支援も同じように要望したいです。（男性、40代、夷隅地域）
- 県議会議員や県庁・市役所に女性の役職者をもっと（半数）増やして女性の声を聞き女性の考えを取り入れてほしいと思います。（女性、60～64歳、君津地域）
- 男女平等が叫ばれているが、しかしこれだけは忘れてならない。男女同権であっても同質ではない。その人の状況に応じた細やかな配慮が求められる。（男性、40代、葛南地域）
- 男女共同参画センターがどのような事業を行っているか知りません。事業の内容や講演会などのイベント情報、相談窓口の存在などをwebなどで公開して欲しいです。（女性、40代、印旛地域）
- 子供がいても、女性が社会復帰しやすい環境の構築が、とても大事だと思う。県政だけでは限界があると思うので、企業との協力体制が重要ではないか。（男性、30代、印旛地域）

## 7 食育について

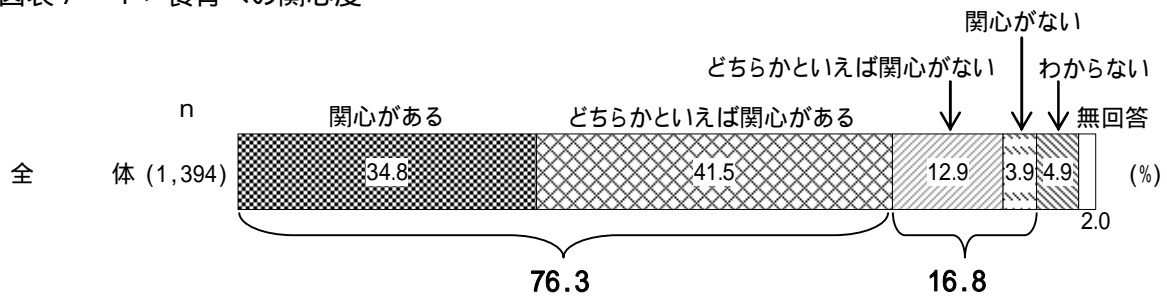
### （１）食育への関心度

『関心がある（計）』が7割台半ば

県では、心身の健康の増進と豊かな人間形成のため、県民一人ひとりが食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるよう、子供から高齢者まで各世代に応じた施策や生産者との交流、食文化の伝承など食育の推進に取り組んでいます。

問27 あなたは、「食育」に関心がありますか。（ は1つ）

<図表7 - 1> 食育への関心度



「食育」に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(34.8%)と「どちらかといえば関心がある」(41.5%)を合わせた『関心がある（計）』(76.3%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」(12.9%)と「関心がない」(3.9%)を合わせた『関心がない（計）』(16.8%)は1割台半ばとなっている。(図表7 - 1)

#### 【地域別】

地域別にみると、『関心がある（計）』は“印旛地域”(83.4%)が8割を超えて高くなっている。

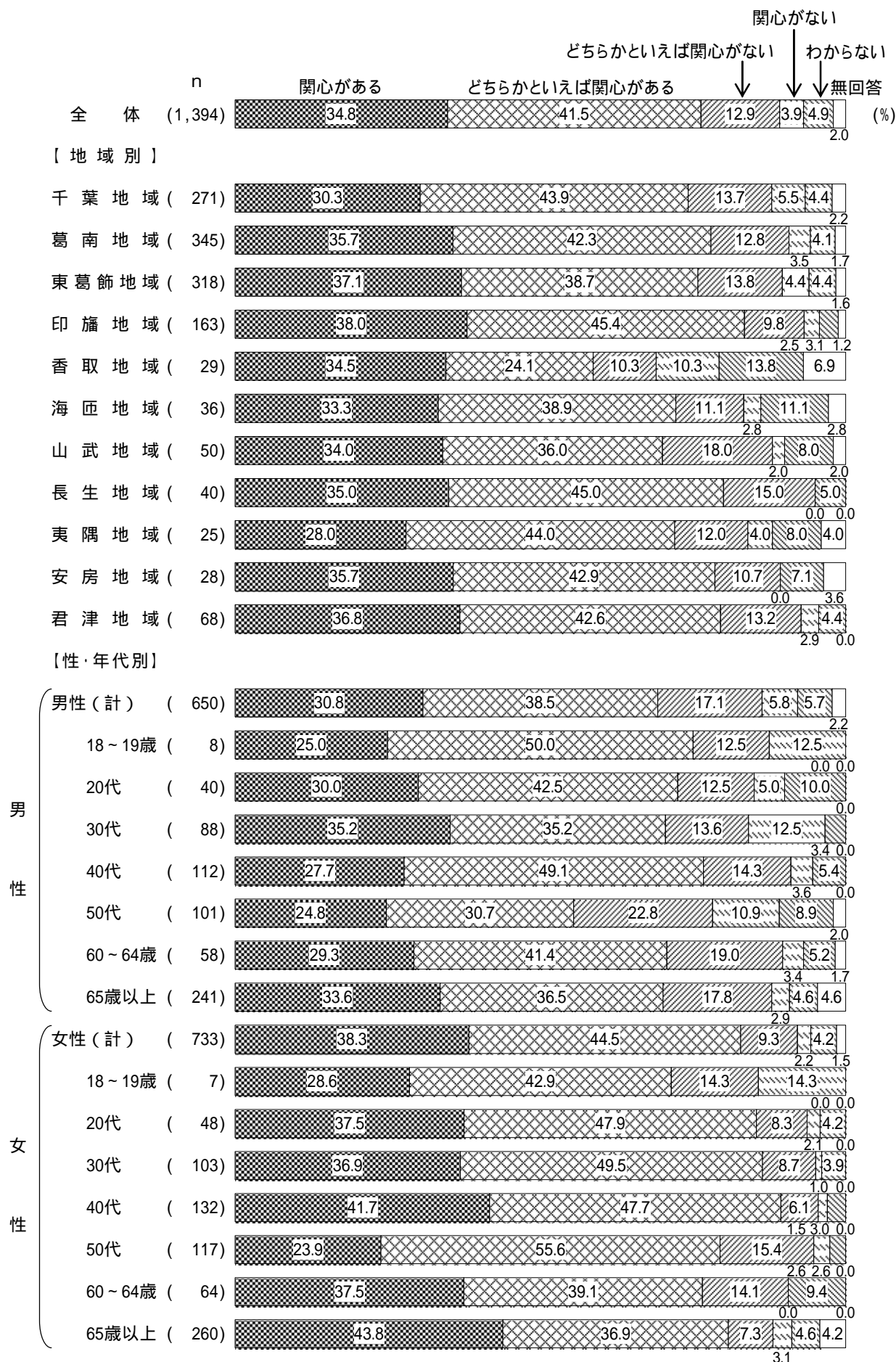
(図表7 - 2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の40代(89.4%)が約9割、女性の20代(85.4%)、30代(86.4%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は男性の50代(33.7%)が3割台半ば、男性の30代(26.1%)が2割台半ばで高くなっている。(図表7 - 2)

<図表7 - 2> 食育への関心度 / 地域別、性・年代別





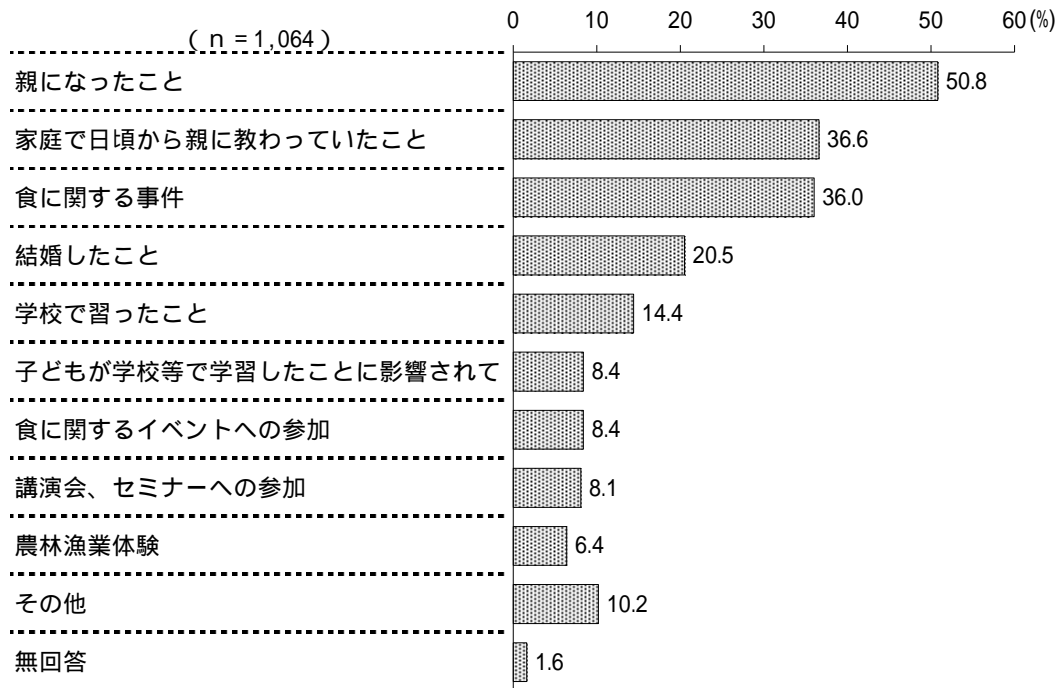
## （２）食育に関心を持ったきっかけ

「親になったこと」が５割

（問27で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」とお答えの方に）

問28 あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。（はいいくつでも）

<図表 7 - 3> 食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）



食育に関心があると答えた1,064人を対象に、食育に関心を持ったきっかけは何か聞いたところ、「親になったこと」（50.8％）が５割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」（36.6％）、「食に関する事件」（36.0％）、「結婚したこと」（20.5％）、「学校で習ったこと」（14.4％）が続く。（図表 7 - 3）

### 【地域別】

地域別にみると、「子どもが学校等で学習したことに影響されて」は“海匠地域”（19.2％）が約２割で高くなっている。（図表 7 - 4）

### 【性・年代別】

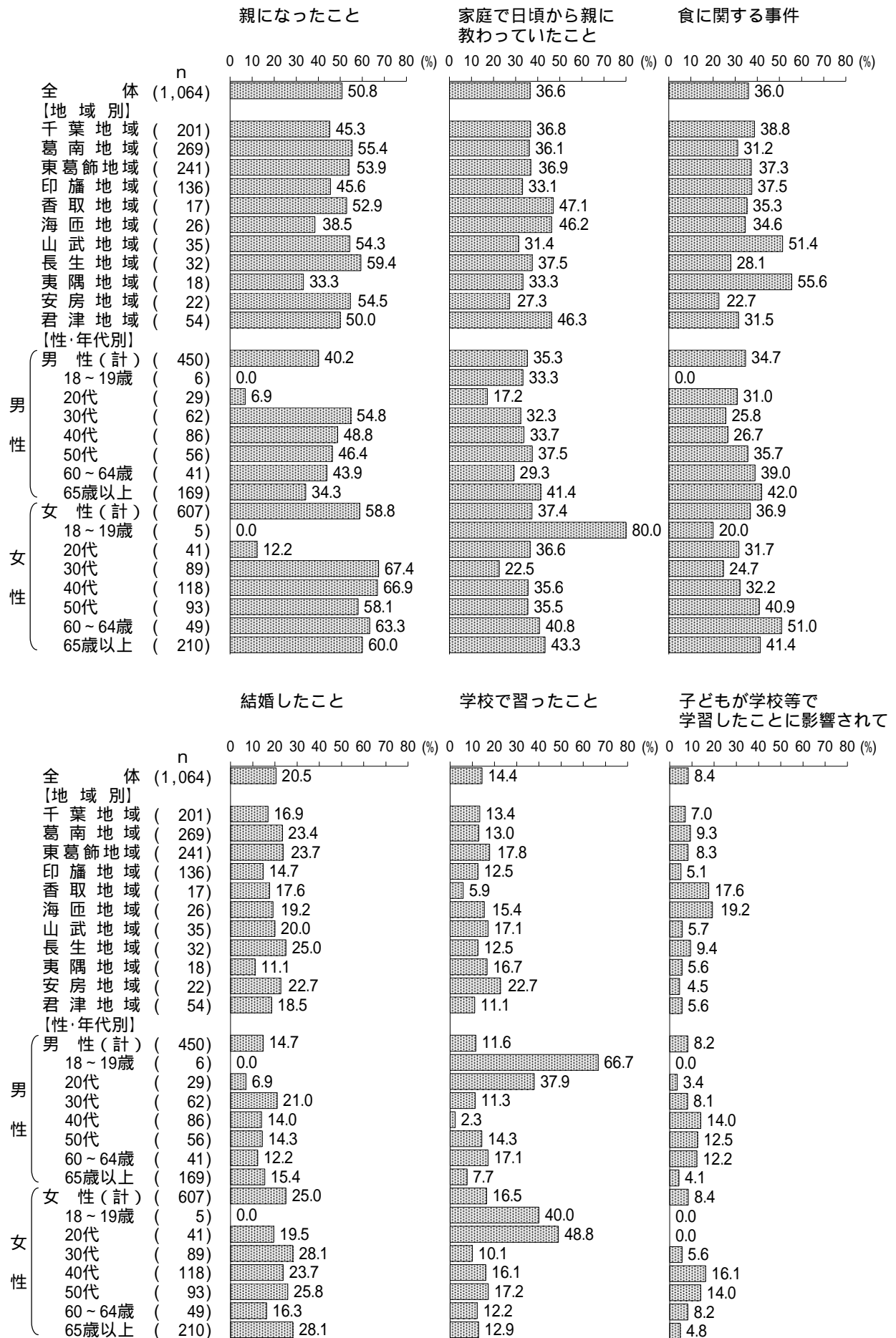
性・年代別にみると、「親になったこと」は女性の30代（67.4％）が約７割、女性の40代（66.9％）が６割台半ば、女性の60～64歳（63.3％）が６割を超え、女性の65歳以上（60.0％）が６割で高くなっている。

「食に関する事件」は女性の60～64歳（51.0％）が５割を超えて高くなっている。

「結婚したこと」は女性の30代（28.1％）、65歳以上（28.1％）が約３割で高くなっている。

「学校で習ったこと」は女性の20代（48.8％）が約５割、男性の20代（37.9％）が約４割で高くなっている。（図表 7 - 4）

<図表7 - 4> 食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



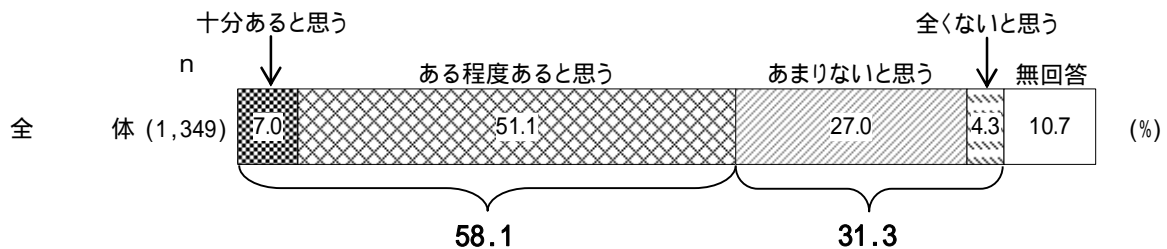
### （３）健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか

『あると思う（計）』が約６割

（問27で「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」、「わからない」とお答えの方、問28をお答えの方に）

問29 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。（ は１つ）

<図表 7 - 5> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか



食育に関心がない、あるいは「わからない」と答えた人、および食育に関心を持ったきっかけを答えた1,349人を対象に、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思うか聞いたところ、「十分あると思う」(7.0%)と「ある程度あると思う」(51.1%)を合わせた『あると思う(計)』(58.1%)が約６割で高くなっている。

一方、「あまりないと思う」(27.0%)と「全くないと思う」(4.3%)を合わせた『ないと思う(計)』(31.3%)は３割を超えている。(図表 7 - 5)

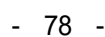
#### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表 7 - 6)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う(計)』は女性の65歳以上(74.6%)が７割台半ば、女性の40代(68.9%)、50代(68.1%)、60～64歳(68.3%)が約７割で高くなっている。

一方、『ないと思う(計)』は男性の30代(55.3%)が５割台半ば、男性の20代(50.0%)が５割、男性の40代(45.9%)と女性の20代(45.9%)が４割台半ば、男性の50代(41.9%)と女性の30代(42.2%)が４割を超えて高くなっている。(図表 7 - 6)



#### （４）農林漁業体験の参加状況

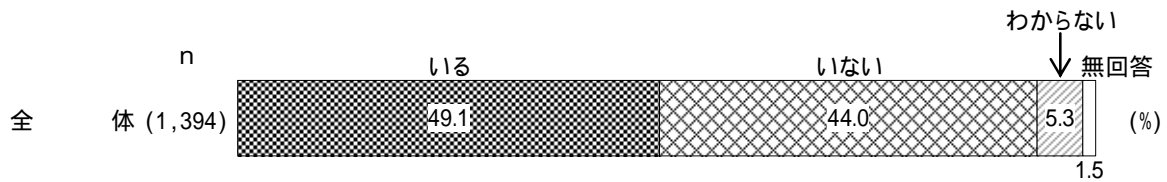
「いる」が約５割

問30 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験（ ）に参加したことのある人はいますか。（ は１つ）

農林漁業に関する体験の例：

いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行など

<図表 7 - 7> 農林漁業体験の参加状況



自身又は家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことのある人はいるか聞いたところ、「いる」（49.1％）が約５割となっている。

一方、「いない」（44.0％）は４割台半ばとなっている。（図表 7 - 7）

##### 【地域別】

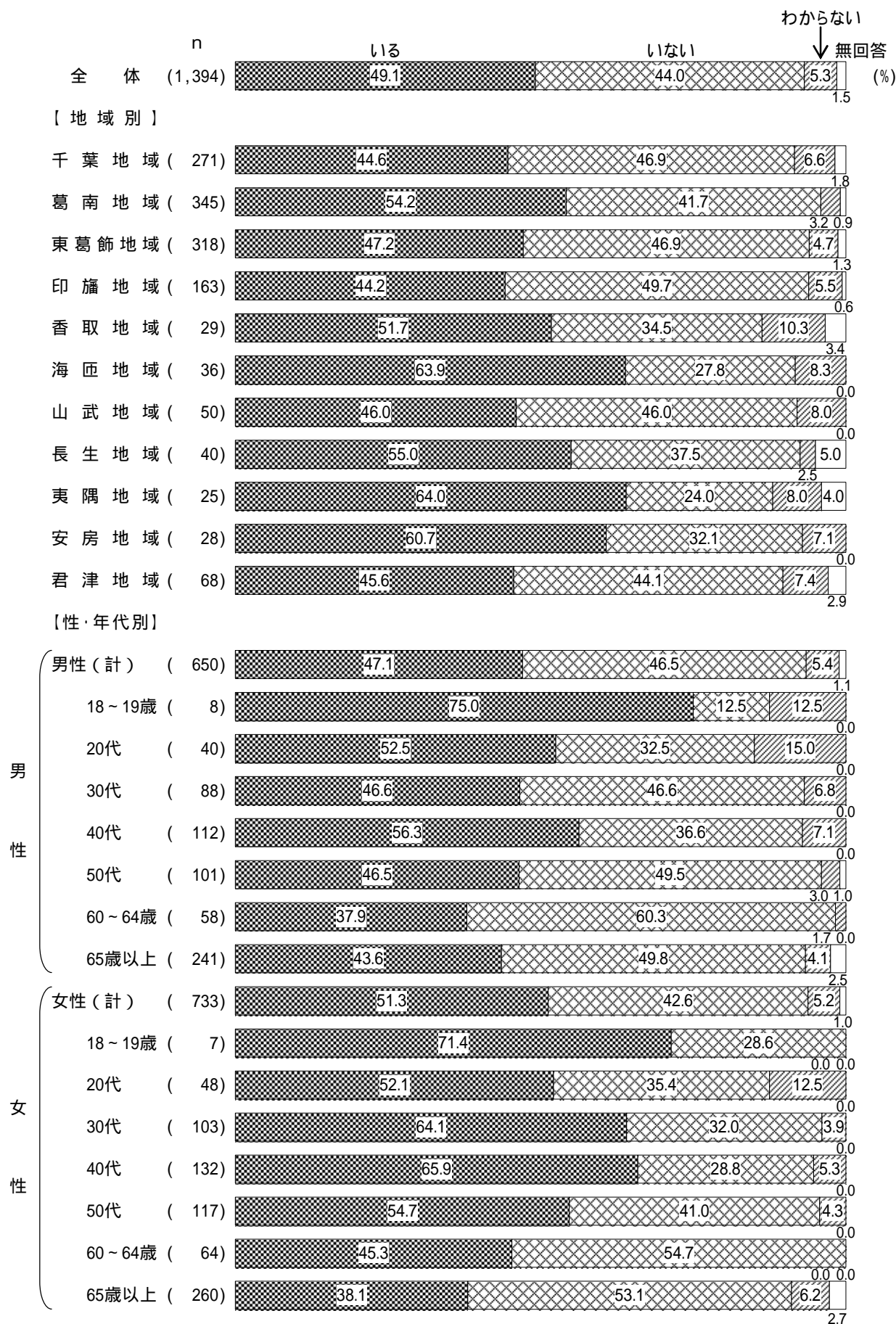
地域別にみると、「いる」は“夷隅地域”（64.0％），“海匝地域”（63.9％）が６割台半ばで高くなっている。（図表 7 - 8）

##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「いる」は女性の30代（64.1％）、40代（65.9％）が６割台半ばで高くなっている。

一方、「いない」は男性の60～64歳（60.3％）が６割、女性の60～64歳（54.7％）が５割台半ば、女性の65歳以上（53.1％）が５割を超えて高くなっている。（図表 7 - 8）

<図表7 - 8> 農林漁業体験の参加状況 / 地域別、性・年代別

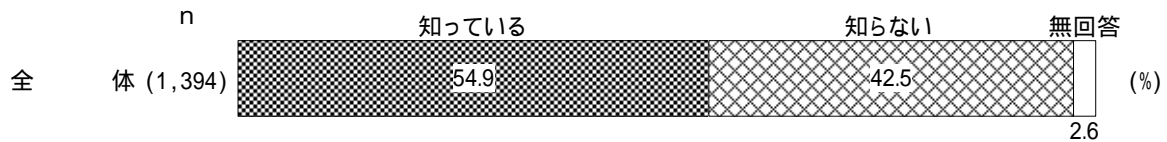


## （５）食に関わる文化の認知状況

「知っている」が５割台半ば

問31 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。（は１つ）

<図表 7 - 9> 食に関わる文化の認知状況



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っているか聞いたところ、「知っている」（54.9％）が５割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（42.5％）は４割を超えている。（図表 7 - 9）

### 【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“印旛地域”（52.1％）が５割を超えて高くなっている。

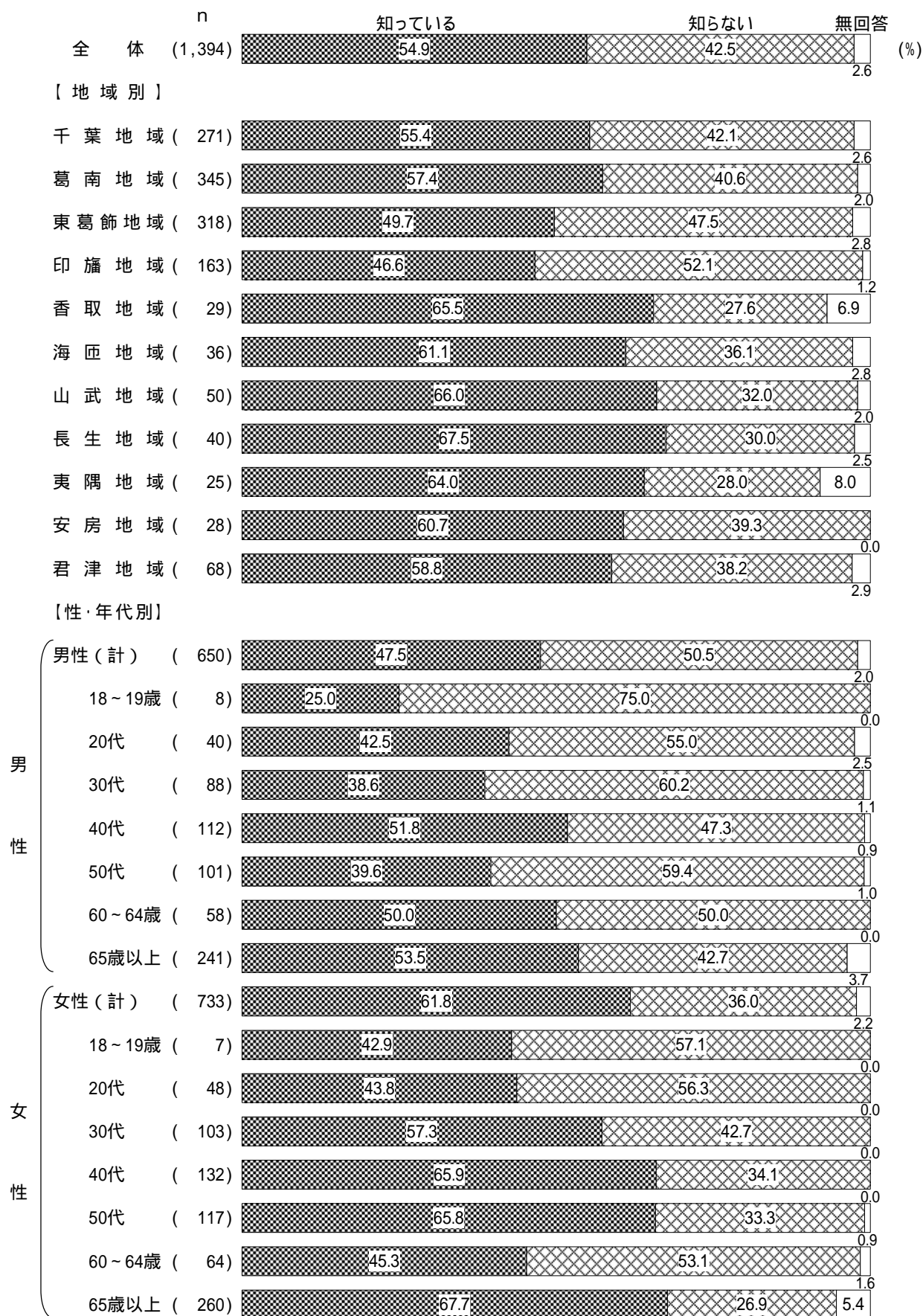
（図表 7 - 10）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の65歳以上（67.7％）が約７割、女性の40代（65.9％）、50代（65.8％）が６割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は男性の30代（60.2％）が６割、男性の50代（59.4％）が約６割で高くなっている。（図表 7 - 10）

<図表7 - 10> 食に関わる文化の認知状況 / 地域別、性・年代別





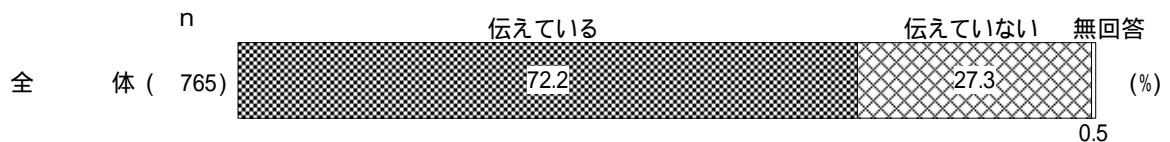
## （６）食に関わる文化の伝承について

「伝えている」が７割を超える

（問31で「知っている」とお答えの方に）

問32 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。（ は１つ）

<図表 7 - 11> 食に関わる文化の伝承について



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると答えた765人を対象に、伝統的な料理や作法を地域や次世代に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」（72.2％）が７割を超えて高くなっている。

一方、「伝えていない」（27.3％）は約３割となっている。（図表 7 - 11）

### 【地域別】

地域別にみると、「伝えていない」は“君津地域”（37.5％）が約４割で高くなっている。

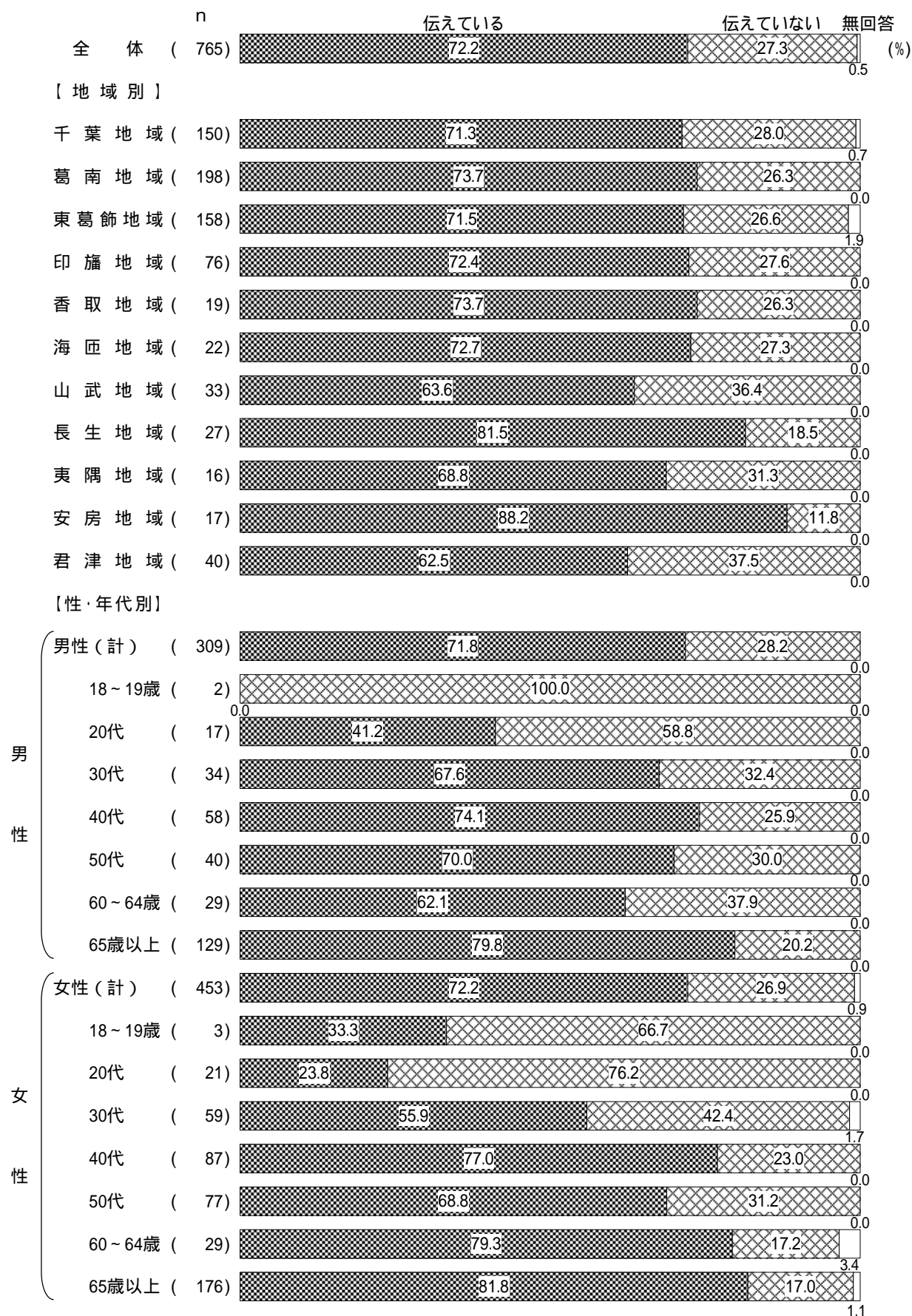
（図表 7 - 12）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「伝えている」は女性の65歳以上（81.8％）が８割を超えて高くなっている。

一方、「伝えていない」は女性の20代（76.2％）が７割台半ば、女性の30代（42.4％）が４割を超えて高くなっている。（図表 7 - 12）

<図表7-12> 食に関わる文化の伝承について / 地域別、性・年代別



このほかに、「食育について」やここまでの質問（問27～問32）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、154人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「食育」の自由回答（抜粋）

地域の伝統的な料理、作法が薄れて来るのがさびしいです。若い人は洋風の料理が好きですが和食の良さを知ってもらいたい。  
（女性、65歳以上、千葉地域）

土に親しむ経験は小さい子どもに是非体験させた方が良く考えています。必ずや将来何かしら役に立つと思います。  
（男性、65歳以上、千葉地域）

家庭菜園をしていて、野菜の種を植えてから収穫までの経過観察や手間をかけて育てたものを収穫する喜び、楽しみを実感、自然の味を知り様々な知識を得られている。プランターでも栽培できる野菜などあるので幼い頃から一緒に実施すると食べ物の好き嫌いが減ると思う。  
（女性、30代、東葛飾地域）

親子でコミュニケーションをとりながら食育について学べる場所があれば積極的に参加していた。これからもそういうイベント等があると良いと思う。  
（女性、50代、葛南地域）

子どもが小学校で千葉の名産品の勉強をしたり、給食で千葉県や地域でとれたものを食べようと、身近に千葉のことを学べるのがすごくよいと思います。これからも続けてほしいです。子どもも楽しそうに千葉のことを教えてくれます。  
（女性、30代、葛南地域）

食の安全は行政や企業の努力でかなり問題ないところまで社会が成熟してきたと思いますが、栄養のとり方や、個食など家族の中での食事のとり方が課題のように思います。家族のだんらの場がなくなっていることが地域の希薄化の基礎にあるように思います。  
（男性、60～64歳、千葉地域）

小学校からもっと食育の取り組みをした方がよいと思う。子供の頃の食生活が、成人病へと続いていくような気がします。食べるということの大事さを、早いうちから知ってもらいたい。  
（男性、50代、千葉地域）

小学校のプリントで地産地消のメニューが載せられています。（給食でも地元野菜を使ったメニューの日）というのがあるようです。自分でも「郷土料理」の体験とかがあったら行ってみたい。  
（女性、50代、印旛地域）

## 8 環境保全に関する取組について

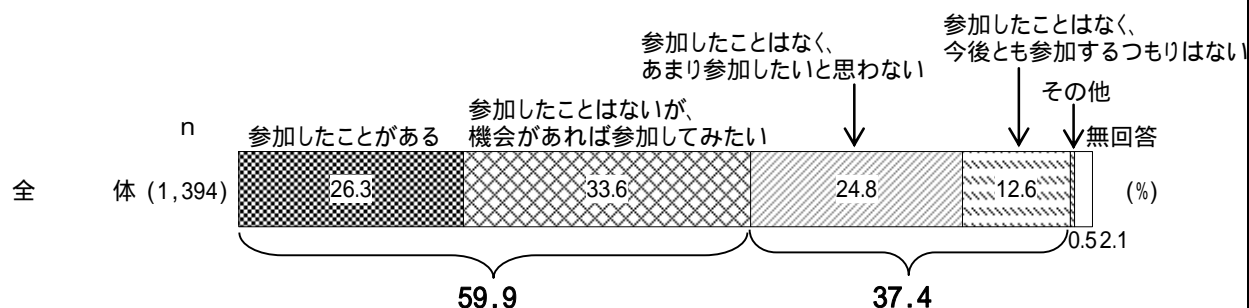
### （１）環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

『参加意向あり（計）』が約６割

現在の環境問題は、人間のあらゆる活動がもたらす環境への負荷が自然の持つ復元能力を上回っていることから生じています。この解決のためには、一人ひとりの県民が日常生活において環境への配慮を行うとともに、環境保全のための活動に取り組んでいく必要があります。

問33 あなたは、これまでに県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などに参加したことがありますか。（は１つ）

<図表８－１> 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（26.3％）が２割台半ばとなっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（33.6％）を合わせた『参加意向あり（計）』（59.9％）が約６割で高くなっている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（24.8％）と「参加したことはなく、今後とも参加するつもりはない」（12.6％）を合わせた『参加意向なし（計）』（37.4％）は約４割となっている。（図表８－１）

#### 【地域別】

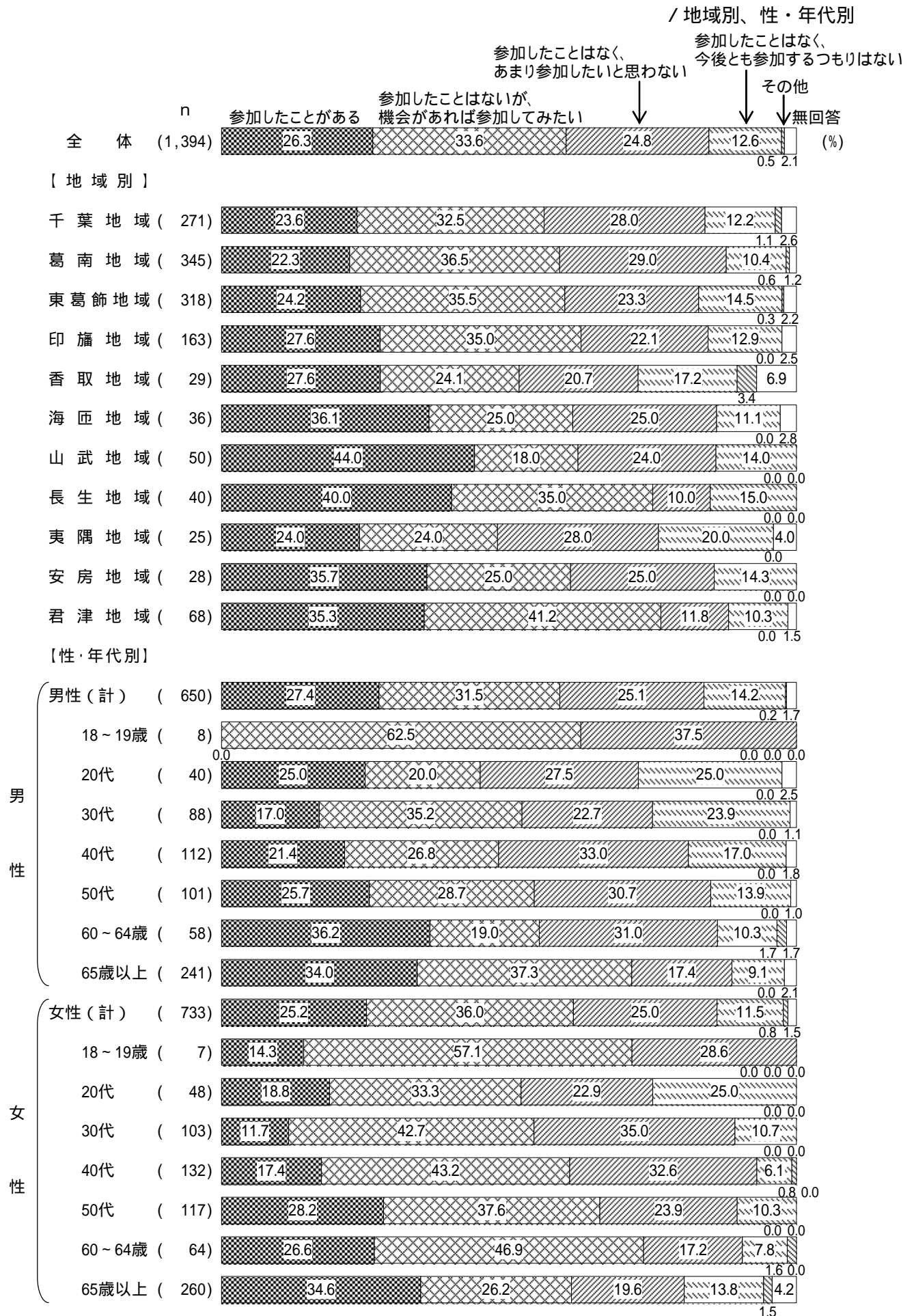
地域別にみると、『参加意向あり（計）』は“君津地域”（76.5％）、“長生地域”（75.0％）が７割台半ばで高くなっている。（図表８－２）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の60～64歳（73.5％）が７割台半ば、男性の65歳以上（71.3％）が７割を超えて高くなっている。

一方、『参加意向なし（計）』は男性の20代（52.5％）が５割を超え、男性の40代（50.0％）が５割で高くなっている。（図表８－２）

&lt;図表8 - 2&gt;環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



このほかに、「環境保全に関する取組について」やここまでの質問（問33）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、106人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「環境保全に関する取組」の自由回答（抜粋）

高齢の叔父が1人で実家の田畑を管理していますが、もう何年も手つかずの畑があり荒れ放題です。市や県・国がそういった耕作放棄地を企業等にあっせんし、利用してもらう事は出来ないのでしょうか。毎年の税金が大変だと言っています。（女性、50代、東葛飾地域）

家庭ごみを自宅の庭で燃やす人をもっと厳しく取り締まってほしいです。近所で毎日のように燃やすので、本当に迷惑だし、健康被害も心配です。たばこよりたちが悪いです。

（女性、40代、海匝地域）

ごみの分別を行う意味を啓発した方が良いと思う。市の広報で、燃えるごみが多く灰の処分が大変であることを知り、分別に気を配るようになった。

（男性、30代、葛南地域）

不法投棄を厳しく取り締まる条例を制定する。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

手入れを放棄した山林や農地などが許可・無許可を問わず産廃の山になっています。無許可の場合は県警の管轄ですが、とても手が回らないと思います。許可がある場合でも、業者の倒産による放置などが多いようです。県の積極的な取り組みを望みます。

（男性、50代、印旛地域）

道路、公園その他公共の場所でのごみ、悪臭、騒音等の対策にも積極的に取り組んで欲しい。

（男性、65歳以上、長生地域）

過剰包装の自粛推進。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

山林が荒れ放題となっている。野生動物の宝庫となっていて、近隣住民への悪影響が甚大である。特に山林については国や県が積極的に買収等して整備して欲しい。特に共有林等は維持管理が困難な状況なので早期対策を進め、サル、シカ、キョン、イノシシの撲滅に努めて欲しい。自衛隊等の協力も必要。

（男性、65歳以上、安房地域）

海に囲まれた県として、海の環境保全に力を入れて欲しい。

（女性、40代、葛南地域）

もっともっと広報活動すべきだと思います。

（男性、60～64歳、葛南地域）

## 9 自由回答

問 このほかにも、県への意見があればご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、228人から延べ288件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形(合計30項目)で整理した。

なお、一人の回答が複数の内容に渡る場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。

また、紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目に関しては、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

### 【自由回答の項目順位】

順 位	項 目	件 数
第1位	県政全般に関する要望	57
第2位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	30
第3位	道路を整備する	24
第4位	便利な交通網を整備する	18
第5位	県政の情報発信について	16
第6位	高齢者の福祉を充実する	15
第7位	医療サービス体制を整備する	11
第8位	交通事故から県民を守る	10
"	犯罪防止対策をすすめる	10
第10位	観光を振興する	9
第11位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	7
第12位	健康づくりをすすめて、病気を予防する	6
"	雇用の場を広げる	6
第14位	中心市街地の活性化を推進する	5
"	東京湾アクアラインについて	5
第16位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	4
"	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	4
"	住宅対策を充実する	4
"	公園・緑地を整備する	4
"	学校教育を充実する	4
第21位	災害から県民を守る	3
"	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	3
第23位	廃棄物対策をすすめる	2
第24位	消費生活のトラブルに関する対策をすすめる	1
"	市民活動団体やボランティアへの活動支援を充実する	1
"	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	1
"	下水道を整備する	1
"	安心して飲める良質な水道水を供給する	1
"	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	1
"	芸術・文化活動を振興する	1
	その他	24
	その他 うち、国政への要望	(0)
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	(1)
	合 計（再掲分を含む 延べ数）	288

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

県政全般に関する要望

若い世代が楽しく生活、学べる地域、高齢者が安心して、生活できる地域、県民が地域貢献、社会貢献、グローバルに貢献できる環境作りをお願いします。（女性、40代、東葛飾地域）

これから高齢化社会に向かうにあたり、他の都道府県の見本となる様な、住みやすい・住みたくなる様な千葉県をつくって欲しいです。（女性、50代、東葛飾地域）

高齢化がものすごいスピードで進んでいます。より具体的な対処をお願いします。（男性、40代、葛南地域）

みんなで知恵を出し合い、協力して、いつでもお互い誰の助人にもなるという意識を持って共に学び共に支え合う、知識・技術も惜しむことなく共有して、明るい未来を築けたらと思います。（女性、60～64歳、長生地域）

千葉は都心も近く住みやすいところだと思っています。子どもや高齢者、障害のある方など、すべての人が豊かで満足のいく生活が送れるようこれからも県の取り組みに期待していきたいです。（女性、40代、葛南地域）

千葉市、葛南エリアと東葛エリアの、物や事の流れを強化し、立地の強みを生かした発展を望みます。（男性、40代、東葛飾地域）

千葉県は都心に近いという地の利を生かして、更に発展すべきであると考えます。県内でも地域格差は大きいですが、各地域の特色を行政・民間が連携しながら発揮して欲しいと思います。（男性、50代、君津地域）

千葉県のほとんどを占める房総半島の開発をして下さい。観光・漁業・農業何でもいい。田舎なら田舎らしい魅力をプラスしてほしい。半島に住んでいた人たちが千葉辺りに出てしまいさびれるばかり。（女性、65歳以上、千葉地域）

行政として他の都道府県の先進的な良い取り組みはどんどん取り入れて欲しい。（女性、40代、葛南地域）



## 次世代を担う子どもの育成支援を充実する

幼稚園や小児科の場所が片寄っていて遠いです。県で場所の調整をしていただけると嬉しいです。（女性、30代、千葉地域）

子どもが小さい頃、預け先がないため市のがん検診になかなか行けず困りました。大変だとは思いますが、子どもの見守りをして頂けると助かりました。（女性、30代、千葉地域）

幼児教育無償化だけでなく高等学校・大学に通う子どもの家庭にも力を入れてほしい。（女性、50代、東葛飾地域）

「チーパス」のサービスの場所が少なく、利用できる場所かどうかもわかりにくい。（男性、30代、香取地域）

近年、知人・友人に「子ども食堂」に携わる方が増えました。地域に、食事そのものの提供が必要とされる状況が増していると実感しています。子ども食堂には大人の方も多数来られているそうです。食材の提供も経験しましたが、とても喜ばれました。県内の実状を具体的に把握し、場所や食材の調達等、行政が積極的に関わり取り組んで欲しいと思います。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

保育園の充実と共に、保育士の数も増やせるようにして頂きたい。また、公立も増やして頂きたい。（女性、30代、東葛飾地域）

## 道路を整備する

東葛飾地域の道路行政を改善してもらいたい。国道と駅入口への進入路が交差するところは立体化して欲しい。（男性、40代、葛南地域）

道路が狭く歩きにくい為、歩行者が安全に歩ける様にして下さい。（女性、60～64歳、千葉地域）

他県に比し、道路情勢が、大変遅れているように思います。物流、人の移動に支障を感じます。（男性、65歳以上、千葉地域）

南房総市までは、高速道路ができましたが、銚子までは、高速道路がありません。銚子までは遠いです。日本で一番早い日の出が出る所なのでもっと道路をよくしてもらいたいと思います。（男性、50代、葛南地域）

### 便利な交通網を整備する

流山市付近のバス路線をもっと充実してほしい。電車がストップしたら代替交通機関がなく、大変です。  
（男性、30代、東葛飾地域）

北総線の運賃問題を早く解決してもらいたい。この地域の発展を阻害している最大の要因だと思う。  
（男性、50代、印旛地域）

東総地区の公共交通の充実をしてほしい。鉄道の本数も減っている。茨城県への人口流出も続いている。  
（男性、30代、海匝地域）

千葉県はバス運賃が距離によって違うので、簡単には改革することができないかもしれませんが、巡回バスの路線を増やしたり、100円で乗れる範囲を広げたり、駅周辺だけでも気軽にバスを使える1日券を発行するなどできないでしょうか。  
（女性、40代、葛南地域）

### 県政の情報発信について

県に行っている行政サービスの内容や拠点、窓口などがよくわからない。目にみえる広報活動を通じて、もっと充実すべきです。  
（男性、65歳以上、葛南地域）

千葉テレビで各市町村番組をもっと放映してほしい。  
（男性、65歳以上、夷隅地域）

チーバくんもかわいいし、もっともっと千葉の便利な点、都内の人にも自然の素晴らしい所が身近にあることを宣伝した方がよいと思います。  
（女性、40代、葛南地域）

### 高齢者の福祉を充実する

介護現場での人材不足で過酷な勤務が多い。勤務変更が多く休みもまともにとれない。1日休みもあるが月に2～4回の半休がある。介護職員の給料が上がっても介護の質が良くなるとは限らない。新規の職員の様子をみても介護をしたいというより、適度な収入があるからと収入目的で就職する人もいる。  
（女性、30代、東葛飾地域）

ケアマネジャーの更新研修時間が長すぎ、予約も取りにくく研修日に多く休まなくてはならないため、業務に影響が出る。更新研修はまとめてやらずに、年1～2回が法改正した時の研修に出席など提出書類がなく負担の少ない研修にして欲しい。また大変な試験を受けて合格しているのに国家資格ではないのは疑問。国家資格にするべきだと思う。  
（女性、40代、葛南地域）

千葉県内の高齢者の生活実態を把握し、皆さんはこういうように暮らしている、今後県内の高齢者はこういうように暮らしていけるはずだというビジョンが掲げられるといいと思う。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

#### 医療サービス体制を整備する

大学附属病院等へ行くと混んでいて待ち時間が長く、診察までに半日、会計で半日と1日がかかりになってしまう。システム等の改善で時間短縮できるように働きかけて欲しい。

（男性、60～64歳、千葉地域）

発展途上にある印西市は病院が少ない。医療の充実を願いたい。

（男性、65歳以上、印旛地域）

いくつかの病院で入院を経験しましたが、人手不足感をとても感じました。

（男性、65歳以上、長生地域）

#### 交通事故から県民を守る

他県から来たのですが、千葉では赤信号でも止まらない車がいるのにびっくりしました。

交通安全にも力をいれてほしいです。

（女性、40代、千葉地域）

自転車の交通ルール、マナーを小・中学生に教えておくことは大切と考える。車の免許を持っていれば道路交通法も理解できるが、子どもに基本的交通ルールを教えておくことは、自転車使用の多い千葉県民にはとても有用と考える。

（女性、40代、葛南地域）

高齢者ドライバーの交通事故が目立ちますが、免許証の自主返納を高齢者に積極的に運動して欲しいです。更新時には問題が無くても、やはり判断力は落ちていくものですから、高齢者の事故は増えるばかりです。スムーズに返納できるように、タクシーやバス・電車の割引等、考慮して頂ければ大変嬉しいです。

（女性、60～64歳、印旛地域）

### 犯罪防止対策をすすめる

市とも連携いただき、安心して暮らせる社会の構築を進めていただきたくお願い申し上げます。  
（男性、50代、葛南地域）

詐欺及び悪質業者に関しては、法律ではだめなら千葉県独自の条例を作り重い罰を与えなければ悪い人も業者も無くならないのではと思います。罰が軽すぎるので犯罪がなくならないと思います。  
（男性、50代、千葉地域）

女性、子供が安心して暮らせるよう防犯を推進してほしい。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

### 観光を振興する

千葉県は気候も温かく自然もあるけど、それをうまく利用されていない。もう少し観光アピールをし、また各地方の街をあげて観光アピールをもりあげられるように、そしてそれを継続できる体制作りも必要だ。  
（男性、65歳以上、長生地域）

観光公衆トイレの設備を現状よりスピードアップして、各地域に整備対応をお願いします。

（男性、40代、香取地域）

問 また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、142人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

○普段、特に考えることのない事柄について、自分なりに真剣に考える良い機会になったし、県のことについて、今よりも関心を持ってみようと思った。（男性、18～19歳、千葉地域）

○県民の方々も、「ちょっと言いたい。聞いてもらいたい。」と思う方々は多数いると思うのでアンケートは良い事だと思う。（女性、65歳以上、葛南地域）

○全体に設問が一般的すぎ、回答がどのように県の施策に反映するのか分からない内容だと感じました。アンケートをすることは賛成ですが、もっと具体的な施策について、県の取り組み、課題などと説明する資料をつけて行うべきだと考えます。（女性、50代、東葛飾地域）

○質問の内容がわかりにくい。（男性、30代、東葛飾地域）

○問が多いので、もう少し簡潔にさせていただくか、質問事項を絞ってほしいです。（男性、20代、葛南地域）

○他の方のご意見も知りたいです。ネットなどで調査の結果がみられましたら、これからのあり方も何かと方向性を感じることが出来ると思います。（女性、50代、安房地域）

○単なるアンケートでは貴重な時間を費やしたことが無駄になるので、後日アンケートに基づき改善した点をちば県民だよりに掲載して欲しい。（男性、65歳以上、安房地域）

○年末年始は忙しいので、他の時期にした方がいいと思う。（女性、30代、印旛地域）

○もっと回答までの期間がほしかった。（男性、50代、葛南地域）

○ネットでも回答できる環境があるといいと思いました。（女性、40代、東葛飾地域）

○返信の期限について封筒にも書いた方がいつまでに書こうという考えになり返信する率が上がると思います。（男性、20代、君津地域）

○チーバくんのステッカーでも同封すると回答率が上がると思う（女性、30代、印旛地域）



(付) 調査票および単純集計結果





## 第55回 千葉県政に関する世論調査

### ご記入にあたってのお願い

- 1 宛名のご本人様がお答えくださるようお願いいたします。
- 2 ご回答は、この調査票に黒か青のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- 3 回答は、原則としてあてはまるものに をつけてください。質問の中に、  
( ) は1つ ) ( ) は3つまで ) ( ) はいくつでも ) などと表示しています  
ので、そちらに合わせてください。  
  
また、質問によって回答していただく方が限られる場合がありますので、  
ことわり書きや矢印にしたがってください。特にことわりのない場合は、  
次の質問に進んでください。
- 4 お答えが選択肢の中にない場合は、「その他」を選び、( ) 内に  
その内容を具体的に記入してください。
- 5 ご回答いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、  
1月10日(水)までに郵便ポストに投函してください。  
調査票は、折り目に合わせて三つ折でお願いします。
- 6 このアンケートのご記入に当たってご不明な点等がございましたら、  
お手数ですが下記までお問い合わせください。

### 【問い合わせ先】

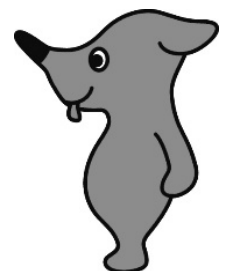
千葉県 総合企画部 報道広報課広聴室

〒260 - 8667 千葉市中央区市場町1番1号

電 話 043 - 223 - 2469

FAX 043 - 227 - 3613

アドレス [kouchou@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:kouchou@mz.pref.chiba.lg.jp)



千葉県マスコットキャラクター

「チーバくん」

## 【電話 d e 詐欺に関する県民の意識について】

急増する電話 d e 詐欺の被害を防止するために、県警や県では様々な広報方法を使って県民に電話 d e 詐欺に関する情報を提供しています。

問 1 県では、「振り込め詐欺」をはじめとする「特殊詐欺」に代え、「電話 d e 詐欺」の名称を用いています。あなたは、この名称を知っていますか。n = 1,394 ( は 1 つ )

55.5 知っている	42.2 知らない	2.3 無回答
------------	-----------	---------

問 2 電話 d e 詐欺のうち、あなたの知っている手口はどれですか。n = 1,394 ( はいいくつでも )

96.9 オレオレ詐欺
78.0 還付金等詐欺
69.4 架空請求詐欺
18.5 融資保証金詐欺
1.5 ない
0.7 無回答

→ 3 ページ問 6 へ

→ ( 問 2 で「 1 」～「 4 」とお答えの方に )

問 3 知っている手口に遭った場合に、あなたがとっている、またはとろうと考えている対策はありますか。n = 1,363 ( はいいくつでも )

61.2 自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている
13.3 不審な電話があった際の対応について、家族で取り決めている（連絡手段や合言葉など）
32.8 普段から留守番電話にしている
7.4 迷惑電話防止機器を設置している
52.1 自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている
23.6 家族で普段からコミュニケーションをとって、家族の声やうそを見分けられるようにしている
3.3 その他（具体的に
6.4 対策をとっていない
0.4 無回答

問 3 で「 1 ～ 7 」と回答した方は、3 ページの問 5 へおすすみください

→ ( 問 3 で「対策をとっていない」とお答えの方に )

問 4 あなたが、対策をとっていない理由は何ですか。n = 87 ( は 1 つ )

27.6 自身も家族も被害に遭うとは思わない
5.7 自身も家族も被害に遭うかもしれないが興味がない、または手口や対策に関する情報を得るのが面倒である
50.6 被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている
14.9 その他（具体的に
1.1 無回答

問 4 を回答後、3 ページの問 6 へおすすみください

（問3で「1」～「7」とお答えの方に）

問5 あなたは、どのような媒体で電話d e詐欺の手口を知りましたか。

n = 1,271（ はいいくつでも）

- 19.4 千葉県警察・千葉県・市区町村からの直接指導（訪問、防犯講話、チラシの配布など）
- 38.1 千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌
- 6.5 千葉県警察・千葉県・市区町村などのメール配信
- 5.3 電話d e詐欺・悪質商法被害抑止コールセンター（千葉県警察）からの電話
- 22.5 市区町村の防災無線
- 40.4 ポスターなどの掲示物
- 9.6 ホームページ（インターネット）
- 83.1 新聞、テレビ、ラジオ
- 28.8 金融機関・コンビニのATM画面
- 7.8 銀行、郵便局などの金融機関職員からの助言（声掛け）
- 0.4 コンビニ・スーパーなどの店員から助言（声掛け）
- 2.0 金融機関職員、コンビニ・スーパーなどの店員以外の一般人からの助言（声掛け）
- 20.8 家族、知人からの助言（声掛け）
- 3.0 その他（具体的に
- 1.6 無回答

問5を回答後、問6へすすみください。

（問2で「ない」とお答えの方、問4、問5をお答えの方に）

問6 あなたは、自身やご家族が被害に遭わないため、これらの詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思いますか。

n = 1,358（ はいいくつでも）

- 21.3 千葉県警察・千葉県・市区町村からの直接指導（訪問、防犯講話、チラシの配布など）
- 39.2 千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌
- 12.2 千葉県警察・千葉県・市区町村などのメール配信
- 4.6 電話d e詐欺・悪質商法被害抑止コールセンター（千葉県警察）からの電話
- 22.6 市区町村の防災無線
- 39.0 ポスターなどの掲示物
- 16.0 ホームページ（インターネット）
- 72.1 新聞、テレビ、ラジオ
- 29.7 金融機関・コンビニのATM画面
- 24.5 銀行、郵便局などの金融機関職員からの助言（声掛け）
- 9.1 コンビニ・スーパーなどの店員から助言（声掛け）
- 7.1 金融機関職員、コンビニ・スーパーなどの店員以外の一般人からの助言（声掛け）
- 22.8 家族、知人からの助言（声掛け）
- 1.7 その他（具体的に
- 10.3 無回答

（すべての方に）

このほかに、「電話d e 詐欺に関する県民の意識について」やここまでの質問（問1～問6）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。


【消費生活について】

悪質事業者による押し売りや、化粧品による健康被害など消費者トラブルが後を絶たない中、県では相談窓口の整備や、消費者に商品事故に関する情報や契約トラブルへの対処法を伝える消費者教育の推進などに取り組んでいます。

問7 あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思いますか。 n = 1,394 ( は1つ )

58.6	あると思う	39.0	ないと思う	2.4	無回答
------	-------	------	-------	-----	-----

問8 あなたは、消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思いますか。 n = 1,394 ( は1つ )

78.9	いると思う	20.4	いないと思う	0.7	無回答
------	-------	------	--------	-----	-----

問9 あなたは、点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思いますか。 n = 1,394 ( は1つ )

2.0	減ってきたと思う
8.2	どちらかといえば減ってきたと思う
35.9	変わらないと思う
17.8	どちらかといえば増えてきたと思う
14.6	増えてきたと思う
21.4	わからない
0.1	無回答

問10 あなたは、講演会やセミナーなど、契約トラブルを未然に回避したり、トラブル発生時に自ら適切な判断や行動ができる能力を育む教育（消費者教育）の機会が提供されていると思いますか。 n = 1,394 ( は1つ )

5.5	提供されていると思う
11.4	どちらかといえば提供されていると思う
35.9	どちらともいえない
33.4	あまり提供されていないと思う
12.4	提供されていないと思う
1.4	無回答

問 11 あなたは、買い物を行う際に商品の品質や表示を確認したり、環境や人にやさしい商品（エコ商品や障がい者支援につながる商品など）を選択することなどを意識して行動したことはありますか。 n = 1,394（ は1つ）

43.8 あると思う	11.0 ないと思う
44.7 少しはあると思う	0.5 無回答

問 12 商品を購入したりサービスを利用する上で、あなたが適切な判断をし、トラブルや被害にあわないようにするために、県や市町村に望むことは何ですか。 n = 1,394( は3つまで)

47.6 消費者被害や商品リコールなどの情報を提供してほしい
25.8 小中学校、高等学校の授業において消費者教育を充実してほしい
14.1 大学生や新社会人に対する消費者教育を充実してほしい
11.2 市町村や自治会など地域で消費生活に関して学習できる機会を増やしてほしい
39.6 高齢者などが被害にあわないよう、地域で見守る仕組みを整備、充実してほしい
7.8 消費者問題に取り組む団体の活動を支援してほしい
50.8 トラブルにあったときの相談窓口の情報を提供してほしい
20.5 身近な場所で専門的知識のある相談員に相談できるようにしてほしい
37.9 悪質な事業者に対する指導等をしてほしい
1.6 その他（具体的に
1.1 無回答

（すべての方に）

このほかに、「消費生活について」やここまでの質問（問7～問12）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。




## 【人生の最終段階における医療や療養への希望について】

あなたが、突然重い病気や不慮の事故などで、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合を想定してお答えください。

問 13 このような状況の場合、治療によって生活の質が下がるとしても、とにかく延命を最優先することを目的とした治療（以下「延命治療」と言う。）を望みますか。  
n = 1,394（ は1つ）

3.2 延命治療を望む

8.8 どちらかといえば延命治療を望む

34.5 どちらかといえば延命治療を望まない

43.3 延命治療を望まない

9.1 わからない

1.1 無回答

→ 自由記述へ

→ 自由記述へ

→（問 13 で「3」、「4」とお答えの方に）

問 14 延命治療を望まない場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。  
n = 1,085（ は1つ）

59.5 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法

25.7 延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法

11.9 本人の意思に基づき医学的な方法で生命を短縮させるような方法

1.5 その他（具体的に

0.9 わからない

0.5 無回答

）

（すべての方に）

このほかに、「人生の最終段階における医療や療養への希望について」やここまでの質問（問 13～問 14）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。




## 【高齢者が地域で暮らし続けるための施策について】

県では、高齢者が介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、必要なサービスが提供される「地域包括ケアシステム」の構築促進に取り組んでいます。

地域包括ケアシステムは、日常生活圏域（おおむね中学校の学区）において、在宅医療、訪問介護・看護、介護サービス、見守り・買物支援等の生活支援サービスなどを必要に応じ組み合わせることにより、高齢者が介護が必要になっても、住み慣れた居宅、地域で暮らし続けることを目指すものです。

問 15 あなたは、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいですか。

n = 1,394（ は 1 つ）

37.3	暮らし続けたい	4.0	どちらかといえば暮らし続けたくない
34.6	どちらかといえば暮らし続けたい	2.6	暮らし続けたくない
20.2	どちらともいえない	1.2	無回答

問 16 あなたは、介護が必要になっても現在お住まいの自宅や地域で暮らし続けられると思いますか。

n = 1,394（ は 1 つ）

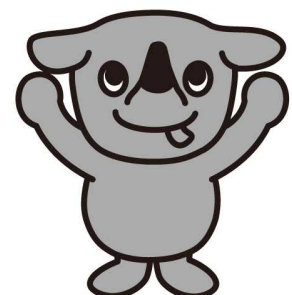
11.8	暮らし続けられると思う	→ 8 ページ問 18 へ
22.2	どちらかといえば暮らし続けられると思う	
27.5	どちらともいえない	
14.4	どちらかといえば暮らし続けられると思わない	→ 8 ページ問 18 へ
12.0	暮らし続けられると思わない	
10.6	わからない	
1.4	無回答	

→（問 16 で「4」、「5」とお答えの方に）

問 17 あなたが、暮らし続けられると思わない理由は何ですか。 n = 368（ は 1 つ）

49.5	介護してくれる人がいないため	
19.3	自宅がバリアフリー化されていないため	
7.6	地域での見守りの体制が整っていないため	
2.7	近くに医療機関がないため	
5.4	往診してくれる医師がないため	
5.4	訪問介護などの介護体制が整っていないため	
9.0	その他（具体的に	）
1.1	無回答	

問 17 を回答後、問 18 にすすみください。



（問16で「1」～「3」、「6」とお答えの方、問17をお答えの方に）

問18 あなたが、地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めることは何ですか。 n = 1,370（ はいくつでも）

- |      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 32.8 | 住まいや道路、公共建物のバリアフリー化の取組              |
| 36.8 | 日常生活に密着したバス路線などの交通網の拡充              |
| 35.8 | 高齢者を見守り支える地域社会づくりの推進                |
| 20.4 | 健康寿命の延伸や介護予防の取組                     |
| 34.8 | 入退院時における医療・介護関係者間の情報提供等の医療と介護の連携の充実 |
| 51.1 | 訪問介護など在宅介護サービスの充実                   |
| 46.4 | 特別養護老人ホームなどの介護施設の充実                 |
| 30.4 | 認知症相談体制整備等の認知症施策の充実                 |
| 31.4 | 病院や診療所などの医療機関の充実                    |
| 46.7 | 訪問診療など在宅医療サービスの充実                   |
| 45.3 | 医療や介護に従事する人材の確保                     |
| 2.6  | その他（具体的に                            |
| 5.8  | 無回答                                 |

問19 あなたは、千葉県に住む高齢者が年齢にとらわれず、仕事やボランティア活動への参加など、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思いますか。 n = 1,394（ は1つ）

- |      |              |      |                |
|------|--------------|------|----------------|
| 5.8  | そう思う         | 12.6 | どちらかといえばそう思わない |
| 18.1 | どちらかといえばそう思う | 13.7 | そう思わない         |
| 25.3 | どちらともいえない    | 24.1 | わからない          |
|      |              | 0.5  | 無回答            |

問20 あなたは、千葉県に住む高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。 n = 1,394（ は1つ）

- |      |              |      |                |
|------|--------------|------|----------------|
| 4.3  | そう思う         | 13.6 | どちらかといえばそう思わない |
| 18.6 | どちらかといえばそう思う | 11.0 | そう思わない         |
| 27.3 | どちらともいえない    | 24.8 | わからない          |
|      |              | 0.4  | 無回答            |

（すべての方に）

このほかに、「高齢者が地域で暮らし続けるための施策について」やここまでの質問（問15～問20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。




## 【障害者施策について】

県では、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくりをすすめています。今後の取組の参考とするため、ご意見をお聞かせください。

問 21 あなたは、障害のある人に対する支援（ ）をしたことがありますか。（仕事やボランティア等） n = 1,394（ は1つ）

7.0 よくしている	32.4 ほとんどしたことがない
13.6 たまにしている	46.3 したことがない
	0.7 無回答

ここでいう「支援」とは、例えば車いす利用者の移動の介助や聴覚障害のある人への筆談対応など、障害のある人の生活や活動への直接的な支援を意味します。

問 22 あなたは、障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。 n = 1,394（ は1つ）

20.6 あると思う	26.8 ないと思う
51.9 少しはあると思う	0.6 無回答

問 23 あなたは、障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っていますか。 n = 1,394（ は1つ）

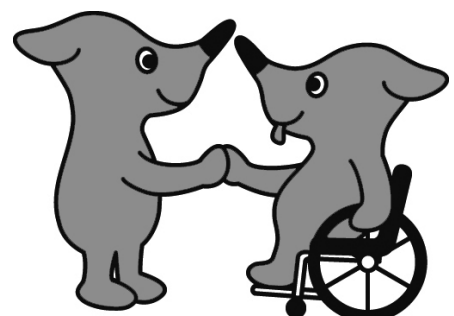
1.7 よく知っている	76.1 知らない
21.7 多少は知っている（聞いたことはある）	0.5 無回答

問 24 あなたは、平成28年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）を知っていますか。 n = 1,394（ は1つ）

2.7 よく知っている	76.8 知らない
19.9 多少は知っている（聞いたことはある）	0.6 無回答

### （すべての方に）

このほかに、「障害者施策について」やここまでの質問（問 21～問 24）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

## 【男女共同参画社会の実現について】

県では、男女がともに認め合い、支え合うパートナーとして、いきいきと活躍できる男女共同参画社会の実現を目指しています。

問 25 あなたは、男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。n = 1,394( はいいくつでも )

- 67.1 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
- 68.1 子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 63.8 保育及び介護の施設やサービスを充実する
- 50.2 労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- 19.7 県の審議会委員や管理職に女性を積極的に登用するとともに、県内市町村の審議会など政策決定の場に女性を積極的に登用するよう働きかける
- 15.1 女性の起業・創業が進むよう支援する
- 18.4 企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 18.8 従来女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
- 12.4 男女共同参画に関する条例を制定する
- 17.0 女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を充実する
- 14.3 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
- 16.2 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR をする
- 17.7 施策を実施するにあたって企業や民間団体（NPO 等）との連携を推進する
- 2.2 その他（具体的に
- 3.0 無回答

問 26 県では男女共同参画推進拠点として、「男女共同参画センター」を設置しています。あなたは、男女共同参画センターにおいてどのような事業を充実させるべきだと思いますか。

なお、このセンターは平成30年度中に、現在の千葉市稲毛区から千葉市中央区へ移転する予定です。n = 1,394 ( はいいくつでも )

- 33.4 男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供
- 30.7 女性相談窓口の充実
- 18.9 男性相談窓口の充実
- 32.4 DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実
- 29.2 市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援
- 13.6 講演会・シンポジウム・フェスティバル等の企画・開催
- 12.5 女性リーダー育成講座等の実施
- 40.0 就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援
- 38.7 いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
- 2.1 その他（具体的に
- 7.3 無回答

## （すべての方に）

このほかに、「男女共同参画社会の実現について」やここまでの質問（問25～問26）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。


## 【食育について】

県では、心身の健康の増進と豊かな人間形成のため、県民一人ひとりが食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるよう、子供から高齢者まで各世代に応じた施策や生産者との交流、食文化の伝承など食育の推進に取り組んでいます。

問27 あなたは、「食育」に関心がありますか。

n = 1,394（ は1つ）

34.8 関心がある
41.5 どちらかといえば関心がある
12.9 どちらかといえば関心がない
3.9 関心がない
4.9 わからない
2.0 無回答

→ 問29へ

→（問27で「1」「2」とお答えの方に）

問28 あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。n = 1,064（ はいいくつでも）

36.6 家庭で日頃から親に教わっていたこと	36.0 食に関する事件
14.4 学校で習ったこと	6.4 農林漁業体験
20.5 結婚したこと	8.4 食に関するイベントへの参加
50.8 親になったこと	8.1 講演会、セミナーへの参加
8.4 子どもが学校等で学習したことに影響されて	10.2 その他（具体的に）
	1.6 無回答

問28を回答後、問29へおすすみください

（問27で「3」～「5」とお答えの方、問28をお答えの方に）

問29 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。

n = 1,349（ は1つ）

7.0 十分あると思う	27.0 あまりないと思う
51.1 ある程度あると思う	4.3 全くないと思う
	10.7 無回答

問 30 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験（ ）に参加したことがある人はいますか。 n = 1,394（ は1つ）

49.1 いる	5.3 わからない
44.0 いない	1.5 無回答

農林漁業に関する体験の例：いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行など

問 31 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。 n = 1,394（ は1つ）

54.9 知っている	42.5 知らない	→ 自由記述へ
	2.6 無回答	

→（問 31 で「1」とお答えの方に）

問 32 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていきますか。 n = 765（ は1つ）

72.2 伝えている	27.3 伝えていない	0.5 無回答
------------	-------------	---------

（すべての方に）

このほかに、「食育について」やここまでの質問（問 27～問 32）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。


## 【環境保全に関する取組について】

現在の環境問題は、人間のあらゆる活動がもたらす環境への負荷が自然の持つ復元能力を上回っていることから生じています。この解決のためには、一人ひとりの県民が日常生活において環境への配慮を行うとともに、環境保全のための活動に取り組んでいくことが必要です。

問 33 あなたは、これまでに県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などに参加したことがありますか。 n = 1,394（ は1つ）

26.3 参加したことがある	
33.6 参加したことはないが、機会があれば参加してみたい	
24.8 参加したことはなく、あまり参加したいと思わない	
12.6 参加したことはなく、今後とも参加するつもりはない	
0.5 その他（具体的に	）
2.1 無回答	

## （すべての方に）

このほかに、「環境保全に関する取組について」やここまでの質問(問33)について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。


以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことからをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n = 1,394( は1つ )

46.6 男性	52.6 女性	0.8 無回答
---------	---------	---------

F 2 あなたは満何歳ですか。 n = 1,394( は1つ )

1.1 18～19 歳	17.5 40～49 歳	36.1 65 歳以上
6.3 20～29 歳	15.7 50～59 歳	0.9 無回答
13.7 30～39 歳	8.8 60～64 歳	

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n = 1,394( は1つ )

自営業主	家族従業者	勤め人	無職
1.5 農林漁業	0.9 農林漁業	7.8 管理職	30.6 主婦・主夫
1.9 商工サービス業	0.4 商工サービス業	21.6 専門技術・事務職	2.4 学生
3.4 自由業	0.3 自由業	10.5 販売・サービス職	10.3 その他
		6.0 労務職	( )
			2.4 無回答

F 4 あなたは、結婚していらっしゃいますか。 n = 1,394( は1つ )

17.4 未婚	71.4 既婚（配偶者有）	10.3 既婚（配偶者離死別）	0.9 無回答
---------	---------------	-----------------	---------

F 5 あなたは、お子さんが何人いらっしゃいますか。同居、別居は問いません。

n = 1,394( は1つ )

16.9 1人	13.8 3人	0.4 5人以上	
40.5 2人	1.9 4人	23.5 子どもはいない	3.0 無回答

14 ページ F 5 - 1 へ

（F5で「1」～「5」のいずれかをお答えの方に）

F5-1 一緒にお住まいのあなたのお子さんと次の中にあげるような方はいらっしゃいますか。  
n = 1,025（はいいくつでも）

8.2 0～2歳の子ども	6.4 大学・大学院在学中の子ども
10.9 3歳以上の未就学の子ども	23.6 学校を終えた未婚の子ども
20.9 小学校・中学校在学中の子ども	13.1 結婚した子ども
8.8 高校在学中の子ども	23.1 同居している子どもはいない
1.6 短大・高専・各種学校・専修学校に 在学中の子ども	6.8 無回答

F6 あなたと一緒に暮らしのご家族の構成は次の中のどれに該当しますか。n = 1,394（は1つ）

10.3 単身	46.7 二世帯世帯（親と子）	1.7 その他（具体的に）
26.8 夫婦のみ	10.0 三世帯世帯（親と子と孫）	4.4 無回答

F7 お宅には65歳以上の方がいらっしゃいますか。あなたご自身も含めてお答えください。  
n = 1,394（は1つ）

53.3 いる	45.0 いない	1.7 無回答
---------	----------	---------

F8 あなたは、千葉県に通算して何年くらいお住まいですか。n = 1,394（は1つ）

1.6 1年未満	4.4 5年～10年未満	16.1 20年～30年未満
1.7 1年～3年未満	5.5 10年～15年未満	62.6 30年以上
1.8 3年～5年未満	4.8 15年～20年未満	0.2 わからない
		1.4 無回答

F9 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。n = 1,394（は1つ）

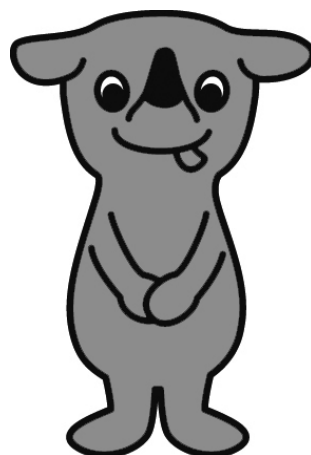
15.1 千葉市	6.0 柏市	1.3 印西市	0.6 山武郡九十九里町
1.1 銚子市	0.4 勝浦市	1.3 白井市	0.0 山武郡芝山町
7.3 市川市	4.4 市原市	0.6 富里市	0.4 山武郡横芝光町
9.7 船橋市	3.0 流山市	0.3 南房総市	0.6 長生郡一宮町
1.0 館山市	3.2 八千代市	0.5 匝瑳市	0.0 長生郡睦沢町
1.5 木更津市	2.6 我孫子市	1.6 香取市	0.0 長生郡長生村
7.9 松戸市	0.7 鴨川市	0.6 山武市	0.5 長生郡白子町
1.7 野田市	1.6 鎌ケ谷市	0.7 いすみ市	0.0 長生郡長柄町
1.7 茂原市	1.5 君津市	1.3 大網白里市	0.0 長生郡長南町
2.7 成田市	1.2 富津市	0.4 印旛郡酒々井町	0.6 夷隅郡大多喜町
2.6 佐倉市	1.7 浦安市	0.0 印旛郡栄町	0.0 夷隅郡御宿町
0.7 東金市	1.6 四街道市	0.0 香取郡神崎町	0.0 安房郡鋸南町
0.9 旭市	0.6 袖ケ浦市	0.5 香取郡多古町	1.5 無回答
2.9 習志野市	1.2 八街市	0.0 香取郡東庄町	

以上で質問はすべて終わりです。

このほかにも、県へのご意見があればご自由にお書きください。


また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。


お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。  
ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、  
1月10日（水）までに、ポストにご投函ください。なお、切手は不要です。









---

---

平成 29 年度

( 第 55 回 )

県 政 に 関 す る 世 論 調 査

平成 30 年 5 月発行

( 平成 29 年 12 月実施 )

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町 1 番 1 号

( 広聴室 ) 電話 0 4 3 - 2 2 3 - 2 4 6 9

---

---